

平成29年度
教育に関する事務の管理および執行の状況
の点検および評価等の報告書

平成30年12月

米 原 市 教 育 委 員 会

目 次

1. 点検および評価制度の概要	
(1) 背景	1
(2) 目的	1
(3) 対象事業の考え方	1
(4) 評価の方法	1
(5) 学識経験者の知見の活用	2
2. 教育委員会の活動状況	
(1) 教育委員	3
(2) 教育委員会の活動状況	3
(ア) 教育委員会議の開催および議決状況	3
(イ) 総合教育会議	3
(ウ) その他の活動状況	4
(エ) 委員の就任状況	4
3. 学識経験者による意見	
(1) 趣旨	5
(2) 学識経験者	5
(3) 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会	5
(4) 学識経験者による意見	7
4. 事務の管理および執行状況の点検および評価等	
(1) 平成 29 年度重点目標の達成状況	12
(2) 施策の体系と事務事業一覧	17
(3) 点検および評価等の結果	19
対象事業の評価一覧	20
各事業の点検および評価等	
教育総務課所管事業	22
学校給食課所管事業	30
学校教育課所管事業	33
生涯学習課所管事業	41
図書館所管事業	55
歴史文化財保護課所管事業	57
子育て支援課所管事業	61

保育幼稚園課所管事業	63
対象事業の評価の視点	64
(4) 学校等評価	68
幼稚園等外部評価	68
小・中学校外部評価	76
図書館内部評価	87
(5) 米原市教育振興基本計画（目標指標）	90

1 点検および評価制度の概要

(1) 背景

平成 18 年 12 月の教育基本法の改正および平成 19 年 3 月の中央教育審議会の答申を踏まえ、平成 19 年 6 月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律(以下「地教行法」という。)が改正され、平成 20 年 4 月に施行されました。

この地教行法の改正目的である、「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価(以下「点検および評価」という。)を行い、その結果を公表することが義務付けられました。

(2) 目的

教育委員会は、首長から独立した中立的・専門的な立場で、学校教育、生涯学習をはじめ文化、スポーツなど幅広い分野に関する施策を展開する合議制による行政機関として設置されています。点検および評価等は、教育委員会が教育行政の事務の執行状況を点検および評価し、市民への説明責任を果たすことにより、市民の意向を踏まえながら、効果的・計画的な教育行政の推進に資することを目的とするものです。

なお、点検および評価の方法、議会への報告の方法などは、教育委員会が実情を踏まえて決定することとされています。

(3) 対象事業の考え方

本年度の点検および評価の対象は、平成 29 年度の事業実績を対象とし、その対象範囲は、地教行法第 21 条に基づく「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、市長の補助執行として行っている事務を含む全ての事務が対象となります。

事業のまとめ方については、「米原市総合計画」の体系に基づく分類によりまとめることとしました。

(4) 評価の方法

評価の方法については、個々の事務事業について評価の目安となる成果指標が定まっていますが、評価について地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 233 条第 5 項の規定に基づく、平成 29 年度における主要施策の成果説明書（以下「主要施策の成果説明書」という。）の主要な施策の実績の事業分類により、教育委員会で自己点検および評価を行いました。また、平成 29 年 3 月に策定した「第 2 期米原市教育振興基本計画」における目標指標の現状値も把握しています。

(5) 学識経験者の知見の活用

「教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等の報告書」の素案をもとに、学識経験者と教育委員との懇話会を開催し、本市教育委員会の主な取組や課題について、様々な観点から議論しました。

『参考』

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」【抜粋】

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員（委員定数：5人 任期：4年）

役 職	氏 名	任 期
教育長	山 本 太 一	H29. 8. 14～H32. 8. 13
教育長職務代理者	中 川 清 和	H29. 3. 28～H33. 3. 27
委 員	河 居 郁 夫	H26. 3. 25～H30. 3. 24
委 員	本 庄 通 子	H27. 3. 25～H31. 3. 24
委 員	近 藤 由 加 里	H28. 3. 25～H32. 3. 24
委 員	膽 吹 照 子	H29. 10. 1～H33. 9. 30
委 員	法 戸 繁 利	H30. 3. 25～H34. 3. 24

(2) 教育委員会の活動状況

(ア) 教育委員会議の開催および議決状況

月 日	定例 ・臨時 の別	議 決 事 項							協議 事項	報告 事項 ほか
		条例案	規則	訓令 要綱	委員等 任命・ 委嘱等	予算案	後援等 名義使 用	その他		
H29. 4. 26	定例		2	1	2		1	1		5
H29. 5. 22	定例	1			3	2	2	1		3
H29. 6. 16	定例				2					6
H29. 7. 27	定例				1		1	2		8
H29. 8. 18	定例	1				2	1			2
H29. 9. 22	定例						6			4
H29. 10. 19	定例		1		1		1	1		3
H29. 11. 15	定例	1				1	2	2		3
H29. 12. 25	定例		1				1			3
H30. 1. 19	定例				1					4
H30. 2. 8	定例	1	1			2	1	1		3
H30. 3. 12	臨時							1		
H30. 3. 15	定例		1	1	1		3	1		4
合 計	定例 12回 臨時 1回	4	6	2	11	7	19	10	0	48

(イ) 総合教育会議

平成 27 年 4 月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成 27 年度から市長と教育委員会との協議・調整の場である「総合教育会議」を市長

が設置するとともに、教育、学術および文化の振興に関する総合的な施策の大綱を策定することが義務付けられました。市長と市教育委員会が円滑に意思疎通を図り、市の教育の課題および目指す姿を共有しながら、連携して効果的な教育行政を推進するため総合教育会議を1回開催しました。

- 平成30年2月20日（火） ・米原市コミュニティ・スクールについて
- ・小学校3年生学力補充教室「学びっ子」について

（ウ）その他の活動状況

- 学校園訪問（各小学校・中学校・幼稚園、保育所および認定こども園）
- 各校入学式および各園入園式
- 各校園運動会および体育祭
- 各校卒業式および各園卒園式
- 成人式等各種行事
- 研修等
 - ・滋賀県都市教育委員会連絡協議会
（理事会・総会・研修会・意見交流会・教育長会議）
 - ・滋賀県市町教育委員会研究協議会
 - ・近畿都市教育長協議会（総会・研究協議会）
 - ・全国都市教育長協議会（理事会・総会・研究会）
 - ・米原市教育委員県外研修

（エ）委員の就任状況

- ・米原市青少年育成市民会議
- ・米原市人権尊重のまちづくり審議会委員
- ・米原市民生委員推薦会委員
- ・米原市奨学金給付審査会委員

3. 学識経験者による意見

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るために、米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会を開催し、意見交換を行い、2人の学識経験者から意見をいただきました。

(2) 学識経験者

- 大橋松行(おおはし まつゆき)氏 滋賀県立大学名誉教授、市行財政改革市民会議座長
- 谷村敏博(たにむら としひろ)氏 元市内小学校長、体育協会会長、人権擁護委員

(3) 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会

◆日 時：平成30年10月9日(火) 9時30分から11時30分まで

◆出席者：(学識経験者) 大橋松行氏、谷村敏博氏

(教育委員) 中川清和、本庄通子、膽吹照子、法戸繁利

(教育長) 山本太一、(教育部長) 上村浩

(各所属長) 学校給食課：大澤、学校教育課：一ノ宮、生涯学習課：口分田、
図書館・はにわ館：今川、歴史文化財保護課：桂田、子育て支援
課：阿原、保育幼稚園課：奥村

(事務局) 教育総務課：西出、澤田、澤

◆意見交換での主な意見

(全般)

- ・昨年よりB評価が多くなっていて、総評としては良い。事業によっては評価をもう一段階上げても良いと思う。
- ・昨年の評価と今年の評価を比較できるようにし、昨年から評価が上がっている事業についてはポイント等の明記があると分かりやすい。
- ・様々な部署で連携を図りながら事業が展開されることで、市民もつながることができるので評価できる。(ホストタウン関連事業等) 今後も継続した事業の実施を望む。

(効率的な運営)

- ・教育総務課の施設整備など、内容も濃く計画的に進められて工夫されている。
- ・教育環境の整備が図られていることは良い。評価を次につなげるためにも、子どもや教師、親の具体的な声も聞けると良い。

(特色ある取組)

- ・学校給食では、個々に応じた食物アレルギー対応等きめ細やかな対応がなされ、安心・安全な食の提供ができていることに評価する。また、地場産活用率も県平均を8年連続で上回るなど地産地消も進んでいる。
- ・新たな給付型奨学金制度の構築および就学援助制度を改正し、入学準備金として支給されたことは評価できる。
- ・地域の行事にボランティア参加する生徒等が増え、定着してきているのが頼もしく感じる。今後も子どもたちの積極的な地域参加に期待する。
- ・学校教育では学校長に予算執行権限を設けた市独自の予算措置等により、きめ細やかな指導等がなされている。

(教育環境の充実)

- ・小中学校の施設整備なども進んできているが、上手く活用できるかが課題である。
- ・子どもケアサポーター数等も充実しており、手厚い対応ができている。活動が縮小しないよう指導を交えながら継続したサポートを期待する。
- ・特別支援教育に関する知識を身につけるための取組が必要であり、学校長が率先することが大切である。

(生涯学習の充実)

- ・市民に身近な活動に参加できるよう事業の改善等がなされている。
- ・人権教育研修の参加者等が昨年と比べ減少している。マンネリ化等の声もあるため、工夫が必要である。

（４）学識経験者による意見

◆滋賀県立大学名誉教授 大橋松行氏 による意見

米原市教育委員会の「平成 29 年度 教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等」について、以下に報告します。

米原市では、平成 27 年度から第 3 次行財政改革大綱および同実施計画に取り組み、行政経営の効率化に努めておられます。今後、市の財政状況は、生産年齢人口の減少等によって歳入が減少する一方で、多くの公共施設などの更新に伴う財政需要や社会保障関連費の増大等によって、厳しさを増すことが予想されます。また、社会経済環境が大きく変化中、多様化する市民ニーズに的確・持続的に対応していく必要があります。

行財政改革は、単に経費節減を図るだけでなく、持続可能な行財政基盤の確立を推進するとともに、効率的で効果的な行政運営および地域経営を実行しようとするものです。公民連携は、多様な主体との連携や民間活力の活用を積極的に推進することを目的としており、これは教育の分野においても適用されるものです。

今ひとつ、平成 28 年度に策定された第 2 期米原市教育振興基本計画に基づいて、子ども目線で様々な取組を進めるとともに、家庭の教育力や地域全体の教育力を高めていく必要があります。

主にこのような観点から、教育に関する事務の管理および執行の状況について、以下に具体的に意見を提示したいと思います。

まず、全般的には各主管課の事務評価において全 36 事務事業中 A 評価が 5、B 評価が 14、C 評価が 17 で、平成 28 年度に比べ格段に高い評価となっています。特に、教育総務課と学校給食課では顕著な成果を上げておられます。この点については高く評価できます。

次に、各主管課の事務事業について見ていきます。第 1 に、教育総務課です。事務局教育振興事業および小学校・中学校教育振興事業では新しい取組が行われています。前者では、将来を担う人材の育成および市への定住促進を目的とした給付型奨学金制度を設け、最終的に 29 人に給付しています。後者では、要保護準要保護児童生徒就学援助費について、新入学児童生徒学用品費を入学準備金として支給できるよう制度改革を行い、このことが、有益な援助につながっています。また、小学校・中学校施設整備事業では、大規模改修（トイレ改修およびエレベータ等整備）を計画よりも前倒しで着手しており、これらの事業は高く評価して良いと思います。ただ、スクールバス運行および路線バス等での通学については、引き続き該当地域（自治会等）の見直し等の検討が必要かと思われます。

第 2 に、学校給食課です。学校給食総務管理事業では、アレルギー対応者 127 人全員に対して、個別の代替食のメニューを栄養士が考案し、調理師と連携してきめ細やかな対応をしています。学校給食事業では、地場産活用率が県平均を 8 年連続で大きく上回っていることは高く評価できます。引き続き地産地消メニューの開発・推進に御尽力いただくとともに、安心・安全な給食を提供していただきたいと思います。また、ホストタウン事業と

して、1学期に1度の割合で、学校給食メニューにニュージーランド給食を取り入れ、同国の文化に触れさせられたのは、新鮮な取組だったと思います。

第3に、学校教育課です。事務局教育振興事業では、特に市独自の予算措置により全学年の35人学級編成を行い、きめ細やかな指導がなされていることや、学校経営支援員の配置が一定の成果を収めたこと、学校支援地域本部事業を全ての中学校区で立ち上げ、地域に根差した魅力ある学校づくりを推進されたことは評価できます。小学校・中学校教育振興事業では、学校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度が各学校の実情に応じた環境改善等に生かされている点は評価できますので、今後も継続されることを望みます。また、双葉中学校陸上部の男子リレーチーム全国優勝をはじめ、各校で優秀な成績を収めていることは、素晴らしいことだと思います。ただ、子どもサポート事業において、特別支援が必要な児童生徒が平成28年度に比べ大きく増加していますので、適切な対応が重要になってくると思います。

第4に、生涯学習課です。地域人材育成事業では、公開講座で市民団体、県立大学、公民館等と共催することで参加者層を広げ、経費の縮減につながったことは評価できます。市民交流プラザ管理運営事業の自主事業（公演事業）では、入場者数・入場料収入ともに前年度を大幅に上回っており高く評価できるのですが、ルッチプラザ・ベルホール310の稼働率が低く、改善の余地があるように思います。また、人権教育推進事業では、地域人権リーダー研修会を除いて参加者数が前年度を下回っており、事業のマンネリ化が気になります。

第5に、図書館です。図書館管理運営事業では、平成29年度から夏休み前に小学1年生に図書館利用カードを配布し、夏休み以降の利用促進につなげることができたことは評価できると思います。

第6に、歴史文化財保護課です。特に文化財保護事業では、萬留帳において保存と活用を図るために翻刻調査が行われたことは、特筆すべきことだと思いますし、文化財施設管理運営事業で、各資料館・歴史館が米原とのつながりをテーマとした企画展等を開催し、市内外へ米原の魅力を発信されたことは評価できます。市内には他にも全国に誇れる地域資源が豊富にありますので、今後とも積極的に情報発信されていくことを望みます。

最後に、子育て支援課および保育幼稚園課です。特に少年センター事業では、事務局職員、警察署との連携による継続的な活動が、非行・補導件数の低調につながる成果を生み出していますので、今後も継続して取り組まれることを期待します。また、幼稚園管理運営事業では、市の未来のためにも、18歳未満の第2子以降について引き続き保育料の無料化を実施していただきたいと思います。

以上、各主管課の主たる事務事業について意見を付してきました。平成29年度の米原市教育委員会は、事業によっては多少の課題はあるものの、おおむね十全に機能していると思います。今後とも、効率的・効果的な教育行政を推進するとともに、地域住民の民意を十分に反映していただくことを期待致します。

◆元市内小学校長 谷村敏博氏 による意見

「平成 29 年度教育に関する事務の管理および執行の状況の評価等の報告書」の素案をもとに開催されました懇話会に昨年に続き参加しました。今年度の懇話会は、関係各課からの説明があり、具体的で内容が分かりやすく感じました。数年教育行政に関わったことはありますが、学校教育現場を主とした経験です。また、教育現場を離れて 10 年以上になります。点検・評価に関して、今までの経験を生かし、少しでも参考になる意見を述べたいと思います。

昨年度の各事務事業の評価と比べ、A 評価は 4 つ増、B 評価は 7 つ増、C 評価は 12 減となっています。前年度に比べて大きな進歩が見られます。また、評価対象の 36 の事務事業全てが C ランク以上となっています。これは、教育行政が極めて適正に遂行され、成果を上げている証拠だと思います。各事業の実績や評価の内容の記述で読み取ることができます。

以下、各事業の評価について意見を述べたいと思います。

(教育総務課に関わること)

- ・特筆すべき内容は、給付型奨学金制度、入学準備金支給制度の構築です。教育を受ける権利の機会均等、平等性を確保する意味で意義ある制度だと思います。また、本市の人口減に少しでも歯止めをかける効果も期待できるのではないかと思います。
- ・施設設備は、国の補助金制度を活用して計画的に進められ、教育環境の整備が進んできています。今後も、各種教育施設が快適な環境の中で活動できるよう一層の充実に期待します。

(学校給食課に関わること)

- ・127 人の食物アレルギーの園児児童生徒に対する代替食、除去食ときめの細かい個別対応には頭が下がります。アレルギーの対象食材の範囲は広がり、年々複雑化しているように思います。子どもたちのアレルギーに関する情報の共有化や教育センター事業とタイアップした教職員の研修を実施してはと考えます。
- ・食の楽しさを味わえるように献立内容に様々な工夫が見られます。ホストタウン事業の一環としてのニュージーランド給食は学期 1 回(昨年度は年 1 回)に増えています。食育の中心は家庭だと考えています。献立表やウェブサイト、試食会、親子料理教室の開催などを通して情報提供し、家庭の食に関する理解を深める工夫が見られます。
- ・地場産物活用率は県平均を大幅に上回っています。しかも、8 年連続という点にも敬意を表します。今後も、関係団体や地元農家の協力を得て、安心・安全な給食が提供されることを希望します。

(学校教育課に関わること)

- ・年度途中での学級児童数が 35 人を越えた学級に対して市単独の予算で少人数指導講師を配置したことは、教員の負担軽減や教育効果の向上に大きな役割を果たしている

と思います。今後も継続するとともに、「働き方改革」が言われている今日、学級担任の事務処理負担の軽減に努めて頂きたい。

- ・双葉中学校男子陸上部が、4×100mリレーで中学新記録で全国制覇したことは快挙です。選手のたゆまぬ努力とともに、選手の可能性を最大限に引き出した指導者、周囲の人々の協力があってのことだと思います。これが、良き伝統になることと期待しています。
- ・県費や市費によるサポーター派遣事業は、特別に支援が必要な個に応じた指導に大きな成果を上げていると思います。児童生徒数は減少しているなか、特別支援を要する児童・生徒数の大幅な増加が気になります。子ども支援のサポーターとして、生き生きと活動していけるよう、サポーターと学校教職員の連携を十分図る必要があります。
- ・学校校務員の臨時職員の割合（小学校8校/9校、中学校4校/6校）が高く、学校校務員の職務をどのように考え、今後どのような任用形態になるのかが少し気になります。
- ・学校長に一定の予算執行権限を設けることにより、校長が目指す学校像実現のための学校経営がより推進されているのではないかと思います。
(生涯学習課に関わること)
- ・全体として前年度全てC評価(12)だった事業が、B評価が5、C評価が6と大きな成果を上げています。関係者の努力に対して敬意を表します。
- ・各種社会教育団体(子ども会、文化協会、体育協会、スポーツ少年団など)の所属員が、人口減以上に減少している現状があります。この現状を打破するための施策を工夫する必要があります。
- ・米原市芸術展覧会については、見直しが必要ではないかと思います。特に美術部門では、出品点数が微増したものの、市内出品者割合が32%と大幅に減少しています。関係団体と協議し、出品数、市内出品者の割合の増加につながるように再考してはどうでしょうか。
- ・市民交流プラザ事業では、幾つかの団体との共催事業により、予算の削減や参加者数の増にもつながり、事業効果を上げているように思います。今後も、団体の調整は大変ですが共催事業を推進していったらどうでしょうか。
- ・生涯学習センターの今後についていろいろな要望があると聞いています。各地域にある公民館や公共施設(ジョイ伊吹、ルッチプラザなど)の充実と活用によって市民の学習の場が確保できるのではないかと思います。
- ・市内にある4つの総合型地域スポーツクラブに、組織運営や事業展開に大きな違いがあるように思います。クラブ間の交流をもっと充実し、それぞれのクラブが持っている良さを取り入れられるような変革を望みます。
- ・図書館職員の評価を基に、図書館事業全体の点検・評価をしていく丁寧な取組は大いに評価されるものだと思います。情報提供、資料室としての図書館の機能が年々充実

しているように思います。図書館事業の評価を、貸出冊数や利用者数という数的評価でなく、利用しやすい図書館、温かい雰囲気を感じる図書館など利用者の満足度を大切に評価することが必要ではないかと思っています。

以上、懇話会での説明や話し合いを基に、教育に関する事務評価について私の思いを述べさせていただきました。「第2期米原市教育振興基本計画」（平成29年3月策定）「スポーツ推進計画」（見直し）等を指針として、刻々と変化する時代の要請を的確にとらえ、米原市の教育充実のため教育行政に関わっておられる皆様の真摯な取組に対して深く感謝致します。点検・評価は、事業の反省に終わるだけでなく、次の事業展開に生きてこそ値打ちが出ます。今年度の点検・評価が今後の米原市民を対象とした教育施策に大いに生きて働くことを期待しています。

4. 事務の管理および執行状況の点検および評価等

(1) 平成 29 年度重点目標の達成状況

米原市では、市の長期計画に沿った政策や市長の施政方針、さらには庁内部長会議で合意された重点事項等を踏まえ、部局別重点目標を設定し、目標達成に向けた取組を進め、成果を評価しています。

平成 29 年度終了時点における教育部の重点目標の達成状況は、以下のとおりです。

【達成度】

達 成 度		項 目 数
達成度 5	目標を上回る成果	
達成度 4	目標をやや上回る成果	7
達成度 3	目標どおりの成果	12
達成度 2	目標をやや下回る成果	2
達成度 1	目標を下回る成果	

計 21 項目

平成29年度教育部重点目標調査

部長	田中 博之	次長	口分田 剛
----	-------	----	-------

【仕事に対する姿勢】

平成28年度に策定する米原市教育振興基本計画に基づき、「ともに学び、ともに育つ。学びあいのまち まいばら」を目指します。子どもから高齢者まで一人一人が生き生きと暮らし、生き生きと学ぶことができる教育環境づくりを進めます。平成28年度に引き続き、自分と家族、学校、地域、米原市それぞれを大切にするという意識で取り組みます。

- ・自分と家族を愛し、大切にします。心豊かでたくましく生きる力を育みます。
- ・小規模校ならではのメリットを生かし、地域で支える魅力ある学校づくりを進めます。
- ・地域で活躍する人材の育成と、地域のコミュニティ組織等による学習活動の拡大を図ります。
- ・米原市の魅力を最大限生かした教育の展開を進めます。

【重点目標】

（単位：千円）

施策レベル			事務事業（細事業）レベル							上半期進捗状況			年度末達成状況					
重点目標タイトル	重点目標の概要	成果目標達成指標	総計の位置付け	骨格指標	政策指標	総合戦略	重点目標達成に向けた主な事務事業（細事業）	事務事業（細事業）の概要	成果目標達成指標	概算予算額	所管名称	上半期の取組結果 （成果目標達成指標等）	進捗度	下半期の取組方針	取組結果（達成状況）	成果目標達成指標	達成度	今後の取組方針
			新規規	拡充	継続	維持				うち一般財源額	（部・課）							
自分と家族を愛し、大切に する米原市（人） になろう。 ・健やかで安心して暮らします。 ・心豊かでたくましく生きる力を育みます。 ・生きがいや充実感をもって暮らします。 ・子どもたちが安心して伸び伸びと育ちます。	・米原市の児童生徒に対し、楽しい授業、分かる授業を提供し、活気と落ち着きのある学級づくりに取り組みます。 ・米原市の児童生徒に対し、自尊感情を醸成し、いじめの未然防止と早期発見・早期解決に総合的・組織的に取り組みます。 ・35人学級編制や少人数指導を継続して実施し、児童生徒の状況に応じたきめ細かな学習指導を行います。 ・家庭の教育力向上を個々の家庭のみの問題にするのではなく、関係機関が相互に協力し、地域一体で取り組みます。 ・家庭の中で親、子、孫、それぞれが役割を持ち、お互いを大切にします。	・いじめ防止等のための施策の推進 ・社会において自立的に生きるために必要な思考力、判断力、表現力 ・市役所各課における家庭の教育力向上事業の展開 ・家庭内での役割分担、家庭でのインターネットの利用に関するルール作り ・家族の中で話し合う時間の増加	2	1	①	1	確かな学力の保証と体力の向上	■35人学級編制、少人数指導を実施し、個々に応じたきめ細かな指導を進めます。 ■学力学習状況調査、生活実態調査を実施し、学ぶ力向上策を策定して、指導法改善に努めます。 ■学力の2極化を解消するために、小中学校において補充学習や個別指導を進めます。 ■中堅教員研修の充実を図るため、支援員による学校訪問を実施し、指導力向上に努めます。 ■体力向上のために、運動プログラム（運動遊びを取り入れた10分間運動）に取り組みます。	35人学級編制の完全実施と学力状況調査を全国平均にする。	17,799	学校教育課	・すべての小中学校で35人以下の学級編制を実施し、個々に応じたきめ細かな指導を行った。 ・全国学力学習状況調査では、小学校国語で若干低かったが、そのほかは概ね全国平均並みの結果であった。	順調	・年度途中で36人になった学級にも少人数指導のできる講師を配置するなど、引き続き個々に応じたきめ細かな指導ができる体制を整える。 ・全国学力学習状況調査の結果から、各校で実態を把握分析し、有効な授業改善を図る。	■年度途中で36人になった2校2学年で、非常勤講師を派遣し少人数指導による指導の充実を図った。 ■市および国の学力学習状況調査の結果を分析し、各学校ごとに学力向上策を策定し、実行した。	■35人学級編制の完全実施（少人数指導の加配配置を含む）。 ■学力学習状況調査の結果は、中学校では概ね全国平均、小学校では国語で全国平均から5ポイント程度低い結果となった。	A：目標をやや上回る成果	■具体的学習内容から抽象的な学習内容に変わる小学校3年生を対象にした放課後補充教室「学びっ子」事業をすべての小学校で実施する。 ■年度途中も含めて35人学級等きめ細かな指導充実体制を確立する。
					②					76								
			2	6	③	2	いじめ問題行動の未然防止	■米原市いじめ問題専門委員会により、学校・教育委員会・子どもサポートセンター・少年センター・警察等が連携し、いじめ問題への早期対応や未然防止に努めます。 ■SSW（スクールソーシャルワーカー）やいじめ等対応支援員の効果的な活用を進めます。 ■STOPいじめ米原生徒会フォーラムを開催し、いじめ撲滅の取組を全中学校で取り組みます。	いじめ・問題行動の減少と未然防止	1,374	学校教育課	・定期的に米原市いじめ問題専門委員会を開催し、いじめの未然防止・早期対応についての指導助言を受けた。 ・STOPいじめ米原生徒会フォーラムを実施し、市内共通のスローガンを決めた。	順調	・引き続き関係機関等と連携しながらいじめ・問題行動の減少と未然防止に努める。	■いじめ問題専門委員会において、国・県の改定に併せて市の「いじめ防止等の基本方針」改定の事務作業を進めた。 ■いじめ問題への対応や未然防止に向けた取組について、いじめ問題専門委員会で協議し、小中学校への必要な支援、指示・措置を行った。	■いじめの報告件数 H28：46件 H29：43件 （3月1日）	B：目標通りの成果	■早期発見早期対応のシステムを構築する。
					②					75								
			2	2	②	3	家庭の教育力向上事業	■職員ワーキングチームの意見等を参考に、リーフレットの改訂を行い、子育て世代の家庭へ配布するとともに、市の広報媒体を活用して家庭の教育力向上について啓発に取り組みます。 ■保幼小中のPTA、青少年育成市民会議や職員ワーキングチームをはじめとする教育・子育て関係部局との横連携を取り、保護者と地域の意識改革を目指して家庭教育フォーラムを開催し、家庭教育力の向上を図ります。	家庭の教育力向上事業の実施	110	生涯学習課	■職員ワーキング会議 ・家庭の教育力向上に関する調査・研究の実施（5月20日、8月22日） ・家庭教育の総合通信「まいふぁみ」（夏号）の発行（6月） ■家庭教育フォーラムの開催 開催日：4月22日 参加者数：60人 ※子ども会、ルッチまちづくり大学共催	順調	家庭の教育力の向上に向けた調査および研究をすすめる、家庭の教育力の向上を図る。	■職員ワーキング会議 ・家庭の教育力向上に関する調査・研究の実施（11月21日） ・家庭教育の総合通信「まいふぁみ」（秋号：9月、冬号：12月）の発行	■家庭の教育力向上事業の実施 ・啓発図書による家庭の教育力向上に向けた啓発 ・フォーラムによる、保護者および地域の意識改革	B：目標通りの成果	■家庭の教育力向上を図るため、「家庭教育フォーラム」を開催してきたが、子育て世帯の参加が少ない、事業のゴール設定が曖昧などの課題が見えてきたことから、各地域ごとに「家庭教育カフェ」を開催し、子育て世帯の教育についての状況把握を行い、事業のゴールを再設定する。
					②					78								

施策レベル			事務事業（細事業）レベル							上半期進捗状況			年度末達成状況					
重点目標タイトル	重点目標の概要	成果目標達成指標	総計の位置付け			重点目標達成に向けた 主な事務事業（細事業）	事務事業（細事業）の概要	成果目標達成指標	概算 予算額		所管名 （部・課）	上半期の取組結果 （成果目標達成指標等）	進捗度	下半期の取組方針	取組結果（達成状況）	成果目標達成指標	達成度	今後の取組方針
			新規規	拡充	継続				削減	うち一般財源								
2 学校を愛し、大切に する米原市 （人）になろう。 ・ともに学び合い輝き合う学校づくりを行います。 ・学校支援活動、地域に開かれた学校づくりを行います。 ・小中学校の連携による学習支援を行います。 ・小規模校ならではのきめ細やかな教育の推進を図ります。	・安全、安心で快適な教育環境の整備を進めます。 ・小規模校のメリットを生かした取組やデメリットを克服する取組を推進します。 ・地域に根ざした学校として、学校支援地域本部事業、特色ある学校づくりなど、地域あげての「学校応援隊」機能を強化します。 ・小中連携による9年間を見通した教育活動を行います。 ・電子黒板やタブレット型パソコンなど、ＩＣＴを活用した学習環境の整備を図ります。 ・教育課程特例校の指定やＡＬＴの拡充など、外国語教育・国際理解教育の推進を図ります。	・地域との連携、小中学校の連携の度合 ・学校評議員による学校評価 ・保護者からの評価の声 ・地域の特色を生かした安心・安全な給食の提供および食を通じた学習環境の充実度	2	2	①	1 特色ある学校づくり事業	■地域人材を活用して、地域学習を推進します。 ■学校と地域との連携の在り方を考える教育フォーラムを各中学校区で開催します。 ■校長面談により、学校現場の切実な声を把握して、各校の実状や教育目標に合わせた予算執行の一部を校長に委ねます（学校経営予算）。	地域連携、小中連携による小規模校の教育活動の充実	7,690	学校教育課	・各校の特色に応じて、地域と連携しながら、地域に根ざした教育活動を進めた。	順調	・引き続き、各校の特色に応じて、地域と連携しながら、地域に根ざした教育活動を進める。	■各校の特色に応じて、地域と連携しながら、地域に根ざした教育活動を進めた。 ■すべての中学校区で校区の教育を語り、考える「教育フォーラム」を実施した。	■全中学校区で「教育フォーラム」を実施	A：目標をやや上回る成果	■特色ある学校づくり事業予算・学校経営予算の有効活用	
					②				74									39
			2	2	①	2 学校支援地域本部事業	■地域コーディネーターを配置し、学校を支援するボランティア活動を組織的なものとします。 ■5本部を拡大し、7本部として、市内全域で事業を進めます。	地域ボランティアの組織化	2,570	学校教育課	・地域コーディネーターや学校担当者を集めて研修会を実施し、事業趣旨の徹底を図った。	順調	・地域と共にある学校づくりに向けて事業を推進する。 ・市内1校をコミュニティ・スクールに指定する準備を進める。	■学校支援地域本部をすべての中学校区に立ち上げ、学校支援の組織を整備した。 ■コミュニティ・スクール指定校に3中学校を指定し、モデル事業を行う体制を整えた。	■すべての中学校区で本部事業を実施	A：目標をやや上回る成果	■コミュニティ・スクール指定校の拡大	
					②				74									39
					①	3 小規模校交流事業 小中連携教育推進事業	■スクールバス等を活用し、互いの学校を訪問して、合同授業や合同行事を行います。 ■小中学校9年間を見通した学習指導、生徒指導ができるように小中学校の教員・児童生徒の交流を進めます。	教員交流、児童生徒交流、専科指導の促進	0	学校教育課	各校の状況に応じて小規模の小学校同士や小・中学校の教員・生徒の交流を行った。	順調	さらに、大胆に小学校同士や小中学校の連携事業を進める。	■小学6年生が1日中学校で生活するなど交流を進めた。	■柏原小・中、河南小・中で実施	B：目標通りの成果	■合同授業や専科指導による交流の推進を図る。	
					②				74									38
					②	4 公平なＩＣＴ環境整備（小中学校教育振興事業）	■児童生徒のＩＣＴ教育環境は公平でなければなりません。計画的に整備を進めます。 ■電子黒板の導入計画を推進し、学習活動の質を高めるとともに、主体的な学びを創造します。 ■教育用コンピュータの整備に伴い、タブレット型パソコンを配備して、ＩＣＴを活用した授業展開ができる環境を整えます。	ＩＣＴ機器を活用した授業の充実	143,306	学校教育課、教育総務課	・当初のプロジェクター型からテレビ型に変更し、入札から業者決定まで進んだ。 ・各小中学校のコンピュータ教室のパソコンの更新に伴い、普通教室でも使用できるタブレットパソコン購入のため、事務手続きを進めた。	やや遅延	・早急に各学校に配備し、活用についての研修会を実施する。 ・タブレットパソコン購入および設定業務委託を完了し、ＩＣＴを活用した授業展開ができる環境を整える。	■各小中学校にタブレットパソコンを配備し、設定業務を完了した。併せて校内ネットワークシステムの構築を行い、セキュリティを強化した環境を整備した。 ■計画的に小中学校に電子黒板を配置し、授業改善を促進した。 ■教育センターＩＣＴ活用に関わる調査研究部会で1年間研究した成果を発表し、市内で共有した。	■ＩＣＴ機器を活用した授業の充実 ■小学校4年生全教室と中学校1年生フロアに1台ずつ電子黒板の配備	A：目標をやや上回る成果	■中学校4校（米原中・河南中除く）のパソコン教室のパソコンの更新を行うとともに、各中学校にタブレットパソコンを配備し、ＩＣＴ環境の整備を行う。 ■小学校5・6年生、中学校2・3年生フロアに1台ずつ電子黒板を配備する。 ■電子黒板活用の状況を検証しつつ、拡充を目指す。	
					①				74									38
		②	5 英語教育、外国語活動の推進	■小学校5校を教育課程特例校に指定して、独自の教育課程のもとで英語教育の推進を図ります。 ■ＡＬＴを拡充して、英語教育、外国語活動の推進を図ります。 ■夏休みを活用して小学生によるイングリッシュサマーフェスを開催します。	英語教育、外国語活動の充実	32,929	学校教育課	・小学校5校で独自の教育課程による英語教育を推進した。オールイングリッシュに近い授業が実践されている。	順調	・残りの4校も教育課程特例校の申請を行う。 ・効果的な指導方法等実践を交流する。	■教育センター英語教育に関わる調査研究部会で1年間研究した成果を模擬授業形式で発表し、有効な指導方法について市内で共有した。	■授業の8割を英語で行う授業の実施 ■夏・冬2回イングリッシュ・フェスを実施	A：目標をやや上回る成果	■市内全9小学校での教育課程特例校としての英語教育の充実を目指す。				
		①				32,929												
		②	6 小中学校施設整備事業	■安全安心で快適な施設整備を計画的に進めます。 グラウンド整備（大原小、河南小）、校舎棟防水工事（伊吹山中）、エレベータ改修設計（伊吹山中）、電話システム更新ほか	整備計画に基づく施設整備	164,584	教育総務課	◇主な工事は第1四半期で発注し、学校が夏休み期間中に工事が終わるように進めた。 【完了した主な工事等】 グラウンド改修（大原小・河南小）、河南小プール補修、電話システム更新工事（河南小・春照小・伊吹山中）、伊吹山中校舎棟防水工事、大東中カーテン改修、校務用パソコン購入 【発注済の主な事業】 トイレ改修工事設計（柏原小・山東小・米原中・河南中）、体育館照明改修工事設計（伊吹小・春照小・米原中）、伊吹山中ＥＶ設置工事設計	順調	・残りの工事等については、年度内早期に完了する。	■平成29年度に予定していた工事および設計業務については、順調に完了している。 また、トイレ改修工事（柏原小・山東小・米原中・河南中）および伊吹山中エレベータ設置工事については、平成29年度国の補正予算において学校施設環境改善交付金の交付内示を受け、財源確保とともに工事が着手できることとなった。	■平成29年度に予定していた工事および設計業務については、順調に完了している。	A：目標をやや上回る成果	■トイレ改修工事および伊吹山中エレベータ設置工事に着手するとともに、安全安心で快適な施設整備を計画的に進める。				
		②				10,150												
		②	7 学校給食運営事業	■施設の老朽化に伴う調理機器等の不具合に対し、迅速かつ適切な維持管理に努めます。 ■膳材料費等の実績に基づき、給食費の設定根拠を明確なものとします。 ■安心・安全な学校給食の提供を確実にしながら、栄養バランスの良い調和のとれた給食を追及していくことで、「食育」も同時に推進していきます。	・年次改修計画を作成する。 ・給食費の改定を進めていく。 ・地場産物の取り入れを充実させる。（35%以上） ・食物アレルギー対応や異物混入に対しては、細心の注意を払うとともに残菜率については、7％以下を目指す。	350,600	学校給食課	・地場産物活用率は6月調査で42.0%になった。 ・異物混入マニュアルを8月に策定しました。 ・食物アレルギーには、学校・センター・家庭の三者が連携を密にして取り組みました。 ・東部給食センターでは、1学期の残菜率が6.2%でした。また、西部給食センターでは、8.4%でした。 ・調理機器等の不具合に対しては、そのつど迅速な対応をしました。	概ね順調	・地場産物活用率35%以上を目指します。 ・残菜率平均7％以下を目指します。 ・引き続き施設の適正な維持管理に努めます。 ・9月～11月に食物アレルギーの調査を実施します。 ・給食費については物価の状況等情報収集に努めます。	■地場産物活用率は最終的に42.0%と県平均28.5%を上回った。 ■随時、食物アレルギーには、学校・センター・家庭の三者が一体となって対応し、個別に来年度に向けての調査を行った。 また、3月には対応検討委員会を開催した。 ■2学期の残菜率は、東部が4.8%西部は8.1%で、全体では6.7%となった。 ■1月に蒸気発生器の蓄熱槽の交換工事の発注をし、3月に完了した。	■地場産物活用率35.0%以上達成 ■残菜率7％以下達成 ■異物混入マニュアル策定済み。 ■県下の市町を対象として給食費に関するアンケート調査を実施した。	B：目標通りの成果	■改定時期も含めた給食費の見直しをするための情報収集等に努めていく。 ■地場産物の活用率については、H29年度並みを目指し、アレルギー対応も含め、安心・安全な給食を提供していく。				
		①				169,405												

施策レベル			事務事業（細事業）レベル										上半期進捗状況			年度末達成状況			
重点目標タイトル	重点目標の概要	成果目標達成指標	細計の位置付け		政策提議案	総合戦略	重点目標達成に向けた主な事務事業（細事業）	事務事業（細事業）の概要	成果目標達成指標	概算予算額 うち一般財源額	所管部署（部・課）	上半期の取組結果 （成果目標達成指標等）	進捗度	下半期の取組方針	取組結果（達成状況）	成果目標達成指標	達成度	今後の取組方針	
			新規規	継続充															
地域を愛し、大切に する米原市（人）になろう。 ・人と地域を豊かにする学び合いに取り組みます。 ・生涯にわたって豊かに学び合い、いきいきと活動できる環境をつくります。	・地域で活躍する人材の育成と、地域のコミュニティ組織等による学習活動（文化・スポーツ等）に取り組みます。 ・スポーツ発信拠点機関を設けて、各スポーツ団体との連携強化を図ります。 ・総合型地域スポーツクラブなど地域に根ざした活動を支援します。	・市民への多様な学習機会の提供 ・市民意識調査における生涯学習の推進に対する評価 ・スポーツを楽しむ市民の満足度	2	3	①	1	出前講座	■市の職員等が、市民の学び続ける意欲に応え、市民生活や生涯学習の推進に役立つ情報を市民の皆さんに直接お届けします。	出前講座の実施回数：260件	0	生涯学習課	新規に13講座メニューに追加し、講座メニューの充実を図ることができました。 ■出前講座実施回数：164件（9月5日現在）	順調	■引き続き、サロンや小・中学校、地域活動団体へ学びの機会を提供します。 ■年度末に講座メニューの更新を行いメニューのブラッシュアップを図ります。	■出前講座の充実をはかり、多くの団体、サークル等に活用いただきました。 出前講座の実施回数：267件	■出前講座の実施回数260件（年間）	B：目標通りの成果	■引き続き、サロンや小・中学校、地域活動団体へ学びの機会を提供します。 ■年度末に講座メニューの更新を行いメニューのブラッシュアップを図ります。	
					②					0									
			2	3	②	2	ルッチまちづくり大学開催事業	■まちづくりの現場で主体的、持続的に動ける人材育成のため「ルッチまちづくり大学」を開講します。企画運営は、市民立大学を志向して「ルッチみらい会議」を中心とした市民主導型で行います。	ルッチまちづくり大学における（市民）自主企画講座の実施件数：4件	878	生涯学習課	「先輩インタビュー（卒業生の活動研究）」を通して、現役生と卒業生の繋がりを強化し、今後の活動の基盤を強化することができました。 ■（市民）自主企画講座の実施件数：1 ■公開講座の実施回数：2件	順調	■（市民）自主企画講座を含めて、公開講座を開催します。 ■報告会にむけ、「居場所作りグループ」「地域資源活用グループ」に分かれて、実践研究活動を行っていきます。	■市民主導型の企画運営を活発に展開しました。 ・ルッチみらい会議：7回開催 ■現役生、卒業生を中心とした新規の市民協働事業団体が立ち上がりました。 ・米原駅西口円形広場「りのべ」ぶるじえくと ■卒業に向けて、実践研究活動を推進しました。 ・「居場所グループ」「おもてなしグループ」	■（市民）自主企画講座の実施：8件 ■公開講座の実施回数7件	B：目標通りの成果	■平成30年9月の卒業に向けて、持続可能で、社会還元できる実践研究活動を目指します。 ■市民主導型の企画運営を推進し、卒業生の活動支援を行います。 ■平成30年10月から9期生を開講します。	
					②					658									
			2	3	①	3	学習成果の社会還元	■学習成果を社会還元し、さまざまな教育活動の機会提供を図れるよう「まなびサポーター」の活躍の場を提供し、学びの循環を図ります。	まなびサポーターの登録人数138人	90	生涯学習課	学んだ成果を生かし、市民が指導者（まなびサポーター）としてまちづくりに取組んでいただきました。 ■制度活用件数：8件 ■まなびサポーター数：214人	順調	■サロン・学校・地域活動団体等へ制度の周知や、利用促進を図っていきます。	■学んだ成果を生かし、市民が指導者（まなびサポーター）としてまちづくりに取組んでいただきました。 ・制度活用件数：61件 ・まなびサポーター数：214人	■まなびサポーターの登録人数：135人	B：目標通りの成果	■サロン・学校・地域活動団体等へ制度の周知や、利用促進を図っていきます。	
					②					90									
			2	6	①	4	人権教育推進事業	■人権が尊重されるまちづくりを進めるため、きらめき人権講座、人権を考えるつどいの内容の充実を図ります。 ■人権教育推進員と連絡を密にし、各自治会がハートフル・フォーラムを主体的に実施できるよう図ります。	ハートフル・フォーラム実施率：80％以上	1,435	生涯学習課	市民の人権意識、人権感覚の向上を目的として、地域人権リーダー研修会、きらめき人権講座を開催し、人権学習の機会を提供しました。 ■地域人権リーダー研修会参加者数：264人 ■きらめき人権講座 参加者数：第1回 58人 第2回 57人 ■ハートフル・フォーラム申込率：41.1％	順調	■ハートフル・フォーラムを各自治会で主体的に実施していただけるよう推進します。特に外部講師を呼んでハートフル・フォーラムを開催していただけるように支援を行っていきます。	■各種人権講座、研修会を開催し、市民の人権意識、感覚の向上を図りました。 ・きらめき人権講座参加者数 第1回 58人・第2回 57人 第3回 64人・第4回 56人 ・ハートフルフォーラム実施率：79.4％（85/107自治会）	■地域リーダー研修会参加者数：264人 ■ハートフル・フォーラム実施率：79.4％	B：目標通りの成果	■ハートフル・フォーラムを各自治会で主体的に実施していただけるよう推進します。特に外部講師を呼んでハートフル・フォーラムを開催していただけるように支援を行っていきます。	
					②					1,187									
			2	5	③	5	スポーツ発信拠点事業	■（公財）伊吹山麓スポーツ文化振興事業団を市のスポーツ活動を牽引する拠点とし、市のスポーツ推進業務のうち、市体育協会やスポーツ少年団事務局、夢高原かつとび伊吹、いきいき健康ウォークの事務局機能を移管するとともに、市内のスポーツ団体や市民のスポーツニーズへの対応、情報共有できる場としての体制づくりに努めます。 行政においては、スポーツ推進計画に基づき、市のスポーツ推進の方向性や施策の検討、スポーツ推進委員協議会等の運営など行政が行うべきスポーツ推進に取り組みます。	スポーツの推進満足度：85％（平成30年度目標値）	11,450	生涯学習課	・市のスポーツ活動拠点を（公財）伊吹山麓スポーツ文化振興事業団とし、平成30年4月から市のスポーツ推進を行うため、市と事業団の共通理解を図り具体的な事務事業について協議を行っています。 また、市体育協会やスポーツ少年団などスポーツ関係団体とも協議調整を行っています。	やや遅延	・（公財）伊吹山麓スポーツ文化振興事業団や関係団体との計画的な協議を進めるとともに、人的、財政的な内部協議を行い、次年度予算編成に盛り込みます。	■スポーツ発信拠点の整備について、（公財）伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団等の関係団体との協議を進めてきたが、市のスポーツ推進における将来ビジョンや方向性を具体的に示すなど再検討の必要がある。	—	C：目標をやや下回る成果	■H30年度のスポーツ推進計画の見直しに合わせ、市のスポーツ推進における将来ビジョン、方向性を審議する。	
					②					11,450									

施策レベル			事務事業（細事業）レベル										上半期進捗状況			年度末達成状況			
重点目標タイトル	重点目標の概要	成果目標達成指標	設計の位置付け				重点目標達成に向けた 主な事務事業（細事業）	事務事業（細事業）の概要	成果目標達成指標	概算 予算額 うち一般 財源額	所管名 （部・課）	上半期の取組結果 （成果目標達成指標等）	進捗度	下半期の取組方針	取組結果（達成状況）	成果目標達成指標	達成度	今後の取組方針	
			新規規	拡充	継続	総合戦略													
米原市を愛し、大切に する米原市 （人）になろう。	・ホッケーのまちとして、ホストタウンとして、ニュージーランドとのスポーツ・文化の交流を市役所全体で取り組みます。 ・国体開催や国際レベルの大会開催を見据えた施設整備を行います。 ・米原市の魅力を最大限生かした事業を展開します。伊吹山、琵琶湖、市内の文化財、交通の要衝などをPRします。 ・米原だからこそ学び、体験できる特色ある環境を生かした事業を展開します。 ・米原市だからこそできる教育を大いにアピールします。 ・子どもの読書環境の整備・充実を推進するとともに、市民一人一人が求める情報や知識を的確・迅速に提供します。 ・図書館ウェルカムを推進します。	・ホッケーを楽しむ市民の増加 ・国体開催に向けて方針の協議、決定 ・給食のメニューにニュージーランドの食材を活用 ・伝統行事などの指定文化財の継承支援 ・伊吹山、主要街道、宿場町、文化財としての祭りなど、市の歴史、自然を学び、語り伝える市民の育成 ・図書館利用者の増加 ・はにわミュージアムの大規模改修の実施	2	5	①	新	1	米原市ホストタウン事業	■東京オリンピック・パラリンピックにおけるホストタウンとして、ニュージーランドとのスポーツや文化などの国際交流を行います。 ■米原市ホストタウン事業庁内推進チームを設置して、全庁的にホストタウン事業を展開します。 ■ニュージーランドの文化、自然、歴史等を学ぶ機会を設けます。 ■ニュージーランドの中学校とメール交換等の交流を始めます。 ■給食を通じてニュージーランドの食文化に触れます。 ■ニュージーランドに関する本の展示を行い、スポーツ・文化等の情報を提供します。	3,280	生涯学習課、教育総務課、学校教育課、学校給食課、図書館ほか関係各課	ニュージーランドの学習を深めて交流を推進する。 ・学期に1回、ニュージーランドの給食の日を設ける。	やや遅延	・スポーツ国際交流員（SEA）の招聘や学校間の交流を進めるため、ニュージーランドを訪問し、具体的な調整を図ります。 ・事前合宿誘致に向けた他市との情報共有。 ・ニュージーランドの学校間交流のため、メールでの連絡調整。 ・10月2日（西部）10日（東部）に2学期でのニュージーランド給食を実施します。また、3学期にも1回同国の給食の日を設定します。 ・12月にニュージーランドの食材を活用した親子料理教室を開催します。	■スポーツ国際交流員（SEA）の希望者が現れ、ホクスベイ教育関係者とともに、12月14日から米原市を訪れ、市内小中学校で交流を行いました。	■学期に1回、計3回ニュージーランド給食を実施した。	C：目標をやや下回る成果	■H30年8月からのSEAの採用に向け、関係部署と調整を行うとともに、事前準備を進める。 ■H30はNZホッケー代表チームの招致とオリパラの事前合宿地の誘致活動を継続する。 ■ホッケーを通じた市民の国際交流の推進。 ■引き続き各学期に1度、給食にニュージーランドの食材を用いて、同国の食文化に触れていく。	
			2	5	①	新	2	ホッケーのまち魅力発信事業	■2巡目滋賀国体のホッケー競技開催に向け、会場整備等の調整を行います。 ■ホッケーを市内全域に浸透させるため、米原、近江地域でジュニア教室を開催し、裾野を広げていきます。 ■国体に向け、全国規模の大会を誘致し機運の醸成に努めます。第1弾として、H29年度に「全日本マスターズホッケー大会」を米原市で開催します。 ■平成36年の滋賀国体に向け、ホッケー競技会場として伊吹第1グラウンドの設計業務を行うとともに、関係団体との協議を行います。	25,000	教育総務課、生涯学習課	0	概ね順調	・全日本マスターズホッケー大会を、10月7～9日に開催します。 ・伊吹第1グラウンドの改修に向け、引き続き関係団体と調整を行い、平成30年度の完成を目指します。	■伊吹第1グラウンドの改修に係る設計業務が完了しました。 工期：H29.8.2～H30.3.16 受託者：㈱サカサキ ■県立伊吹運動場については、H30年度に県において、改修工事を実施予定です。 ■ジュニアホッケー選手育成事業において、11月の西日本大会へ出場を果たしました。	■H29.7.31の国体開催常任委員会でホッケー競技会場地に内定された。 ■第15回全日本マスターズホッケー大会を10月7～9日に開催した。 ■サンドベース人工芝による改修を行う。	B：目標通りの成果	■H30年度の早期に伊吹第1グラウンドの改修工事を発注します。 ■育成したジュニアホッケーチームが継続して市内開催のホッケー大会などへ出場できるよう継続した指導育成を行います。	
			2	4	②	新	3	文化財保護活動事業	■指定文化財の継承を支援します。 ■歴史講座を開催します。 ■米原市内では1年を通して文化財に指定された様々なまつりが開催されます。春の鍋冠祭、公家奴振は「湖岸のまつり」として、秋の米原曳山祭は「町衆のまつり」として、太鼓踊りは「山麓のまつり」として、流星は「ハレのまつり・戦国ロケット」として観光と横連携しながらPRします。 ■米原ゆかりの人物：霊仙三蔵の発信 ◇「見仏記」（関西TV、各地の仏像を気ままに紹介する人気番組）での松尾寺・霊仙三蔵などの放映を目指しての情報提供をします。 ◇公式ウェブサイト「米原の偉人たち」の特設サイトを開設し、霊仙三蔵の発信に努めます。 ◇霊仙三蔵をテーマにした文化教育交流の情報発信に努めます。	14,562	歴史文化財保護課	14,562	概ね順調	・指定文化財の継承を支援 -文化財補助金交付決定-26/26済 ・歴史講座の開催 -4/11回実施済 ・公式ウェブサイトの特設サイト「米原の偉人たち」構築 -掲載人物の選定、写真データ収集、解説文作成中 ・中国四川省の小・中学校との文化教育交流など、大人数対応に向けた既存の霊仙三蔵紙芝居の大型（版）の作成中。	・指定文化財の継承支援の継続 ・歴史講座の継続開催 ・公式ウェブサイト特設サイト「米原の偉人たち」の完成 ・大型（版）紙芝居の完成（10/末頃完成予定）およびZTV等での紹介予定	■指定文化財補助金26/26団体交付決定済 ■歴史講座の開催11/12回実施済 ■公式ウェブサイト特設サイト「米原の偉人たち」完成。公開済み（11/30） ■大型紙芝居の完成（10/28）	■歴史講座延べ参加者525人	B：目標通りの成果	■伝統行事などの指定文化財の継承支援 ■観光や学校と連携のもと、特設サイト「米原の偉人たち」や大型紙芝居を活用し、米原ゆかりの人物の魅力を発信していく。
			2	4	①	新	4	文化のまちづくり事業	■芸術を創造し鑑賞する喜びを享受し、文化の薫り高いまちづくりを目指して、米原市芸術展覧会を開催します。 ■市民の芸術文化の振興を図るため、市民交流プラザでの自主企画事業の実施や、米原市文化協会の活動を支援します。	12,619	生涯学習課	8,801	順調	■芸術を創造し鑑賞する喜びを享受し、文化の薫り高いまちづくりを目指していく。 ■市民の芸術文化の振興の実施や、米原市文化協会の活動を支援していく。	■米原市芸術展覧会 ・芸術展覧会企画会議の開催 芸術展覧会（10/7～10/15）（音楽部門：12/3） 応募数347点 絵画86点、彫刻工芸29点、書28点、写真105点、音楽99点 ・米原芸術展覧会受賞者作品展の開催（12/2～1/27）（近江はにわ館改修記念） ■市民交流プラザ自主事業 ・正倉院の響Ⅱ（11/18） ・小野リサコンサート（12/9） ・エンジョイ・ザ・パロック（1/28） ・日本の歌、昭和の歌（2/17） ・ロビーコンサート開催（10/14、11/18、12/2、1/13、3/10）	■芸術展覧会の出品数300点	A：目標をやや上回る成果	■芸術を創造し鑑賞する喜びを享受し、文化の薫り高いまちづくりを目指していく。 ■市民の芸術文化の振興の実施や、米原市文化協会の活動を支援していく。 ■芸術展覧会の出品数の増加を目指し、平成31年度から開催時期を春季に変更して開催する。 ■会場を近江はにわ館に移し、歴史、文化保存とともに、文化芸術の発信を行う。	
			2	3	③	新	5	山東図書館管理運営事業 近江図書館管理運営事業	■山東・近江の両図書館において、市民の求める資料を提供するため、貸出とレファレンスに力を入れて取り組みます。 ■図書館サービス基本計画に基づき、高齢者への読書支援、若年層への情報提供を行うほか、市民との協働で市民力のある図書館を目指します。 ■利用の促進に向けて、小学校新1年生への利用カード配布するほか、各種読書案内を行います。	64,060	図書館	64,060	概ね順調	・両館でバランスのとれた蔵書を構築するため、週1回の選書会議を開催し、貸出とレファレンスに力を入れ、市民の求める資料を提供しました。（貸出冊数：約18万冊、利用者数：約2万8千人） ・図書館サービス基本計画に基づき大活字本の購入や若年層向け特集冊子を作成するほか、市民力のある図書館をめぐり、雑誌スポンサー制度、巡回文庫、図書館講座等に取り組みました。 ・小学1年生に利用カードを配布し、各種イベント開催やテーマ特集紹介等で利用の促進に努めました。	・貸出増に向け更に本の紹介やPRを工夫し、読書提案を行い、図書館利用を促す。	■図書館の使命である資料提供を行うため、貸出とレファレンスに力をいれました。 貸出冊数・貸出人数は対前年度比95%の見込みですが、レファレンス件数は対前年度比120%と大きく伸びました。 ■図書館サービス基本計画に基づき、すべての市民を対象に利用の促進に努め、小学1年生への図書館利用カード作成も利用の拡大につながりました。	■貸出冊数412,000冊（見込み） ■貸出人数62,000人（見込み）	B：目標通りの成果	■山東、近江両図書館の運営形態の見直しを行い、（具体的には開館時間や休館日等）平成30年12月の第4回定例会での条例改正を目指します。
			2	4	①	新	6	文化施設設備維持補修事業	■はにわミュージアムを大規模改修（リノベーション）し、多目的展示スペースを設けます。	42,668	図書館	40	概ね順調	工程会議や関係課と協議を図りながら12月のリニューアルをめざす。	■はにわミュージアム大規模改修に係る工事は、工期内に完了し、12月のリニューアルオープン記念式典を無事、挙行することができました。 ■近江はにわ館改修による「米原市芸術展覧会受賞者作品展」の開催（12/2～1/27）	■近江はにわ館の大規模改修工事：完了 ■近江はにわ館条例の改正	B：目標通りの成果	■次年度以降、各課や関係機関と連携し、はにわ館の有効活用に努めます。 ■芸術展覧会の会場を近江はにわ館に移し、歴史、文化保存とともに文化芸術の発信を行う。	

(2) 総合計画体系

政策	基本施策	単位施策	事務事業(成果表に準じた分類)	主管課	備考
2. ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり					
1. 心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち					
①就学前保育・教育、学校教育の充実					
②就学前保育・教育、教育環境の充実					
1. 事務局総務事業			教育総務課		
2. 事務局教育振興事業			教育総務課	校外活動等バス管理	
3. 小学校管理運営事業			教育総務課	小学校施設管理・バス通学補助	
4. 小学校教育振興事業			教育総務課	要保護準要保護児童修学援助 (小) 特別支援教育就学奨励	
5. 小学校施設整備事業			教育総務課		
6. 中学校管理運営事業			教育総務課		
7. 中学校教育振興事業			教育総務課	要保護準要保護児童修学援助 (中) 特別支援教育就学奨励	
8. 中学校施設整備事業			教育総務課		
9. 学校給食総務管理事業			学校給食課		
10. 学校給食事業			学校給食課	学校給食施設維持管理・運営事業	
36. 幼稚園管理運営事業			保育幼稚園課		
2. 地域全体で子どもを守り育てるまち					
①地域の特性に応じた学校運営の推進					
②家庭・地域の教育力の強化					
11. 事務局教育振興事業			学校教育課	就学指導委員会、通級指導教室	
12. 教育センター事業			学校教育課	免許外指導等解消講師派遣・学力 状況調査	
13. 子どもサポート事業			学校教育課	子どもケアサポーター・教育相 談・心の教育相談	
14. 小学校管理運営事業			学校教育課		
15. 小学校教育振興事業			学校教育課		
16. 中学校管理運営事業			学校教育課		
17. 中学校教育振興事業			学校教育課		
18. 社会教育総務事業			生涯学習課		
34. 次代を担う青少年育成事業			子育て支援課		
35. 少年センター事業			子育て支援課		
3. 人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち					
①学びの場づくりの推進					
②学びを生かした人材育成の推進					
③図書館機能の整備・充実					
20. 地域人材育成事業			生涯学習課	ルッチ大学運営事業	
23. 伊吹薬草の里文化センター管理運営事業			生涯学習課		
24. 生涯学習センター管理運営事業			生涯学習課		
25. 次代を担う青少年育成事業			生涯学習課	成人式	

(2) 総合計画体系

政策	基本施策	単位施策	事務事業(成果表に準じた分類)	主管課	備考
			26. 公民館管理運営事業	生涯学習課	
			29. 図書館管理運営事業	図書館	
			30. はにわ館管理運営事業	生涯学習課	
	4. 誇りと愛着のある地域文化を守り生かし伝えるまち				
	①文化・芸術の振興				
	②歴史文化遺産の保存活用				
	③文化遺産の保存活用				
	21. 文化のまちづくり事業			生涯学習課	
	22. 市民交流プラザ管理運営事業			生涯学習課	
	31. 文化財保護事業			歴史文化財保護課	
	32. 文化財施設管理運営事業			歴史文化財保護課	
	33. 文化的景観保護推進事業			歴史文化財保護課	
	5. スポーツによって、人と人、地域と地域がつながるまち				
	①米原らしさを生かしたスポーツの推進				
	②子どものスポーツ活動の推進				
	③地域スポーツ活動の推進				
	④スポーツを身近に楽しめる環境づくり				
27. 体育施設管理運営事業			生涯学習課		
28. スポーツ推進事業			生涯学習課		
6. 一人一人が尊重され平和を大切にするまち					
①人権文化・人権教育の推進					
19. 人権教育推進事業			生涯学習課	人権教育啓発推進事業	

(3) 点検および評価等の結果

主要な施策の成果説明書の事業ごとに、教育委員会に関連する事務を 36 事業に分類し、事業ごとに点検および評価等を行いました。

○ 事業ごとに、総合計画上の位置付け、政策・基本施策・単位施策・基本事業を記載しています。

(ア) 平成 29 年度の予算額、決算額、執行率および決算における財源内訳を下表「財源内訳の略称」のとおり示し、当該事業の概要を記載しています。

(イ) 事業の指標として、平成 29 年度における進捗度および市民一人当たりのコスト等をあげています。

① 市民一人当たりの金額は、決算額を平成 29 年度末現在の米原市人口 39,486 人で除した数値です。

(ウ) 対象事業の主な実績を記載しています。

(エ) 対象事業の達成度を A から E の 5 段階の評価を行い、評価の内容をまとめています。

【評価ランク】

A	期待以上に達成できた	・当該年度の当該計画以上に成果が上げられた ・当初計画以上に早く事業が完了した
B	期待をやや上回る程度に達成できた	・変更は生じたが、期待をやや上回る成果があった ・初期の目的をおおむね達成できた
C	期待どおり	・前年度と同様の実績であった ・ほぼ計画どおり事業を実施できた
D	やや不十分である	・期待を下回る実績であった ・事業は、実施できたが、成果についてはやや課題が残った
E	不十分である	・当該年度の計画が実施できなかった

【対象事業の評価一覧】


対象事業の評価を行った結果の主管課別評価は以下のとおりとなりました。

番 号	事 務 事 業 名	評 価	主 管 課
1	事務局総務事業	C	教育総務課
2	事務局教育振興事業	B	〃
3	小学校管理運営事業	C	〃
4	小学校教育振興事業	B	〃
5	小学校施設整備事業	A	〃
6	中学校管理運営事業	C	〃
7	中学校教育振興事業	B	〃
8	中学校施設整備事業	A	〃
9	学校給食総務管理事業	A	学校給食課
10	学校給食事業	A	〃
11	事務局教育振興事業	B	学校教育課
12	教育センター事業	B	〃
13	子どもサポート事業	B	〃
14	小学校管理運営事業	B	〃
15	小学校教育振興事業	B	〃
16	中学校管理運営事業	B	〃
17	中学校教育振興事業	A	〃
18	社会教育総務事業	C	生涯学習課
19	人権教育推進事業	C	〃
20	地域人材育成事業	B	〃
21	文化のまちづくり事業	C	〃
22	市民交流プラザ管理運営事業	C	〃
23	伊吹薬草の里文化センター管理運営事業	B	〃
24	生涯学習センター管理運営事業	C	〃
25	次代を担う青少年育成事業	B	
26	公民館管理運営事業	C	〃
27	体育施設管理運営事業	B	〃
28	スポーツ推進事業	B	〃
29	図書館管理運営事業	C	図 書 館
30	はにわ館管理運営事業	C	図 書 館

番 号	事 務 事 業 名	評 価	主 管 課
3 1	文化財保護事業	C	歴史文化財保護課
3 2	文化財施設管理運営事業	C	〃
3 3	文化的景観保護推進事業	C	〃
3 4	次代を担う青少年育成事業	C	子育て支援課
3 5	少年センター事業	C	〃
3 6	幼稚園管理運営事業	C	保育幼稚園課

主 管 課 名	A	B	C	D	E	対象事業数
教育総務課	2	3	3			8
学校給食課	2					2
学校教育課	1	6				7
生涯学習課		5	6			1 1
図 書 館			2			2
歴史文化財保護課			3			3
子育て支援課			2			2
保育幼稚園課			1			1
計	5	1 4	1 7			3 6

事業番号		1	
款	10 教育費	項	1 教育総務費
目	2 事務局費		
事業名	継続	事務局総務事業	主管課 教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち	
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	1,570,000	6,948,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	1,227,007	6,267,973	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	78.2	90.2	一般財源
		29年度	28年度
		0	0
		138,000	147,000
		0	0
		0	0
		1,089,007	6,120,973
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
県立米原高等学校用地の所有権移転登記事務において、相続代表者を決定し、相続対象者と折衝する手順を進めてきたが、相続代表者の死亡により相続対象者との折衝まで至らず関連経費が一部不要となったため。			
事業コスト		事業費	人件費(0.65 人 役)
計			
決 算 額		1,227 千円	4,859 千円
市民1人当たり(39,486 人)		31 円	123 円
計			6,086 千円
154 円			
事業の目的および内容			
(1)第2期米原市教育振興基本計画に基づき、更なる教育施策の推進に努めます。			
(2)県立米原高等学校の未登記となっている用地の所有権移転登記事務を進めます。			
事業の実績			
(1)地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、平成28年度の教育委員会の権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価等を行い、報告書を公表しました。			
教育事務点検評価者報償費		20,000 円	
【点検、評価の目的】			
教育委員会は、首長から独立した中立的・専門的な立場で、学校教育、生涯学習、文化・スポーツなど幅広い分野に関する施策を展開する行政機関として設置されています。点検および評価等は、教育委員会が教育行政の事務の執行状況を点検および評価し、効果的・計画的な教育行政の推進に資することを目的とするものです。			
【点検、評価の方法】			
評価の方法については、平成28年度における主要施策の成果説明書の事業分類により、教育委員会で自己点検および評価を行いました。			
【教育部重点目標の達成度】計 18 項目			
達成度		項目数	達成度
達成度5	目標を上回る成果	1	達成度2
達成度4	目標をやや上回る成果	6	達成度1
達成度3	目標どおりの成果	10	目標をやや下回る成果
			目標を下回る成果
			0
【教育事務事業の評価】計 37 事業			
評 価 ラ ン ク			対 象 事業数
A	期待以上に達成できた	①当該年度の当該計画以上に成果が上げられた ②当初計画以上に早く事業が完了した	1
B	期待をやや上回る程度に達成できた	①変更は生じたが、期待をやや上回る成果があった ②初期の目的をおおむね達成できた	7
C	期待どおり	①前年度と同様の実績であった ②ほぼ計画どおりの事業を実施できた	29
D	やや不十分である	①期待を下回る実績であった ②事業は、実施できたが、成果についてはやや課題が残った	0
E	不十分である	①当該年度の計画が実施できなかった	0
(2)県立米原高等学校用地の所有権移転登記事務を進めました。			
登記事務委託料		648,000 円	
評価の内容			評価
(1)教育事務の点検および評価に関し、学識経験者2人および教育委員会委員6人で、10月に意見交換を行い、今後のより良い教育行政に役立てることができました。			C
(2)相続代表者が死亡されましたが、改めて相続代表者を選任していただき、引き続き相続人確認作業を進めました。			

事業番号		2	
款	10 教育費	項	1 教育総務費
目	3 教育振興費		
事業名	継続	事務局教育振興事業	主管課 教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち	
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	7,323,000	7,600,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	6,898,381	6,997,527	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	94.2	92.1	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
事業コスト		事業費	人件費(0.60 人 役)
決 算 額		6,898 千円	4,485 千円
市民1人当たり(39,486 人)		175 円	114 円
児童・生徒1人当たり (3,137 人)		2,199 円	1,430 円
計			
11,383 千円			
289 円			
3,629 円			
事業の目的および内容			
(1)総合的な学習を通じ、子どもたちに幅広い体験ができるようバスを運行し、各学校の校外活動の充実や学校間の交流を促進します。 (2)給付型奨学金制度により、修学上必要な学資金の給付を行うことで、将来を担う人材の育成および市への定住を促進します。			
事業の実績			
※小学校児童数 2,042人、中学校生徒数 1,095人 (平成29年5月1日現在…学校基本調査基準日)			
(1)バス事業者への委託により学校支援バスを運行したほか、伊吹地域スクールバス3台、山東小学校スクールバス1台および河南小学校スクールバス1台を校外活動等のために運行しました。			
校外活動バス借上料(延べ110台)		6,358,608 円	
校外活動バス運転手賃金		519,773 円	
		小学校の主な校外活動状況	
【伊吹山文化資料館での校外活動】		行 先	学校名
		クリスタルプラザ	柏原小学校、大原小学校 米原小学校、坂田小学校 息長小学校
		長浜水道企業団	坂田小学校
		米原消防署	柏原小学校、大原小学校 坂田小学校
		奥伊吹スキー場	全小学校
(2)将来を担う人材の育成および市への定住を目的とした給付型奨学金制度を構築しました。平成30年度入学予定者を対象に募集し、奨学生について審査を行いました。			
奨学金給付審査会委員報酬		20,000 円	
申請者：37人 奨学生決定者：31人			
評価の内容			評価
(1)市内外への校外活動の実施により、日常の学校生活では得ることのできない体験学習・環境学習および創作活動などへの様々な体験を通じて、子どもたちの社会性を養う一助となりました。 (2)給付型奨学金制度を新たに構築したことから、市への愛着と誇りを持った意欲のある若者に対し、進学の後押しと修学後の市への定住促進を図ることができました。			B

事業番号		3				
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	1 学校管理費	
事業名		継続 小学校管理運営事業		主管課	教育委員会 教育総務課	
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
		基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち			
		単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実			
事業費(円)		29年度	28年度	財源内訳(円)	29年度	28年度
予算額		65,620,000	52,056,000	国 費	0	0
うち繰越		0	0	県 費	0	0
決算額		65,009,956	51,723,998	市 債	13,000,000	0
うち繰越		0	0	そ の 他	0	0
執行率(%)		99.1	99.4	一般財源	52,009,956	51,723,998
執行率80%以下の理由(29年度)				その他の内訳(29年度)		
事業コスト		事業費		人件費(0.70 人 役)	計	
決 算 額		65,010 千円		5,233 千円	70,243 千円	
市民1人当たり(39,486 人)		1,646 円		133 円	1,779 円	
児童1人当たり(2,042 人)		31,836 円		2,563 円	34,399 円	
事業の目的および内容						
(1)小学校施設の適切な維持管理により、安全・安心な学習環境を確保し、適切な施設の維持管理を行います。						
(2)通学に関する基本方針に基づき、スクールバスの運行および路線バス等での通学者への助成を行います。						
事業の実績						
※小学校児童数 2,042人(平成29年5月1日現在…学校基本調査基準日)						
(1)小学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種設備等の管理業務を委託しました。						
警備保障・設備保守点検業務等				18,112,408 円		
(2)事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。						
事務機器リース料				2,795,580 円		
(3)施設の運営等に必要な備品を購入しました。						
施設管理用備品 児童用机・椅子ほか				2,373,327 円		
校務用パソコン 78台				10,615,078 円		
(4)安全な通学環境を確保するため、バス通学者への助成を行いました。(76人)						
バス等利用延べ児童数				(単位：人)		3,631,920 円
学校名		湖国バス	まいちゃん号	合計		
柏原小学校		37	3	40		
山東小学校		0	6	6		
米原小学校		0	14	14		
河南小学校		0	5	5		
※	息長小学校	11	11	22		
合計		48	39	87		
※息長小学校は、登校に湖国バス、下校にまいちゃん号を利用しています。						
(5)伊吹地域(北部、中部、東部)3台、山東小学校および河南小学校のスクールバス計5台を運行しました。また、老朽化のため伊吹東部スクールバスを新たに購入しました。						
スクールバス運行管理経費(燃料費、運転手賃金等)				12,817,310 円		
スクールバス購入費				13,071,240 円		
評価の内容						評価
(1)施設維持管理および運営のため、各種管理業務委託の実施や事務機器等のリース、施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。						C
(2)小学校児童の遠距離通学に対してスクールバスを運行し、安全な通学環境の確保につなげることができました。						

事業番号		4	
款	10 教育費	項	2 小学校費
目	2 教育振興費		
事業名	継続	小学校教育振興事業	
主管課	教育委員会 教育総務課		
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち	
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	143,059,000	21,078,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	140,805,556	20,022,268	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	98.4	95.0	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
事業コスト		事業費	人件費(0.65 人 役)
決 算 額		140,806 千円	4,859 千円
市民1人当たり(39,486 人)		3,566 円	123 円
児童1人当たり(2,042 人)		68,955 円	2,380 円
計			
145,665 千円			
3,689 円			
71,335 円			
事業の目的および内容			
(1)小学校パソコン教室の機器を継続して配備し、ICT(情報通信技術)を活用した教育の充実を図ります。			
(2)経済的や身体的な理由により就学が困難な児童への援助を行い、安心できる学習環境となるよう支援します。			
事業の実績			
(1)情報学習の強化を図るため、パソコン機器の継続リースを行いました。			
パソコン教室機器リース料			5,099,760 円
(2)ICTを活用した教育の充実を図るため、小学校にタブレット型パソコンを購入するとともに、併せて校内ネットワーク環境の構築を行いました。			
タブレット型パソコン購入費 324台			44,226,000 円
電算処理委託料			77,295,600 円
(3)経済的や身体的な理由により、就学が困難な児童の安心できる学習環境を確保するため、学用品費や給食費等の一部を援助しました。併せて、新入学児童学用品費を入学準備金として支給できるよう制度改正を行いました。			
要保護準要保護児童就学援助費			11,172,957 円
(うち 平成30年度入学準備金			974,400 円)
特別支援教育就学奨励費			1,384,939 円
支給対象者の5年間の推移			(単位:人)
区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
要保護児童就学援助	0	1	0
準要保護児童就学援助	150	144	151
特別支援教育就学奨励	45	46	41
			平成28年度
			平成29年度
			2
			0
			166
			161(24)
			44
※平成29年度の準要保護児童就学援助の()の数値は、平成30年度入学準備金支給対象者数			
評価の内容			評価
(1)パソコン教室の機器を継続的に配備することで、適切な学習環境の確保につながることができ、情報学習の強化を図ることができました。今後も引き続き、質の高い情報学習環境の確保に努めます。			B
(2)経済的や身体的な理由により就学が困難な児童を援助することで、学習環境の確保と義務教育の円滑な実施に寄与することができました。特に、入学準備金については、時機に合わせて支給することで、より有益な援助につながりました。			

事業番号		5				
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	3 施設整備費	
事業名		継続 小学校施設整備事業		主管課	教育委員会 教育総務課	
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
		基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち			
		単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実			
事業費(円)		29年度	28年度	財源内訳(円)	29年度	28年度
予算額		182,084,000	187,292,000	国 費	27,921,000	0
うち繰越		65,534,000	0	県 費	0	0
決算額		85,010,493	92,041,631	市 債	29,000,000	51,500,000
うち繰越		55,359,320	0	そ の 他	638,320	0
執行率(%)		46.7	49.1	一般財源	27,451,173	40,541,631
執行率80%以下の理由(29年度)				その他の内訳(29年度)		
国の補正予算に伴う事業実施により、柏原小学校および山東小学校トイレ改修工事を平成30年度へ繰り越したため。 ＜平成30年度への繰越額＞ 86,300,000円				繰越事業費等充当財源繰越金 638,320円		
事業コスト		事業費		人件費(0.75 人 役)	計	
決 算 額		85,010 千円		5,606 千円	90,616 千円	
市民1人当たり(39,486 人)		2,153 円		142 円	2,295 円	
児童1人当たり(2,042 人)		41,631 円		2,745 円	44,376 円	
事業の目的および内容						
安全・安心で快適な学習環境を確保するため、施設整備の修繕や改修など緊急性の高いものから順次計画的に整備します。また、予防保全型の維持管理へ転換し、計画的に施設整備の点検等を行い、不具合を未然に防止します。						
事業の実績						
(1)小学校トイレ改修工事設計業務委託(柏原小・山東小学校) 快適な学習環境を確保するため、2小学校のトイレ洋式化の改修に着手しました。 設計費 2,332,800 円						
(2)小学校電話設備改修工事(河南小・春照小学校) 安全で機能的な学習環境を確保するため、2小学校の電話システムを改修しました。 工事費 7,700,400 円						
(3)河南小学校プール補修工事 安全・安心で快適な学習環境を確保するため、プールの老朽化に伴う補修をしました。 工事費 2,408,400 円						
(4)坂田小学校玄関スロープ設置工事 学校施設のバリアフリー化を図るため、玄関に車椅子用スロープを設置しました。 工事費 3,261,600 円						
(5)坂田小学校黒板修繕工事 快適な学習環境を確保するため、普通教室の黒板の板面貼替を行いました。 工事費 1,523,880 円						
(6)小学校グラウンド改修工事(大原小・河南小学校)(繰越) 安全・安心な学習環境を確保するため、2小学校のグラウンドを改修しました。 工事費 55,359,320 円						
評価の内容						評価
各種の整備工事や不具合箇所の補修により、安全・安心で快適な学習環境の確保につなげることができました。						A

事業番号		6	
款	10 教育費	項	3 中学校費
目	1 学校管理費		
事業名	継続	中学校管理運営事業	主管課 教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち	
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	24,597,000	20,947,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	24,531,215	20,664,969	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	99.7	98.7	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
事業コスト		事業費	人件費(0.40 人 役)
決 算 額		24,531 千円	2,990 千円
市民1人当たり(39,486 人)		621 円	76 円
生徒1人当たり(1,095 人)		22,403 円	2,731 円
事業の目的および内容			
<p>中学校施設の適切な維持管理により、安全・安心な学習環境を確保し、適切な施設の維持管理を行います。</p>			
事業の実績			
※中学校生徒数 1,095人(平成29年5月1日現在…学校基本調査基準日)			
(1)中学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種設備等の管理業務を委託しました。			
警備保障・設備保守点検業務等		11,991,147 円	
(2)事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。			
事務機器リース料		2,468,772 円	
(3)施設の運営等に必要な備品を購入しました。			
施設管理用備品 生徒用机・椅子ほか		2,173,132 円	
校務用パソコン 50台		6,314,760 円	
評価の内容			評価
施設維持管理および運営のため、各種管理業務委託の実施や事務機器等のリース、施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。			C

事業番号		7									
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	2 教育振興費						
事業名		継続	中学校教育振興事業			主管課	教育委員会 教育総務課				
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり								
		基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち								
		単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実								
事業費(円)		29年度		28年度		財源内訳(円)		29年度		28年度	
予算額		19,477,000		19,472,000		国 費		517,000		661,000	
うち繰越		0		0		県 費		0		0	
決算額		18,424,078		18,380,791		市 債		0		0	
うち繰越		0		0		そ の 他		0		0	
執行率(%)		94.6		94.4		一般財源		17,907,078		17,719,791	
執行率80%以下の理由(29年度)						その他の内訳(29年度)					
事業コスト				事業費		人件費(0.65 人 役)		計			
決 算 額				18,424 千円		4,859 千円		23,283 千円			
市民 1 人当たり(39,486 人)				467 円		123 円		590 円			
生徒 1 人当たり(1,095 人)				16,826 円		4,437 円		21,263 円			
事業の目的および内容											
(1)中学校パソコン教室の機器を継続して配備し、ICT(情報通信技術)を活用した教育の充実を図ります。											
(2)経済的や身体的な理由により就学が困難な生徒への援助を行い、安心できる学習環境となるよう支援します。											
事業の実績											
(1)情報学習の強化を図るため、パソコン機器の継続リースを行いました。											
パソコン教室機器リース料										3,754,800 円	
(2)経済的や身体的な理由により、就学が困難な生徒の安心できる学習環境を確保するため、学用品費や給食費等の一部を援助しました。併せて、新入学生徒学用品費を入学準備金として支給できるよう制度改正を行いました。											
要保護準要保護生徒就学援助費										11,966,253 円	
(うち 平成30年度入学準備金										1,279,800 円)	
特別支援教育就学奨励費										1,033,633 円	
支給対象者の5年間の推移										(単位：人)	
区分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度					
要保護生徒就学援助		0	1	0	2	0					
準要保護生徒就学援助		88	97	105	105	100(27)					
特別支援教育就学奨励		22	24	25	28	22					
※平成29年度の準要保護生徒就学援助の()の数値は、平成30年度入学準備金支給対象者数											
評価の内容										評価	
(1)パソコン教室の機器を継続的に配備することで、適切な学習環境の確保につながることができ、情報学習の強化を図ることができました。今後も引き続き、質の高い情報学習環境の確保に努めます。											
(2)経済的や身体的な理由により就学が困難な生徒を援助することで、学習環境の確保と義務教育の円滑な実施に寄与することができました。特に、入学準備金については、時機に合わせて支給することにより、有益な援助につながりました。											
										B	

事業番号		8	
款	10 教育費	項	3 中学校費
目	3 施設整備費		
事業名	継続	中学校施設整備事業	主管課 教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち	
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	240,863,000	167,207,000	国 費
うち繰越	0	73,986,000	県 費
決算額	48,070,373	164,791,667	市 債
うち繰越	0	72,292,000	そ の 他
執行率(%)	20.0	98.6	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
<p>国の補正予算に伴う事業実施により、伊吹山中学校エレベータ設置等工事、米原中学校および河南中学校トイレ改修工事を平成30年度へ繰り越したため。</p> <p><平成30年度への繰越額> 192,763,000円</p>			
事業コスト		事業費	人件費(0.65 人 役)
決 算 額		48,070 千円	4,859 千円
市民1人当たり(39,486 人)		1,217 円	123 円
生徒1人当たり(1,095 人)		43,900 円	4,437 円
事業の目的および内容			
<p>安全・安心で快適な学習環境を確保するため、施設整備の修繕や改修など緊急性の高いものから順次計画的に整備します。また、予防保全型の維持管理へ転換し、計画的に施設整備の点検等を行い、不具合を未然に防止します。</p>			
事業の実績			
<p>(1)中学校トイレ改修設計業務委託(米原中・河南中学校) 快適な学習環境を確保するため、トイレ洋式化の改修に着手しました。 設計費 1,522,800 円</p> <p>(2)伊吹山中学校エレベータ設置等工事設計業務委託 身体に障がいのある生徒が安全で円滑に学校生活が送れるようエレベータ設置等のバリアフリー化を進めるための設計を行いました。 設計費 907,200 円</p> <p>(3)伊吹山中学校電話設備改修工事 安全で機能的な学習環境を確保するため、電話システムを改修しました。 工事費 3,875,040 円</p> <p>(4)米原中学校放送卓改修工事・体育館防水工事 快適な学習環境を確保するため、老朽化に伴う放送室の放送卓の改修および体育館の防水工事を施工しました。 工事費 4,810,320 円</p> <p>(5)大東中学校テニスコート補修工事 安全・安心な学習環境を確保するため、テニスコートを補修しました。 工事費 1,069,200 円</p> <p>(6)伊吹山中学校特別教室棟防水工事 安全・安心で快適な学習環境を確保するため、特別教室棟の防水工事を実施しました。 工事費 21,859,200 円</p>			
評価の内容			評価
<p>各種の整備工事や不具合箇所の補修により、安全・安心で快適な学習環境の確保につなげることができました。</p>			A

事業番号		9																																					
款	10 教育費	項	6 保健体育費																																				
目	4 学校給食費																																						
事業名	継続	学校給食総務管理事業	主管課 教育委員会 学校給食課																																				
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり																																					
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち																																					
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実																																					
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)																																				
予算額	581,000	589,000	国 費																																				
うち繰越	0	0	県 費																																				
決算額	526,966	534,763	市 債																																				
うち繰越	0	0	そ の 他																																				
執行率(%)	90.7	90.8	一般財源																																				
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)																																					
事業コスト		事業費	人件費(0.40 人 役)																																				
決 算 額		527 千円	2,990 千円																																				
市民1人当たり(39,486 人)		13 円	76 円																																				
計																																							
3,517 千円																																							
89 円																																							
事業の目的および内容																																							
給食施設および学校給食の適正かつ円滑な運営を図ります。																																							
事業の実績																																							
<p>(1) 学校給食運営委員会を3回開催し、学校給食の運営に関する協議事項の審議、意見を求めました。 学校給食運営委員報酬 120,000円 運営委員数 17人(報酬支払対象11人)</p> <p>(2) 食物アレルギー対応検討委員会を開催し、食物アレルギーのある園児・児童・生徒への代替食・除去食の対応および次年度に向けての検討を行いました。 食物アレルギー対応検討委員会1回開催</p> <p>平成29年度の食物アレルギー対応人数 東部給食センター分 74人、西部給食センター分 53人 計127人(平成28年度：120人) (内訳：延べ数) (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>卵</th> <th>牛乳</th> <th>乳製品</th> <th>甲殻類</th> <th>魚介類</th> <th>種実類</th> <th>大豆</th> <th>果物</th> <th>野菜</th> <th>小麦</th> <th>その他 (牛、豚肉)</th> </tr> <tr> <td>東部</td> <td>29</td> <td>17</td> <td>8</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>26</td> <td>0</td> <td>23</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>西部</td> <td>16</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>14</td> <td>0</td> <td>13</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </table> <p>(3) 保護者の給食費口座振替について、各金融機関へ口座振替手数料を負担しました。 給食費保護者負担金口座振替手数料 395,966円 (36,731件)</p>				項目	卵	牛乳	乳製品	甲殻類	魚介類	種実類	大豆	果物	野菜	小麦	その他 (牛、豚肉)	東部	29	17	8	13	14	26	0	23	3	0	0	西部	16	12	10	11	8	14	0	13	6	1	1
項目	卵	牛乳	乳製品	甲殻類	魚介類	種実類	大豆	果物	野菜	小麦	その他 (牛、豚肉)																												
東部	29	17	8	13	14	26	0	23	3	0	0																												
西部	16	12	10	11	8	14	0	13	6	1	1																												
評価の内容			評価																																				
<p>(1) 運営委員会では委員から意見を聴取し、給食業務の円滑な運営に反映しました。</p> <p>(2) 食物アレルギー対応検討委員会では食物アレルギーへの適切な対応を検討することにより、アレルギーのある子どもへ安心安全な学校給食を提供することができました。</p>			A																																				

事業番号		10									
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	4 学校給食費						
事業名		継続		学校給食事業		主管課	教育委員会 学校給食課				
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり								
		基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち								
		単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実								
事業費(円)		29年度		28年度		財源内訳(円)		29年度		28年度	
予算額		336,338,000		350,660,000		国 費		0		0	
うち繰越		0		0		県 費		0		0	
決算額		333,735,742		346,907,071		市 債		0		0	
うち繰越		0		0		そ の 他		179,861,695		188,235,793	
執行率(%)		99.2		98.9		一般財源		153,874,047		158,671,278	
執行率80%以下の理由(29年度)						その他の内訳(29年度)					
						東部給食センター調理研修室使用料 600円 給食センター講座受講料 31,150円 学校給食費保護者等負担金 170,852,445円 特定教育・保育施設使用料 7,290,000円 特定教育・保育施設給食費利用者負担金 1,687,500円					
事業コスト				事業費		人件費(9.40 人 役)		計			
決 算 額				333,736 千円		70,265 千円		404,001 千円			
市民1人当たり(39,486 人)				8,452 円		1,779 円		10,231 円			
事業の目的および内容											
食生活を取り巻く社会環境が大きく変化し生活の多様化が進む中、米原市の将来を担う子どもたちにバランスの取れた安全で安心な学校給食を提供するため、適正な施設の維持管理および業務の運営を行います。											
事業の実績											
学校および園に安心安全な給食を提供するため、アレルギー対応を始め給食センターの適正な管理運営に努めるとともに、食材に地場産物を積極的に取り入れました。 学校給食衛生管理基準に基づく衛生面に配慮し、各機械設備等の保守点検を行いました。 食育の推進のため、調理実習や指導体験教室を展開しました。											
(1)給食提供数(職員を含む。)						平成30年3月現在					
区 分		東部給食センター		西部給食センター		計					
		校園数	食数	校園数	食数	校園数	食数				
幼稚園・認定園		4	590 食	1	148 食	5	738 食				
小学校		6	1,131 食	3	1,102 食	9	2,233 食				
中学校		4	675 食	2	543 食	6	1,218 食				
合 計		14	2,396 食	6	1,793 食	20	4,189 食				
※参考 賄材料費		102,745,629円		80,983,228円		183,728,857円					
(2)給食回数と主食の内容											
項 目		東部給食センター		西部給食センター							
米飯給食		158 回		158 回							
パン給食		17 回		17 回							
麺給食		22 回		22 回							
合 計		197 回		197 回							
(3)給食費保護者負担金等徴収状況											
現年度分		調定額：171,046,186円		未納額：193,741円							
		収入額：170,852,445円		収納率：99.89%							
過年度分		調定額：1,763,995円		未納額：1,706,195円							
		収入額：57,800円		収納率：3.28%							
【グリーンピースのさやむき体験】											
(4)東部・西部給食センターにおける食育推進事業											
子どもおよび保護者を対象に、食に関する指導体験学習等を通じて食育の推進に取り組みました。											
①食に関する指導体験学習(発達段階に応じた食に関する指導を実践)											
グリーンピースのさやむき体験(小学2年生9回) 味噌作り体験(小学4年生9回)											



【グリーンピースのさやむき体験】

事業の実績

- ②食に関する指導特別給食
お鍋給食とミニバイキング(14回)、バイキング給食(6回)、お楽しみ給食(5回)
- ③保護者への食育
親子給食での講演10回(382人)、健康教室1回、センター見学・試食・食育10回、親子料理教室2回(78人)
- ④収穫体験
ブロッコリー収穫：山東小(3年)・春照小(3年)56人、米原小(2年)66人
- ⑤食育に関する情報発信
給食日よりなどでレシピや食育の実践の様子などを紹介しました。



【ブロッコリー収穫】

(5)特色ある給食

項 目	東部給食センター	西部給食センター
バイキング給食	4回(中学3年生)	2回(中学3年生)
お鍋給食	7回(小学6年生)	7回(小学6年生)
季節の行事食	各月1回	各月1回
お誕生日給食		
カミカミメニュー		
日本食生活の日		
ふるさと滋賀給食の日		
セレクト給食(給食週間中)	1回(全校)	1回(全校)
郷土料理	随時	随時
地元食材の使用		
食べ物の旅給食	月1回	月1回
ニュージーランド給食	3回(6月・10月・1月)	



【バイキング給食】



【お鍋給食】

※ニュージーランド給食は、ホストタウン事業の一環として実施しました。

地場産物の導入の促進

JAと連携し、年間を通じた学校給食への地場産物の活用や、給食週間にも郷土料理や地場産物を献立に取り入れる等、地産地消メニューの開発を進めました。

地場産物活用率目標(食育計画：平成30年度目標値35.0%以上)

地場産物の活用率 37.0%→42.0% (県平均活用率 28.5%) ※食育計画の目標値を達成しました。

(6)施設の主な運営経費

- ①子どもに美味しい給食を提供する臨時職員を配置して直営による調理業務を実施しました。
臨時職員賃金(栄養士、配膳員含) 東部給食センター(常勤：18人 非常勤：6人)29,438,886円
西部給食センター(常勤：14人 非常勤：4人)22,555,226円

- ②配送業務は、米原市シルバー人材センターへの業務委託により対応しました。
配送業務委託料 東部給食センター 9,706,230円 西部給食センター 2,921,184円

(7)給食管理システムの更新および給食センター施設修繕

- ①学校給食の献立作成をはじめ、栄養管理や食材の発注など、学校給食全般を管理するための給食管理システムが、長年の使用により更新の時期を迎えたことから、ソフトウェアおよびハードウェアを刷新しました。
給食管理システム業務委託 3,609,360円
- ②東部給食センターの給湯システムおよび蒸気発生器蓄熱槽の一部が経年劣化していたため、その機器の取替工事を行いました。
給湯システム修繕工事 2,049,840円
蒸気発生器蓄熱槽交換工事 7,020,000円

評価の内容

- (1)給食の食材については、JAと連携し安心な地場産物を積極的に取り入れ、地場産物活用率は県平均28.5%を上回る42.0%(年平均)となりました。
- (2)給食メニューの多様化を図るため、月目標を定め各県の特色ある料理を給食に取り入れれたり、市内の行事に合わせた給食(蚩メニューなど)やバイキング給食や特色ある給食としてお鍋給食を実施するなど、園児、児童、生徒に食への関心を高めることができました。
- (3)東部給食センター調理研修室では、施設見学、試食会や親子活動として料理教室を開催するなど、利用促進を図りました。
- (4)毎月の食に関する指導、出前授業、収穫体験等を通して食べ物の大切さを知ってもらいました。
- (5)食物アレルギー関係については、食物アレルギーのある園児・児童・生徒の給食について、代替食・除去食の対応を徹底し、保護者・学校・センターの三者が連絡調整を密にすることで、アレルギーのある子どもに安全な学校給食を提供することができました。
- (6)施設の適正な保守管理と改修工事、衛生基準に基づく徹底した衛生管理を行い、遅滞なく安全な給食を子どもたちに届けることができました。特に東部給食センターでは蒸気発生器の蓄熱槽および給湯システム内のガス管の交換工事を実施することで、危機管理に備えることができました。
- (7)ホストタウン事業の一環として、ニュージーランドの食事(キウイバーガー、マトン入りミートローフ、クマラスープ)を学校給食に活用し、同国の食文化に触れることができました。

評価

A

事業番号	11				
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費
事業名	継続	事務局教育振興事業			主管課 教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち			
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進			
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)	29年度	28年度
予算額	32,352,000	27,062,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	2,296,000	2,226,000
決算額	27,537,705	23,649,000	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	3,893,000	3,500,000
執行率(%)	85.1	87.4	一般財源	21,348,705	17,923,000
執行率80%以下の理由(29年度)			その他の内訳(29年度)		
			米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 3,893,000円		
事業コスト		事業費	人件費(2.80 人 役)	計	
決 算 額		27,538 千円	20,930 千円	48,468 千円	
市民1人当たり(39,486 人)		697 円	530 円	1,227 円	
児童生徒1人当たり(3,137 人)		8,778 円	6,672 円	15,450 円	

事業の目的および内容

- (1)特色ある学校づくり事業を進め、地域に根ざした学校づくりを進めます。
- (2)地域コーディネーターを配置し、地域住民の参画により、様々な学校支援活動および協働活動を実施する学校支援地域本部事業に取り組みます。
- (3)いじめの防止、早期解決のための体制を強化するために、いじめ等対応支援員を配置するとともに、いじめ問題専門委員会、いじめ問題調査委員会の設置を行います。
- (4)就学指導委員会を設け、障がいのある幼児・児童・生徒の適切な就学先等の協議を行います。
- (5)通常学級在籍の障がいのある児童に対して、週1時間程度指導を行う通級指導教室を開催し、個々の児童の課題に応じた指導を行います。
- (6)特別支援教育総合推進事業を実施し、相談員が市内保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校を巡回し、障がいのある幼児・児童・生徒への支援の方法等の助言・相談を行います。また、教師志望の学生を配置し、支援を行います。
- (7)少人数学級編制(35人学級)や少人数指導ができる体制を整え、確かな学力を育む教育環境の充実に図ります。
- (8)免許外指導等を解消するために中学校へ専門教科を指導する非常勤講師を派遣し、充実した学習指導を行います。
- (9)伊吹山へ登ろう事業や森林環境学習やまのこ事業などを行い、体験活動の充実に努めます。
- (10)学校経営支援員を配置し、校長の学校経営に関わる指導助言や中堅教員の育成に取り組みます。

事業の実績

(1)特色ある学校づくり事業

保護者や地域の人々の持つ豊かで専門的な力を取り入れ、様々な自然環境や文化的環境を教材にした地域に根ざした特色ある学校づくりを全小中学校で進めました。地域の環境をテーマにした学習や地域史跡の清掃活動、地域人材を活用した学力補充教室や部活動支援等を行いました。

特色ある学校づくり支援事業

3,893,500円 (市内全小中学校15校で実施)



【ほたるパレード(山東小学校)】



【地域史跡清掃(柏原中学校)】



【学力補充教室(米原中学校)】

(2)学校支援地域本部事業

市内全ての中学校区で学校支援地域本部を立ち上げ、地域コーディネーターを中心に学校のニーズに応じた支援を行いました。

学校支援地域本部事業

1,847,600円

事業の実績

(3) いじめ対策関係事業

いじめ等対応支援員を配置し、各校の実態把握に努めるとともに、いじめ問題専門委員会等を開催して、いじめ問題の早期発見・早期対応策や未然防止に効果的な対策などを検討し、各校に発信しました。また、市内中学校生徒会役員によるSTOPいじめ生徒会フォーラムを開催し、生徒提案による啓発活動について協議し、共通実践につなげました。

いじめ等対応支援員賃金(1人) 871,160円

いじめ問題専門委員会(9回) 73,500円

※いじめ事案報告件数42件(平成28年度46件)

(4) 就学指導委員会(8回)

医師や専門的な識見を有する教育、福祉関係者等20人が委員となる就学指導委員会を開催し、障がいのある56人の幼児・児童・生徒について調査、審議を行い、適切な就学先等について答申しました。(平成28年度対象児童:51人)。

委員報酬 66,000円

(5) 通級指導教室(かしわばら教室・まいばら教室・おおはら教室)

80人の対象児童に対し、発音や発達障がいに関わる支援等、個々の児童の課題に応じた指導を行いました。また、発達検査や教育相談を実施しました(平成28年度対象児童:62人)。

通級指導教室(事務費) 382,756円

(6) 特別支援教育総合推進事業

支援が必要な市内保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の幼児・児童・生徒への支援方法など相談員が延べ71回(平成28年度:95回)の巡回による助言・相談等を行いました。また、学生支援員により延べ81回(平成28年度:89回)の支援を行いました。

就学相談等 66,400円

学生支援員報償費 82,000円

(7) 少人数学級編制・少人数指導

35人学級対応の常勤講師を息長小学校に1人配置しました。また、年度途中に35人以上となった2学級(河南小学校・息長小学校)に対して、少人数指導ができるよう講師2人を配置し、学習習慣の定着と学力の向上に努めました。

35人学級対応常勤講師 2,658,000円

少人数学級臨時講師 1,593,870円

(8) 小中学校非常勤講師派遣

教科を指導する非常勤講師を派遣し、学習指導の充実に努めました。

小中学校非常勤講師(21人) 12,773,436円

(9) 森林環境学習やまのこ事業

森林への理解と関心を深めるとともに、人と豊かに関わる力を育むため、森林環境学習施設およびその周辺森林で体験型の学習を実施しました。

バス借上料(小学校9校) 756,915円

事前事後学習消耗品 116,970円

(10) 学校経営支援員の配置

学校経営支援員が学校を訪問し、校長の学校教育目標や学校経営方針について指導助言のほか、中堅教員の授業を参観し、面談する中で求められる資質や能力について指導を行うなど、人材育成に努めました。

評価の内容

(1) 特色ある学校づくり事業により、専門的な知識や技能を持った人材を積極的に活用することができ、児童生徒の学力、生活力の向上につながりました。

(2) 全ての中学校区で立ち上げた学校支援地域本部事業では、地域コーディネーターを各学校に配置し、それぞれの学校で行われているボランティア活動を組織的なものとするこで、地域に根ざした魅力ある学校づくりを推進することができました。

(3) いじめ等対応支援員の配置、いじめ問題専門委員会の実施等により、いじめの早期発見・未然防止が組織的に行え、問題の解決につなげることができました。


(4) 就学指導委員会や相談員による巡回相談により、特別な支援が必要な児童・生徒の個々の課題に応じた指導・支援を行いました。通級指導教室を1教室増やし3教室にしたことで、より多くの個別の支援を必要とする児童に対応することができました。

(5) 中学校へ専門教科を指導する非常勤講師の派遣や、少人数指導を実施し、教員が児童生徒一人一人に接する時間を増やすなど、きめ細かく充実した生活・学習指導の実施に努め、学力向上につなげました。年度途中の児童数増にも少人数指導講師を配置し、きめ細かく対応できました。

(6) 学校経営支援員の活用により、校長の学校経営者としての自覚を高めたほか、米原市の次代を担う中堅教員の資質向上を図ることができました。



評価

B

事業番号		12	
款	10 教育費	項	1 教育総務費
目	3 教育振興費		
事業名	継続	教育センター事業	主管課 教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	2,501,000	2,959,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	2,213,399	2,712,628	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	88.5	91.7	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
事業コスト		事業費	人件費(1.10 人 役)
決 算 額		2,213 千円	8,223 千円
市民1人当たり(39,486 人)		56 円	208 円
児童生徒1人当たり(3,137 人)		705 円	2,621 円
計			
10,436 千円			
264 円			
3,326 円			
事業の目的および内容			
<p>(1)市内の保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の教職員を対象にした研修を実施し、指導力の向上に努めます。</p> <p>(2)小中学校の児童・生徒の学力状況調査を行い、その結果を踏まえアクティブラーニングの手法を生かした授業改善を進めます。また、英語教育に関する調査研究、ICTに関する調査研究を行います。</p>			
事業の実績			
<p>(1)市内の保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の教師を対象に、全職員研修1回、若手職員研修、組織リーダー研修、教頭研修などの職層研修を9回、特別支援教育講座、教育法規講座、授業力アップ講座、地域探訪講座、情報教育講座、就学前講座、校内外研究講座などの希望研修を 年12 回実施し、延べ1,011人の参加がありました。満足度アンケートでは全講座平均91.8%の肯定的回答を得ました。</p> <p>教育センターおよび各部研修会講師謝礼 149,350円</p> <p>(2)小中学校の児童・生徒の学力状況調査を5月に実施し、その分析結果をもとに、指導法の工夫改善に関する実践研究を行いました。また、市内小学校5校を英語科の教育課程特例校とし、米原市独自のカリキュラムによる1年生からの英語科の授業のあり方を研究しました。また、電子黒板やタブレットの有効な活用方法について研究し、研究発表大会の場で発表しました。</p> <p>調査研究発表大会：平成30年2月15日(木) 会場：ルッチプラザ 学力状況調査委託料 1,222,419円</p> <p>(3)教育資料の作成に関する事業 米原市教育センターだより「はぐくみ」、研究紀要「米原教育」、研究論文集の発行 73,656円</p> <p>(4)その他 各教育関係部会補助金および負担金 417,103円</p>			
			 <p>【英語科授業力アップ講座】</p>
評価の内容			
<p>(1)教師力の向上を目指して、市内保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の教職員に各種研修・講座を開催し、今日的課題に即した実践的な研修を行いました。</p> <p>(2)学力状況調査は、基礎的な学力の定着、思考力・判断力・表現力の育成を目指すための基礎資料として活用することができました。</p> <p>(3)教職員の専門性、指導力の向上を目標に、調査研究部会(2部会)を開催しました。部会は、英語教育、ICTを活用した授業改善に関する部会で、部員による調査研究を進め、成果を発信しました。</p> <p>(4)教育研究奨励事業として117点(28年度：109点)の研究論文(個人・グループ)の応募があり、教職員の自主的な教育研究を進めました。</p>			<p>評価</p> <p>B</p>

事業番号		13	
款	10 教育費	項	1 教育総務費
目	3 教育振興費		
事業名	子どもサポート事業	主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	43,848,000	41,023,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	41,881,504	38,898,582	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	95.5	94.8	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
事業コスト		事業費	人件費(1.00 人 役)
決 算 額		41,882 千円	7,475 千円
市民 1 人当たり(39,486 人)		1,061 円	189 円
児童生徒 1 人当たり (3,137 人)		13,351 円	2,383 円
事業の目的および内容			
市内小中学校に子どもケアサポーターやスクリーニングケアサポーターの配置、適応指導教室の開設、教育相談の充実により、特別な支援が必要な児童生徒の個々の課題に応じた対応を行うとともに、不登校児童・生徒の学校、学級復帰に向けた支援をします。			
事業の実績			
(1)学校への子どもケアサポーター派遣(賃金 38,964,046円) 子どもケアサポーター22人を市内9小学校、6中学校に年間220日派遣しました。3人のスクリーニングケアサポーターを小・中学校に年間295回(1,180時間)派遣しました。 ①特別な支援が必要な児童生徒323人(平成28年度:285人)に個々の課題に応じた、きめ細かな指導支援を行いました。 ②不登校傾向のある児童生徒に対して、学力や生活力の向上に向けての支援を行いました。 (2)不登校児童・生徒に対する適応指導教室の運営(賃金 2,331,852円) 適応指導教室では、4人の入級児童生徒を2人の指導員が週4回、年間175回の指導を行いました。そのうち、2人が別室登校できるようになりました。また、適応指導教室への通級希望者のため体験見学の機会を設けました。 (3)児童・生徒の心の安定を図る教育相談 こころの教育相談事業では、心理判定職員(臨床心理士)1人が4会場(セラピールーム:山東庁舎と3公民館)において、年間相談延べ回数63回、22件(28年度:89回、28件)の児童生徒や保護者、関係する教職員の相談を受けました。			
評価の内容			
(1)特別な支援を必要とする児童生徒や不登校による別室登校の児童生徒への個別支援をすることにより、心の安定を図り、学習課題に意欲を持って取り組む姿が見られるようになりました。 (2)不登校傾向の児童生徒の保護者と学校、適応指導教室指導員、心理判定員との連携や相談を密にすることにより、適応指導教室への通所や在籍校への復帰、放課後登校等の成果が見られました。また、適応指導教室における体験や見学は、児童・生徒の自立を助けるための有効な活動となりました。 (3)児童生徒の不登校、うつ状態や学校不適応等の様々な心配について相談対応し、ひきこもりの改善、再登校、症状の緩和、保護者の安定といった成果が見られました。			
			評価
			B

事業番号		14											
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	1 学校管理費								
事業名		継続	小学校管理運営事業			主管課	教育委員会 学校教育課						
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり										
		基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち										
		単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進										
事業費(円)		29年度		28年度		財源内訳(円)		29年度		28年度			
予算額		67,153,000		71,254,000		国 費		0		0			
うち繰越		0		0		県 費		0		0			
決算額		64,874,826		67,265,800		市 債		0		0			
うち繰越		0		0		そ の 他		1,180,300		1,105,900			
執行率(%)		96.6		94.4		一般財源		63,694,526		66,159,900			
執行率80%以下の理由(29年度)						その他の内訳(29年度)							
						小学校共済掛金保護者負担金						871,700円	
						小学校施設使用料						308,600円	
事業コスト				事業費		人件費(0.60 人 役)			計				
決 算 額				64,875 千円		4,485 千円			69,360 千円				
市民1人当たり(39,486 人)				1,643 円		114 円			1,757 円				
児童1人当たり(2,042 人)				31,770 円		2,196 円			33,966 円				
事業の目的および内容													
(1)市内9小学校の児童が安全・安心で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行うとともに、児童が健やかに学校生活を過ごせるように児童、教職員の健康管理を行います。													
(2)開かれた学校づくりを一層推進するために、校長は学校評議員から意見を求めて、地域の意向を反映した地域に根ざした特色ある学校づくりを進めます。													
事業の実績													
(1)一般管理													
小学校の児童が安全・安心で質の高い教育を受け入れられるよう、適切な学校管理を行いました。													
①学校評議員報酬(45人) 430,000 円													
②光熱水費 29,982,284 円													
③通信運搬費 2,732,001 円													
④葉刈り、剪定、雪つりなどの委託料 656,310 円													
⑤事務機器使用料 1,613,895 円													
⑥臨時学校校務員賃金(8校分) 10,782,233 円													
(正規学校校務員の配置のない柏原小、山東小、大原小、伊吹小、春照小、米原小、河南小、息長小に配置)													
(2)健康管理													
小学校の児童が健やかに学校生活を過ごせるように児童、教職員の健康管理を行いました。													
①児童・教職員健康診断業務委託料 2,921,875 円													
②校医、歯科医、薬剤師報酬 3,886,376 円													
③日本スポーツ振興センター共済掛金 1,918,820 円													
④結核、心臓精密検査 67,414 円													
⑤飲料水検査(年1回) 81,648 円													
評価の内容										評価			
(1)各学校施設、設備の適切な管理運営に努めました。										B			
(2)児童の健やかな学校生活の基礎となる健康診断を児童、教職員に実施し、健康管理に努めることができました。													
(3)学校評議員研修会を開き、学校と家庭・地域との連携の在り方について協議を行いました。また、学校評議員制度によって、校長が地域の声を的確に把握しながら学校経営を行うことができました。													

事業番号		15	
款	10 教育費	項	2 小学校費
目	2 教育振興費		
事業名	継続 小学校教育振興事業	主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	44,571,000	45,409,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	43,130,777	43,807,004	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	96.8	96.5	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
		米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 2,500,000円	
事業コスト		事業費	人件費(1.40 人 役)
決 算 額		43,131 千円	10,465 千円
市民1人当たり(39,486 人)		1,092 円	265 円
児童1人当たり(2,042 人)		21,122 円	5,125 円
事業の目的および内容			
<p>(1)市内9小学校の児童に対して、地域の人材を活用した教育活動や修学旅行、校外活動などの様々な体験活動、国際理解協力員による国際理解教育の充実を図り、心豊かでたくましく生きる力を育む教育を推進します。</p> <p>(2)確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成を目指して、より良い学習環境を整えるため、教材の整備に努めます。</p>			
事業の実績			
<p>(1)修学旅行や校外活動に対する補助等を行い、教育の振興に努めました。 修学旅行、校外活動補助金 1,615,208 円</p> <p>(2)市内の小学校に国際理解教育協力員(4人)を配置し、外国の言語や文化に関心が持てるような学習活動を展開するなど、外国語活動、国際理解教育の推進を図りました。小学校の枠を超えて、英語に触れ合う機会として、イングリッシュフェスを実施しました。 国際理解教育推進事業 14,514,204 円</p> <p>(3)より良い学習環境を整えるため教材備品を購入しました。 【イングリッシュフェス】 ICT機器の充実のため、小学校4年生の全ての教室にテレビ型電子黒板1台を配備し、算数と理科のデジタル教科書とともに活用できるようにしました。また、理科備品については、国庫補助を受け充実を図りました(理科備品の全国平均充足率52.3% 米原市平均充足率52.5%)。 理科教材備品 136,564 円 電子黒板 15台 7,192,630 円 デジタル教科書(2教科) 1,166,400 円</p> <p>(4)各学校の教育目標を達成するために、学校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行を行いました。授業力向上を目的とした書画カメラ・プロジェクター等のICT機器の導入や先進地研修、体力向上を目的とした体育備品整備等、各校の実状、教育目標に合わせた取組を全ての小学校で実施しました。 学校経営予算制度 2,849,762 円</p> <p>(5)各小学校教育振興費 校内研究会、総合学習、スキー教室など講師謝礼 389,500 円 消耗品費(理科実験用消耗品等) 8,804,719 円 児童用図書 1,630,461 円</p>			
 			
【ICT活用した授業】			
評価の内容			
<p>(1)教育活動を充実するための必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。また、学校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度により、各学校の実状に応じた環境改善や、校長の思いを込めた学校経営を支援することができました。</p> <p>(2)国際理解教育協力員により、5年生・6年生の外国語活動に加え、1年生から4年生までの外国語活動を行い、児童の外国語や異文化に対する理解を深めることができました。また、英語科の教育課程特例校においては、小学校1年生から独自のカリキュラムによる英語教育を実施しました。さらに、イングリッシュフェスでは、2回合計86人の児童が生英語に触れる機会を持つことができました。</p> <p>(3)ICT機器の充実を図り、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業改善が進みました。</p>			
評価			B

事業番号		16				
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	1 学校管理費	
事業名		継続 中学校管理運営事業		主管課	教育委員会 学校教育課	
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
		基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち			
		単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進			
事業費(円)		29年度	28年度	財源内訳(円)	29年度	28年度
予算額		46,271,000	49,082,000	国 費	0	0
うち繰越		0	0	県 費	0	0
決算額		45,575,700	47,123,965	市 債	0	0
うち繰越		0	0	そ の 他	1,233,880	998,880
執行率(%)		98.5	96.0	一般財源	44,341,820	46,125,085
執行率80%以下の理由(29年度)				その他の内訳(29年度)		
				中学校共済掛金保護者負担金 459,080円		
				中学校施設使用料 774,800円		
事業コスト		事業費		人件費(0.60 人 役)		計
決 算 額		45,576 千円		4,485 千円		50,061 千円
市民1人当たり(39,486 人)		1,154 円		114 円		1,268 円
生徒1人当たり(1,095 人)		41,622 円		4,096 円		45,718 円
事業の目的および内容						
(1)市内6中学校の生徒が安全・安心で質の高い教育が受けられるよう、適切な学校管理を行うとともに、子どもたちが健やかに学校生活を過ごせるよう生徒、教職員の健康管理を行います。						
(2)開かれた学校づくりを一層推進するために、校長は学校評議員から意見を求めて、地域の意向を反映した地域に根ざした特色ある学校づくりを進めます。						
事業の実績						
(1)一般管理						
中学校の生徒が安全・安心で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行いました。						
①学校評議員報酬(30人) 290,000 円						
②光熱水費 22,849,299 円						
③通信運搬費 1,813,050 円						
④葉刈り、剪定などの委託料 498,810 円						
⑤事務機器使用料 1,353,480 円						
⑥臨時学校校務員賃金(4校分) 5,426,993 円						
(正規学校校務員の配置のない柏原中、伊吹山中、河南中、双葉中に配置)						
(2)健康管理						
中学校の生徒が健やかに学校生活を過ごせるように生徒、教職員の健康管理を行いました。						
①生徒、教職員健康診断業務委託料 3,460,709 円						
②校医、歯科医、薬剤師報酬 2,228,660 円						
③日本スポーツ振興センター共済掛金 1,029,795 円						
④結核、心臓精密検査 54,000 円						
⑤飲料水検査(年1回) 54,432 円						
評価の内容						評価
(1)各学校施設、整備の適切な管理運営に努めました。						B
(2)生徒の健やかな学校生活の基礎となる健康診断を生徒、教職員に実施し、健康管理に努めることができました。						
(3)学校評議員研修会を開き、学校と家庭・地域との連携の在り方について協議を行いました。また、学校評議員制度によって、校長が地域の声を的確に把握しながら学校経営を行うことができました。						

事業番号		17				
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	2 教育振興費	
事業名		中学校教育振興事業		主管課	教育委員会 学校教育課	
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
		基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち			
		単位施策	地域の特性に応じた学校運営の推進			
事業費(円)		29年度	28年度	財源内訳(円)	29年度	28年度
予算額		43,512,000	57,926,000	国 費	100,000	1,650,000
うち繰越		0	0	県 費	730,000	667,000
決算額		40,956,316	55,098,181	市 債	0	0
うち繰越		0	0	そ の 他	3,948,000	7,002,000
執行率(%)		94.1	95.1	一般財源	36,178,316	45,779,181
執行率80%以下の理由(29年度)				その他の内訳(29年度) 米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 3,948,000円		
事業コスト		事業費		人件費(1.00 人 役)	計	
決 算 額		40,956 千円		7,475 千円	48,431 千円	
市民 1 人当たり(39,486 人)		1,037 円		189 円	1,226 円	
生徒 1 人当たり(1,095 人)		37,403 円		6,826 円	44,229 円	
事業の目的および内容						
(1)市内6中学校の生徒に対して、地域人材を活用した教育活動や修学旅行、校外活動等の体験活動、部活動の公式大会参加への補助等を行い、心豊かでたくましく生きる力を育む教育を推進します。 (2)確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成に向けた学習環境を整えるため、教材の整備に努めます。						
事業の実績						
(1)修学旅行、校外活動および部活動の公式大会参加に対する補助等を行い、教育の振興に努めました。 修学旅行、校外活動補助金、生徒派遣補助金 8,338,500 円						
(2)市内の中学校に外国語指導助手(4人)を配置し、外国の言語や文化に関心が持てるような学習活動を展開するなど英語学習の推進を図りました。 外国語指導助手配置事業 16,253,289 円						
(3)より良い学習環境を整えるため教材備品を購入しました。ICT機器の充実のため、テレビ型の電子黒板を1年生のフロアに1台と数学と理科のデジタル教科書を配備しました。また、理科備品については、国庫補助を受け、理科備品の充実を図りました。 (理科備品の全国平均充足率30.4% 米原市平均充足率30.5%) 理科教材備品 199,956 円 電子黒板 7台 3,290,487 円 デジタル教科書(2教科) 894,240 円						
(4)各学校の教育目標を達成するために、学校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行が可能となりました。 授業力向上を目的とした書画カメラ・プロジェクター等ICT機器の導入、各校の実状、教育目標に合わせた取組を全ての中学校で実施しました。 学校経営予算制度 1,799,511 円						
(5)各中学校教育振興費 総合学習、校内研究会など講師謝礼 196,500 円 消耗品費(教材プリント用印刷用紙等) 6,206,106 円 生徒用図書 1,193,234 円						
(6)その他主な経費 自尊感情・学びの礎育成プロジェクト 300,000 円 (米原・河南学区) 中学2年生職場体験活動キャリア教育経費 427,587 円						
評価の内容						
(1)教育活動を充実するための必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。特に、部活動では、全国大会出場や全国大会優勝などの成果を上げてくれました。また、学校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度により各学校の実状に応じた環境改善、校長の思いを込めた学校経営を支援することができました。 (2)外国語指導助手により、生徒の外国語や異文化に対する理解を深めることができました。						
評価						
A						

事業番号		18	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 社会教育総務費		
事業名	社会教育総務事業		主管課 教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	家庭・地域の教育力の強化	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	866,000	967,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	854,694	889,906	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	98.7	92.0	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
事業コスト		事業費	人件費(1.13 人 役)
決 算 額		855 千円	8,447 千円
市民1人当たり(39,486 人)		22 円	214 円
計			
9,302 千円			
236 円			
事業の目的および内容			
<p>(1)社会教育行政に対して専門家や市民の意見を取り入れるため、社会教育委員会議を開催します。</p> <p>(2)社会教育関係の研究会、団体等の研修に参加することで職員等の資質向上に努めます。</p> <p>(3)家庭の教育力向上のため、家庭教育通信まいふあみ、広報まいばら、伊吹山テレビなどを活用し市全域に啓発を行います。</p> <p>(4)市民の生涯学習活動を支援するとともに、学んだ成果を生かして活動できる場の提供を行い、地域人材(講師)と市民をつなぐコーディネーターの役割を果たします。</p>			
事業の実績			
<p>(1)社会教育委員会議 市の社会教育事業および生涯学習事業の課題検討を行い、事業の質的向上に努めました。</p> <p>①定例会議の開催(5回)テーマ：公民館とコミュニティ</p> <p>②本市委員と他本市委員の意見交換会や共同研修を行いました。</p> <p>(2)家庭の教育力向上事業</p> <p>①家庭教育フォーラムの開催 演題：おしゃべりで支え合う家庭教育 講師：白井俊一 さん(人権ワークショップ研究会) 開催日：平成29年4月22日(土) 場所：市民交流プラザ 健康ルーム 参加人数：65人</p> <p>②家庭の教育力向上職員ワーキング会議の開催 子育て、教育関係各課の職員でワーキングチームを組織し、各課で取り組む家庭教育に関する事業についての情報交換、家庭教育通信まいふあみの発行を行いました。</p> <p>職員ワーキングチーム会議(第1回：5月、第2回：8月、第3回：11月)</p> <p>(3)出前講座事業 市職員等が講師となり、市民の依頼に応じて市民生活や生涯学習の推進に役立つ情報を届けました。</p> <p>利用実績：268回(平成28年度 279回 対前年度増減率▲3.9%) メニュー数：124講座(平成28年度 112講座 対前年度増減率+10.7%)</p> <p>(4)まなびサポーター事業 学んだ成果を生かし、市民が指導者(支援者)としてまちづくりや人づくりに取り組んでいただく制度の運用を行いました。</p> <p>まなびサポーター登録総数：216人 利用実績：92回(平成28年度 94回 対前年度増減率▲2.1%)</p> <p>(5)米原市女性の会活動事業補助 349,154円 女性の社会活動への参加推進を図るため、米原市女性の会に対し、事業費補助を行いました。</p>			
評価の内容			評価
<p>(1)家庭の教育力向上事業では、子育て・教育関係各課と連携し、家庭教育フォーラムの実施や、家庭教育通信まいふあみを発行し、子育て世帯に向けて啓発を行うことができました。</p> <p>(2)出前講座、まなびサポーター事業を展開し、日常生活で役立つ知識や技能を提供することができました。</p>			C

事業番号		19	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 社会教育総務費		
事業名	継続 人権教育推進事業	主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	一人一人が尊重され平和を大切にすま	
	単位施策	人権文化・人権教育の推進	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	1,429,000	1,553,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	1,379,032	1,499,126	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	96.5	96.5	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
		人権教育推進協議会等事業助成金 248,000円	
事業コスト		事業費	人件費(1.23 人 役)
決 算 額		1,379 千円	9,194 千円
市民1人当たり(39,486 人)		35 円	233 円
計			
10,573 千円			
268 円			
事業の目的および内容			
(1)人権尊重、人権擁護が確立される明るく住みよいまちづくりの実現を目指し、米原市人権教育推進協議会と連携をとりながら、各種研修会、人権講座を実施します。 (2)地域の人権課題の早期解決のため、ハートフル・フォーラム(地区別懇談会)を推進します。			
事業の実績			
(1)米原市人権教育推進協議会活動事業費補助および事業推進を行いました。 ①活動事業費に対する補助 1,351,172円 ②地域人権リーダー研修会 ハートフル・フォーラムの説明会を兼ね、平成29年度のテーマである「高齢者の人権」に沿った内容の研修会を開催しました。 開催日：平成29年6月30日(金) 場所：市民交流プラザ 参加人数：264人(平成28年度 233人) 内容：ハートフル・フォーラムの実施方法の説明、平成29年度テーマに関する人権啓発教材視聴 ハートフル・フォーラムの実践事例発表 ③きらめき人権講座(4回シリーズ)の開催			
開催日	テーマ	講師	場所
7月20日(木)	違っているけど、つながっている～いじめや排除を考える～(人権ワークショップ)	白井俊一さん	人権総合センター
8月22日(火)	これからが、これまでに決める(高齢者の人権)	譲 西賢さん	人権総合センター
9月21日(木)	謂れなき差別は、どのようにしてつくられたのか～中世 部落差別がつけられた起こりととは～	味岡一博さん	人権総合センター
10月16日(月)	多文化共生の地域づくり～グローバル化時代に求められるもの～	池上重弘さん	人権総合センター
④ハートフル・フォーラムの自治会での開催 平成29年度推奨テーマ 高齢者の人権 ～認知症と共に生きる～ ハートフル・フォーラムが各自治会で開催されました。 85自治会で開催(開催率：79.4%) 2,510人 (平成28年度 86自治会、2,642人) ⑤人権を考えるつどい(人権政策課と共催) テーマ：子どもの心とどう向き合うか～地域で支える子どもの未来～ 講師：石川結貴さん 開催日：平成29年11月25日(土)場所：市民交流プラザ 参加人数：202人(平成28年度 285人)			
(2)同和教育推進本部研修会 差別解消三法の基礎知識を身に付けるため、市職員、教職員を対象に研修会を開催しました。 テーマ：行政職員として差別解消三法をどのように具現化していくか 講師：高木洋司さん 開催日：平成30年2月6日(火)場所：山東庁舎 参加人数：43人(平成28年度 48人)			
評価の内容			評価
(1)地域人権リーダー研修会やきらめき人権講座等を開催し、市民の人権意識、人権感覚の向上に努め、それぞれの立場で活躍いただける人権リーダーの育成を行うことができました。 (2)主体的な学習の場であるハートフル・フォーラムを推進し、市民に人権学習の機会を提供することができました。			C

事業番号		20	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 社会教育総務費		
事業名	地域人材育成事業	主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち	
	単位施策	学びを生かした人材育成の推進	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	478,000	916,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	472,451	743,610	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	98.8	81.2	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
		社会教育事業関係受講料 170,000円	
		県市町村職員互助会講演会助成金 50,000円	
事業コスト		事業費	人件費(0.50 人 役)
決 算 額		472 千円	3,738 千円
市民1人当たり(39,486 人)		12 円	95 円
学生1人当たり(17)		27,765 円	219,882 円
計			
4,210 千円			
107 円			
247,647 円			
事業の目的および内容			
<p>ルッチまちづくり大学は、「地域に根ざす。幸せになる。」をコアコンセプトに人を育てる市民カレッジです。市民の自発的に学び続ける意欲に応え、楽しく学びながら、自ら考え、話し合い、それを踏まえて力強く行動できる“人材”を複数年体制(3年間)で育成します。</p> <p>また、市民立大学(地域の教育の主体者として市民がつくる学びの場という意味)を志向し、卒業生と行政が対等な立場で協働で運営するルッチみらい会議を中心とした運営を行い、多様な主体と連携しながら事業効果を高めていきます。</p>			
事業の実績			
<p>(1)ルッチまちづくり大学(8期生)【27回開講(前年度比+5回)】</p> <p>将来の仲間づくりを志向したグループ学習方式の事例研究と、現場調査やイベント参画などのフィールドワークをバランスよく配置し、効果的なカリキュラムを展開しました。</p> <p>(2)公開講座の開催【7回開催(平成29年度7回)】</p> <p>ルッチまちづくり大学の広報、成果の市民還元を目的に開催しました。</p> <p>各自の気づきを共有する機会を取り入れること、多様な主体と共催することを意識しました。</p>			
	講師	テーマ	内容
寛 裕介さん	issue+ design 博報堂	「みんなでつくる 総合計画」 ～高知県佐川町の事例～	当市の総合計画について、市民と行政と一緒に実践していくことを目的として開催しました。
白井 文さん	ドーン財団業務執行理事 前尼崎市長	人生を自分らしく 輝くものにするために	人権政策課、米原市女性の会とともに女性活躍推進 フォーラムとして開催しました。
日野眞明さん	MORE経営コンサルティング	ビジネスのいろは	米原ドリーム創業セミナーとの共催で開催しました。
岩寄博論さん	博報堂	地域ブランディングと まちの活性化	地域ブランディングの手法や事例を学び、ワーク ショップ形式で事例分析を行いました。
平賀研也さん	県立長野図書館	まちづくりの人財ノ森集会	吉成 信夫さん、磯井 純充さんもお招きし、パネルディスカッション形式で開催しました。
濱 大輔さん	箕面こどもの森学園	子どもの学び育ちを考える	講師の問題意識、イエナプランの話題提供を軸として テーマについて考える機会を持ちました。
瀧健太郎さん	県立大学 准教授	市民協働事業をまぜる	平成30年度事業の採択団体と担当課など、関係者が一 堂に会し、開催されました。
<p>(3)卒業生の活動支援、ネットワーク強化</p> <p>卒業生を中心とした市民協働事業団体「MatteMatteまいばら委員会」の設立を支援しました。</p>			
評価の内容			評価
<p>(1)多様な講師による少人数講義で、受身ではなく、自発的な学習、実践活動を促すことが できました。</p> <p>(2)フィールドワークを通じて、現場を知り、学生同士の横の連携が進展しました。</p> <p>(3)公開講座は、成果を市民に還元し、まちづくりの機運を高めることにつながりました。</p> <p>(4)多様な主体とのネットワークが広がり、事業展開の基盤を強固にすることができました。</p>			B

事業番号		21			
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費
事業名		文化のまちづくり事業		主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり		
		基本施策	誇りと愛着のある地域文化を守り生かし伝えるまち		
		単位施策	文化・芸術の振興		
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)	29年度	28年度
予算額	4,119,000	4,280,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	4,059,591	4,105,136	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	351,324	331,500
執行率(%)	98.6	95.9	一般財源	3,708,267	3,773,636
執行率80%以下の理由(29年度)			その他の内訳(29年度)		
			市展出品参加料 133,000 円		
			市展後援団体負担金 14,324 円		
			下倉祺世基金繰入金 204,000 円		
事業コスト		事業費	人件費(1.05 人 役)	計	
決 算 額		4,060 千円	7,849 千円	11,909 千円	
市民1人当たり(39,486 人)		103 円	199 円	302 円	
事業の目的および内容					
(1) 芸術を創造し、鑑賞する喜びを享受し、文化の薫り高いまちづくりを目指して、米原市芸術展覧会を開催します。					
(2) 市民の芸術文化の振興を図るため、米原市文化協会の活動事業に対する支援を行います。					
事業の実績					
(1)米原市芸術展覧会の開催 1,159,620円					
①芸術展覧会企画会議の開催(年間5回)					
②美術部門展覧会					
会期：平成29年10月7日(土)～15日(日) 場所：市民交流プラザ					
出品数：絵画部門 86点、彫刻・工芸部門 29点、書部門 28点、写真部門 105点					
合計 248点(うち市内在住者出品数 80点) (平成28年度 244点)					
③音楽部門最終審査発表会					
開催日：平成29年12月3日(日) 場所：市民交流プラザ					
出品数：99点(うち市内在住者出品数 85点) (平成28年度 102点)					
④近江はにわ館リノベーション記念展「米原市芸術展覧会受賞者作品展」					
開催日：平成29年12月2日(土)～平成30年1月27日(土) 場所：近江はにわ館					
内容：本年度美術部門入賞の作品および過去の市展賞、教育長賞の作品等計89点を展示					
(2)音楽でまちづくり事業業務委託料 499,932円					
①作詞・作曲教室の実施					
息長小学校6年生2クラス、山東小学校5年生1クラスにて実施					
②楽譜集の作成、芸術展覧会音楽部門に出品					
息長小学校40作品、山東小学校29作品					
(3)米原市文化協会事業補助金 2,400,039円					
①米原市文化協会					
会員数：983人、団体数：77団体(平成30年3月31日現在)					
②各支部の支援、部会交流活動					
4支部の活動に対する補助を行い、部会の交流促進のため芸能発表会と作品展を開催しました。					
③機関誌「天ノ川」の発行					
機関誌を全戸配布し、文化協会所属団体の活動内容を紹介するとともに入会へのPRを行いました。					
評価の内容					評価
(1) 総出品数は昨年度を超え、市内で本展覧会が定着してきています。また、他府県(岐阜県や愛知県、大阪府)からの出品もあり、全国公募の本展覧会の取組が広がってきています。					C
(2) 文化協会では、4支部(山東支部、近江支部、米原支部、伊吹支部)における文化祭の開催や部会間の交流事業などを行い、文化振興に貢献することができました。					



【近江はにわ館記念展】

事業番号		22				
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名	継続	市民交流プラザ管理運営事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり				
	基本施策	誇りと愛着のある地域文化を守り生かし伝えるまち				
	単位施策	文化・芸術の振興				
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)	29年度	28年度	
予算額	58,432,000	56,657,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	58,413,031	55,895,122	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	そ の 他	10,926,314	9,102,268	
執行率(%)	100.0	98.7	一般財源	47,486,717	46,792,854	
執行率80%以下の理由(29年度)			その他の内訳(29年度)			
			市民交流プラザ施設等使用料 3,252,380 円 市民交流プラザラウンジ共益費 120,000 円 市民交流プラザ管理経費負担金 4,498,454 円 市民交流プラザ自主事業入場料 2,836,062 円 その他諸収入 219,418 円			
事業コスト		事業費	人件費(1.90 人 役)	計		
決 算 額		58,413 千円	14,203 千円	72,616 千円		
市民1人当たり(39,486 人)		1,479 円	360 円	1,839 円		
事業の目的および内容						
(1) 市民交流プラザ(ルッチプラザ)は、市民の文化活動、生涯学習、健康福祉サービスを通じて様々な交流ができる市民協働活動の拠点施設としての機能の充実を目指し、自主事業および貸館業務の質的向上に努めます。						
(2) ベルホール310は、県内屈指の音楽専門ホールである特徴を生かして、文化情報の発信拠点として重要な地域資源であるという認識のもと、地域の音楽文化の向上を目指し、中学生吹奏楽部ワークショップ、りれーピアノ発表や自主公演などを企画、実施します。						
(3) 市民交流プラザの施設や設備の適切な維持管理に努め、経年劣化に伴う設備の改修や修繕を行い、利用者の利便性の向上を図ります。						
事業の実績						
市民交流プラザの管理運営および自主企画事業を実施しました。						
(1)管理運営						
①臨時職員賃金(3人分)			4,427,120 円			
②燃料費、光熱水費(電気、ガス、水道、下水道代)			20,378,145 円			
③管理委託料(清掃、機械設備保守点検、夜間管理代行)			11,537,387 円			
④公演委託料			8,280,635 円			
⑤施設修繕費(非常灯バッテリー交換等)			7,287,574 円			
⑥その他(印刷、通信運搬費、使用料、補助金など)			4,308,913 円			
(2)自主事業(公演事業)						
①年間20回の事業実施(平成28年度21回)入場者数 5,238人(平成28年度4,730人)						
②入場料収入 2,836,062円(平成28年度2,007,101円)						
No.	開催日	イベント名			入場者数(人)	
1	4/22(土)	北の音楽祭 動物の謝肉祭			439	
2	4/30(日)	2017 台日友好文化交流コンサート			265	
3	5/14(日)	あのことVol3			215	
4	6/11(日)	いのちのコンサート			319	
5	7/2(日)	カーニバルッチ			500	
6	7/16(日)	ひこね第九オーケストラ演奏会			162	
7	8/6(日)	第34回 りれーピアノ発表会			123	
8	8/12(土)	じゃんぐるっち			700	
9	8/23(水)~25(金)	中学生吹奏楽部ワークショップおよび成果発表			210	
10	9/2(土)	ジャズトライアングル			135	
11	9/10(日)	ガッキーとゆかいな仲間たち			166	
12	10/1(日)	奥華子コンサート			250	
13	10/7(土)	台所協奏曲コンサート(ホールサポーター企画事業)			100	
14	11/18(土)	正倉院の響きⅡ			108	

事業の実績

15	12/9(土)	小野リサコンサート	326
16	1/28(日)	エンジョイ・ザ・バロックコンサート	360
17	2/11(日)	映画「関ヶ原」上映	234
18	2/17(土)	日本の歌 昭和の歌コンサート	324
19	3/25(日)	第35回 りれーピアノ発表会	142
20	3/31(土)	フルート室内楽コンサート	160

(3)貸館事業

平成29年度ホール利用件数(貸館) 198回 利用者数(貸館) 17,949人
(平成28年度ホール利用件数(貸館) 162回 利用者数(貸館) 14,309人)

(4)平成29年度ルッチプラザ・ベルホール310稼働率

	開館 日数	ホール		スタジオ	
		稼働日数	稼働率 (%)	稼働日数	稼働率 (%)
4月	26	7	26.9	10	38.5
5月	26	18	69.2	10	38.5
6月	26	20	76.9	9	34.6
7月	26	18	69.2	17	65.4
8月	27	18	66.7	19	70.4
9月	26	11	42.3	12	46.2
10月	26	17	65.4	7	26.9
11月	26	23	88.5	8	30.8
12月	24	17	70.8	9	37.5
1月	24	13	54.2	11	45.8
2月	24	21	87.5	6	25.0
3月	27	15	55.6	15	55.6
合計	308	198	64.3	133	43.2
平成28年度	308	162	52.6	132	42.9

(5)平成29年度ベルホール310サポーターミーティング活動実績

- ①自主事業公演の運営協力
- ②サポーター企画、「台所協奏曲」の実施
- ③カーニバルッチの企画運営協力(7月2日に多文化共生協会との共催で実施)
- ④じゃんぐるっちの企画運営協力(8月12日に全館タイアップの夏祭りイベントとして実施)

(6)じゃんぐるっち開催 参加者 約700人

複合施設であるルッチプラザの事業として、夏祭りじゃんぐるっちを実施しました。健康推進員の手作りスイーツ配布、映画上映、模擬店、デイサービスセンターのお楽しみコーナーなどイベントを開催し、市内の親子を中心に夏休みのひとときを過ごす場を提供しました。



(7)カーニバルッチ開催 参加者 約500人

国際的なイベントの展開として、カーニバルッチを実施しました。サンパ隊によるダンスやフラダンス、浴衣体験や多国籍屋台、江州音頭など各国の食や文化をお楽しみいただきました。



【カーニバルッチ】

評価の内容


- (1) 共催事業を拡充したことで市予算の負担額を抑えて、年間20回の公演事業を行いました。例年定期的に実施している事業が定着してきたことによって、利用者に広く、文化や芸術に触れる機会を提供し、文化の振興を図ることができました。また、りれーピアノや中学生吹奏楽部ワークショップ事業継続の結果として、ピアノの練習による平日利用が定着しました。
- (2) 運営に当たっては、ベルホール310サポーターミーティング組織とともに協働して実施することができました。ルッチプラザの夏祭りじゃんぐるっちでは、サポーターミーティング以外にも、デイサービスセンター、健康推進員、文化協会所属団体、警察署、消防署、税務署など、各方面からの参画を得て開催することができ、多くの親子連れや地域の子どもたちが来館して、市民交流の場を創出することができました。
- (3) 施設の修繕を計画的に実施し、室外機施設囲取壊し工事、真空遮断器等交換工事、非常灯バッテリー交換を行ったことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。

評価

C

事業番号		23			
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費
事業名	伊吹薬草の里文化センター管理運営事業	主管課	教育委員会生涯学習課		
総合計画上の位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち			
	単位施策	学びの場づくりの推進			
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)	29年度	28年度
予算額	72,452,000	57,554,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	72,444,858	57,545,034	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	10,000,000	0
執行率(%)	100.0	100.0	一般財源	62,444,858	57,545,034
執行率80%以下の理由(29年度)			その他の内訳(29年度)		
			米原ガンバレ！ふるさと応援寄付金 10,000,000円		
事業コスト		事業費	人件費(0.20 人役)	計	
決 算 額		72,445 千円	1,495 千円	73,940 千円	
市民1人当たり(39,486 人)		1,835 円	38 円	1,873 円	
事業の目的および内容					
市民の生涯学習やサークル活動を支援するために、研修室、図書室、薬草風呂、薬草園、ジョイホールなどを備えた施設である伊吹薬草の里文化センターの管理運営について、市民がより利用しやすい施設運営を目指し、指定管理者による施設の運営を行います。					
事業の実績					
<p>(1)指定管理者により、施設の管理および各種事業の展開を行いました。</p> <p>伊吹薬草の里文化センター指定管理委託料 51,571,000円</p> <p>指定管理者：伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団</p> <p>利用者数：46,184人(平成28年度 44,860人 対前年度増減率 +2.9%)</p> <p>うち ホール：5,804人(平成28年度 8,986人 対前年度増減率▲35.4%)</p> <p>公民館講座：28種類 延べ121回開講</p> <p>ホール事業：コンサート事業、キッズフェス ほか</p> <p>薬草の里フェス、夏まつり息吹の奏、伊吹山音楽祭 ほか</p> <p>薬草風呂、薬草園、いぶき図書室の管理運営</p> <p>薬草風呂利用者：29,843人(平成28年度 31,525人 対前年度増減率▲5.3%)</p> <p>(2)施設設備修繕 2,066,688円</p> <p>設備の不具合箇所を修繕しました。</p> <p>加圧給水ポンプ(散水用)改修 777,600 円</p> <p>消防設備改修 469,800 円</p> <p>漏水修繕ほか4件 819,288 円</p> <p>(3)施設改修工事 6,368,760円</p> <p>施設の改修工事を行いました。</p> <p>加圧給水ポンプ改修工事 2,826,360 円</p> <p>舞台吊物設備改修工事 3,542,400 円</p> <p>(4)施設活性化事業 10,000,000円</p> <p>薬草を通した観光の拠点化に向け、展示ホールを改修しました。(愛称：Galleryかくとだに)</p>					
					<p>【Galleryかくとだに】</p>
<p>評価の内容</p> <p>(1)公民館を始めホール、薬草風呂、いぶき図書室、薬草園などを有した複合施設として、地域の特色を生かし、伊吹山や薬草の里にふさわしい事業を含め、子どもから高齢者まで誰もが参加しやすい幅広い事業を実施することができました。</p> <p>(2)施設の修繕や改修を行ったことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。</p>					
評価					B

事業番号		24									
款	10 教育費	項	5 社会教育費								
目	1 社会教育総務費										
事業名	継続	生涯学習センター管理運営事業	主管課 教育委員会 生涯学習課								
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり									
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち									
	単位施策	学びの場づくりの推進									
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)								
予算額	11,241,000	13,576,000	国 費								
うち繰越	0	0	県 費								
決算額	11,237,090	12,969,476	市 債								
うち繰越	0	0	そ の 他								
執行率(%)	100.0	95.5	一般財源								
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)									
		大原生涯学習センター管理経費負担金 1,060,206円									
事業コスト		事業費	人件費(0.35 人 役)								
決 算 額		11,237 千円	2,616 千円								
市民1人当たり(39,486 人)		285 円	66 円								
計											
1,495 千円											
351 円											
事業の目的および内容											
市民の生涯学習活動拠点である生涯学習センターの維持管理、利用者対応を行います。											
事業の実績											
<p>(1)大原生涯学習センター</p> <p>①利用人数：2,037人(平成28年度 1,934人 対前年度増減率+5.3%)</p> <p>②管理経費(光熱水費等)：1,300,188円</p> <p>③施設修繕費：1,010,880円</p> <p>④施設維持管理業務委託料：278,856円</p> <p>⑤PCB廃棄物処分委託料：333,720円</p> <p>※平成30年3月31日をもって生涯学習機能を廃止しました。</p>											
<p>【大原生涯学習センター】</p> 											
<p>(2)山東生涯学習センター</p> <p>指定管理者による貸館業務、施設の管理運営のほか、自主事業として歌声喫茶や書道教室など地域の方を始め、多くの方に参加いただき、くつろぎの場、学習の場を提供しました。</p> <p>①指定管理者：タウンルッチ 指定管理委託料：7,445,000円</p> <p>事業：貸館業務、施設管理運営</p>											
<p>②利用人数：5,530人(平成28年度 4,872人 対前年度増減率+13.5%)</p>											
<p>③施設の修繕および改修工事</p> <table border="1"> <tr> <td>玄関天井雨漏修繕</td> <td>140,000円</td> </tr> <tr> <td>物置屋根修繕ほか</td> <td>105,840円</td> </tr> <tr> <td>エアコン購入</td> <td>399,600円</td> </tr> <tr> <td>AED購入</td> <td>161,870円</td> </tr> </table>				玄関天井雨漏修繕	140,000円	物置屋根修繕ほか	105,840円	エアコン購入	399,600円	AED購入	161,870円
玄関天井雨漏修繕	140,000円										
物置屋根修繕ほか	105,840円										
エアコン購入	399,600円										
AED購入	161,870円										
<p>【きんせい寄席】</p> 											
評価の内容			評価								
<p>地域住民の身近な学びの場、くつろぎの場として、学びの機会を提供し、地域住民のニーズに合った生涯学習事業を展開することができました。</p>			C								

事業番号		25	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	2 青少年育成費		
事業名	継続	次代を担う青少年育成事業	主管課 教育委員会生涯学習課
総合計画上の位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち	
	単位施策	学びを生かした人材育成の推進	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	769,000	789,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	736,257	711,904	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	95.7	90.2	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
事業コスト		事業費	人件費(0.36 人 役)
決 算 額		736 千円	2,691 千円
市民1人当たり(39,486 人)		19 円	68 円
対象者1人当たり(479 人)		1,537 円	5,618 円
事業の目的および内容			
<p>新成人の明るい未来と今後の地域貢献を願い、地域全体で新成人を祝福する場として成人式を開催します。</p>			
事業の実績			
<p>新成人を家族や恩師など関係者が一堂に会して祝福する場として、また今後の人生への希望や決意とともに、郷土愛や社会貢献について認識してもらう場として、成人式を開催しました。</p> <p>新成人者の有志により実行委員会を組織し、企画運営を行いました。オープニングアトラクション、二十歳のメッセージ、思い出アルバム、交歓会等の企画を新成人がアイディアを出し合いながら、自分たちの成人式を創り上げました。</p>			
<p>実行委員会の開催 4回開催 実行委員19人</p> <p>成人式の開催 日時：平成30年1月7日(日) 場所：県立文化産業交流会館 対象者数：479人(平成28年度495人 対前年度増減率▲3.2%) 参加人数：376人(平成28年度417人 対前年度増減率▲9.8%) 参加率：78.5%(平成28年度84.2% 対前年度増減▲5.7ポイント)</p>			
<div> <div>式典内容</div> <div> ① オープニングアトラクション ② 市長式辞 ③ 来賓祝辞 ④ 二十歳のメッセージ(新成人代表) ⑤ 思い出アルバムの上映 ⑥ 記念写真撮影 ⑦ 交歓会 </div> </div>			
		【成人式】	
評価の内容			評価
<p>(1) 成人式の企画や当日の運営について新成人有志の実行委員が主体となって、成人式を開催することができました。新成人にとって、今後の人生への希望や決意を深く考える機会となりました。</p> <p>(2) 今年から手話通訳、要約筆記、託児支援、大きな文字による案内表示、色による新成人誘導、事前の出欠報告はがきによる必要支援の把握等様々な合理的配慮を行い、誰もが参加しやすい優しい成人式を実現することができました。</p>			B

事業番号		26			
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	3 公民館費
事業名	継続	公民館管理運営事業			主管課 教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち			
	単位施策	学びの場づくりの推進			
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)	29年度	28年度
予算額	111,824,000	124,208,000	国 費	0	0
うち繰越	8,263,000		県 費	0	0
決算額	110,588,905	115,454,944	市 債	0	0
うち繰越	7,230,600		そ の 他	7,230,600	0
執行率(%)	98.9	93.0	一般財源	103,358,305	115,454,944
執行率80%以下の理由(29年度)			その他の内訳(29年度) 繰越事業費等充当財源繰越金 7,230,600 円		
事業コスト		事業費	人件費(1.08 人 役)	計	
決 算 額		110,589 千円	8,073 千円	118,662 千円	
市民 1 人当たり(39,486 人)		2,801 円	204 円	3,005 円	
利用者 1 人当たり (113,695)		973 円	71 円	1,044 円	
事業の目的および内容					
(1)公民館は、地域住民の身近な学びの場として、生涯を通じて学び続ける意欲に応え、地域づくりやコミュニティ活動の拠点としての役割も果たしながら、地域の活性化を図っています。 (2)指定管理者制度を導入し、地域性を生かした使いやすい施設とするため、地域に密着した団体に管理運営を委託します。					
事業の実績					
(1)指定管理者により、各施設の管理および各種事業の展開を行いました。 ①米原公民館 指定管理委託料 29,413,000円 指定管理者：NPO法人FIELD 利用者数：49,642人(平成28年度 45,522人 対前年度増減率+9.1%) 事業：こども造形教室、親子広場、おはなし会、自然体験教室、民俗学講座、古地図講座、三味線教室、着物着付け教室、米原一日遠足 ほか 【実績】講座：26種類 延べ314回開講 ②近江公民館 指定管理委託料 35,390,000円 指定管理者：NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会 利用者数：44,222人(平成28年度 43,317人 対前年度増減率+2.1%) 事業：和太鼓教室、リトミック教室、学カステップアップ、料理・スイーツ教室 ほか 【実績】講座：17種類 延べ301回開講 ③山東公民館 指定管理委託料 29,641,000円 指定管理者：NPO法人カモンスポーツクラブ 利用者数：19,831人(平成28年度18,809人 対前年度増減率 +5.4%) 事業：子ども将棋教室、通学館、いけ花教室、ものづくり探訪、パン工房、パソコン講座 ほか 【実績】講座：20種類 延べ144回開講 (2)施設設備修繕 485,244円 施設や設備等の不具合箇所を修繕し、利用しやすい施設としました。 (3)施設改修工事 14,966,640円 施設の改修工事を行いました。 米原公民館 非常用照明改修 5,544,720円 窓クレセント(鍵)改修 2,191,320円 山東公民館 非常用発電機改修 7,230,600円					
評価の内容					評価
(1)多様な学習機会を提供し、地域の団体・事業者など多様な主体と連携しながら、地域の実情、時代のニーズを的確に捉えた学習機会を提供できました。 (2)子育て世代や、青少年、現役世代など、次代を担う若者たちにアプローチする事業を多く展開できました。 (3)指定管理者による施設管理運営により、効率的で効果的な運営ができました。 (4)施設の修繕や改修を行ったことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。					C

事業番号		27			
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	2 体育施設費
事業名	継続	体育施設管理運営事業			主管課 教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり			
	基本施策	スポーツによって、人と人、地域と地域がつながるまち			
	単位施策	スポーツを身近に楽しめる環境づくり			
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)	29年度	28年度
予算額	209,243,000	103,013,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	171,452,405	101,122,037	市 債	5,900,000	0
うち繰越	0	0	そ の 他	97,242,120	23,305,400
執行率(%)	81.9	98.2	一般財源	68,310,285	77,816,637
執行率80%以下の理由(29年度)			その他の内訳(29年度)		
			一般廃棄物最終処分場周辺地域 環境整備基金繰入金 97,242,120 円		
事業コスト		事業費	人件費(0.90 人 役)	計	
決 算 額		171,452 千円	6,728 千円	178,180 千円	
市民1人当たり(39,486 人)		4,342 円	170 円	4,512 円	
事業の目的および内容					
(1)誰もが身近にスポーツに親しめるよう、市内体育施設の維持管理を行います。					
(2)いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも気軽にスポーツができる環境づくりのため、番場地先に多目的広場を整備します。					
事業の実績					
(1)指定管理者に社会体育施設の管理運営を委託しました。					
①山東グラウンド、市民体育館：NPO法人カモンスポーツクラブ					
指定管理料： 3,058,000円					
グラウンド 11,641人(平成28年度 14,024人 対前年度増減率 ▲ 17.0%)					
体育館 14,032人(平成28年度 13,199人 対前年度増減率 + 6.3%)					
②すばーく米原、米原野球場、息郷体育館：NPO法人MOSスポーツクラブ					
指定管理料： 8,770,468円					
すばーく米原 12,812人(平成28年度 12,613人 対前年度増減率 + 1.6%)					
野球場 3,405人(平成28年度 3,462人 対前年度増減率 ▲ 1.6%)					
体育館 879人(平成28年度 849人 対前年度増減率 + 3.5%)					
③近江グラウンド：NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会					
指定管理料： 1,019,000円					
グラウンド 6,693人(平成28年度 4,589人 対前年度増減率 + 45.8%)					
④双葉総合体育館：近江スポーツクラブ					
指定管理料： 11,423,967円					
体育館 18,148人(平成28年度 17,003人 対前年度増減率 + 6.7%)					
⑤山東B&G海洋センター：(株)スポーツプラザ報徳					
指定管理料： 16,530,000円					
プール 30,954人(平成28年度 10,311人 対前年度増減率 + 200.2%)					
体育館 10,679人(平成28年度 10,297人 対前年度増減率 + 3.7%)					
⑥伊吹B&G海洋センター、伊吹第1・第2グラウンド、伊吹テニスコート					
：(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団					
指定管理料： 15,272,000円					
プール 3,239人(平成28年度 2,407人 対前年度増減率 + 34.6%)					
第1グラウンド 9,569人(平成28年度 10,669人 対前年度増減率 ▲ 10.3%)					
第2グラウンド 16,469人(平成28年度 12,070人 対前年度増減率 + 36.4%)					
テニスコート 1,744人(平成28年度 1,912人 対前年度増減率 ▲ 8.8%)					

事業の実績

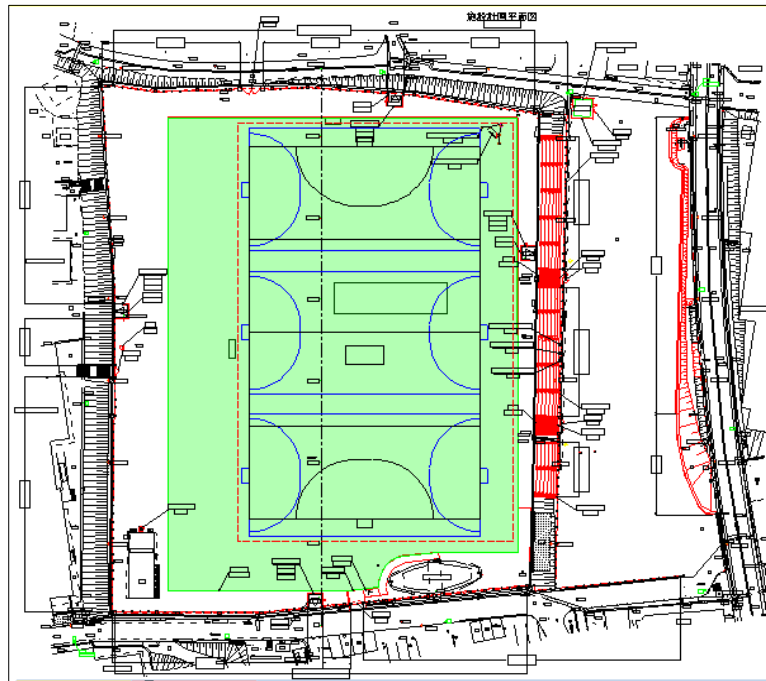
(2) 社会体育施設の整備、改修のため必要な業務を行いました。

- ① 多目的広場設計監理・工事 98,278,640 円
 【内訳】雨水調整流量検討業務 864,000 円
 施設建築工事 25,755,840 円
 造成工事 55,839,240 円
 電気設備工事 9,903,600 円
 舗装工事 5,743,440 円
 建築確認申請業務 172,520 円



【造成後の多目的広場】

- ② 伊吹第1グラウンド改修工事設計業務 10,702,800 円



【伊吹第1グラウンドの完成イメージ】

評価の内容

- (1) 指定管理者による体育施設の適切な維持管理が行われ、多様な市民ニーズに対応したスポーツ活動の場を提供することにより、スポーツを通じた市民の相互交流が図れました。
- (2) 番場地先に地域住民のレクリエーション広場としての利用を目的とした多目的広場を整備するため、造成工事などを実施しました。
- (3) 2024年の滋賀国体を見据え、伊吹第1グラウンドを人工芝グラウンドに整備するため、設計業務を実施しました。

評価

B

事業番号		28											
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	3 体育振興費								
事業名		継続	スポーツ推進事業			主管課	教育委員会 生涯学習課						
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり										
		基本施策	スポーツによって、人と人、地域と地域がつながるまち										
		単位施策	地域スポーツ活動の充実										
事業費(円)		29年度		28年度		財源内訳(円)		29年度		28年度			
予算額		35,425,000		37,563,000		国 費		0		0			
うち繰越		0		0		県 費		0		0			
決算額		33,239,222		35,273,817		市 債		0		0			
うち繰越		0		0		そ の 他		2,760,000		1,500,000			
執行率(%)		93.8		93.9		一般財源		30,479,222		33,773,817			
執行率80%以下の理由(29年度)						その他の内訳(29年度)							
						社会体育事業参加料 10,000 円 地域の絆でまちづくり基金繰入金 2,750,000 円							
事業コスト				事業費		人件費(4.10 人 役)		計					
決 算 額				33,239 千円		30,648 千円		63,887 千円					
市民1人当たり(39,486 人)				842 円		776 円		1,618 円					
事業の目的および内容													
(1)市民の多様なスポーツニーズに応え、生涯スポーツ・競技スポーツ推進を図るとともに、指導者や選手の育成を行い、スポーツコミュニティまいばらの実現に向けて、関係団体と引き続き協議を行います。また、市民のスポーツへの関心を更に深める取組を行います。													
(2)米原市民総スポーツの日を制定し、各自治会の体育振興員と連携を図りながら地域スポーツ活動を充実することで、スポーツを通じたコミュニティを形成することにより、希望と元気あふれる明るいまちづくりにつなげます。													
(3)2024年の滋賀国体を見据え、平成28年度に実施設計した伊吹第1グラウンド測量の結果をもとに、適切なホッケー競技会場として伊吹第1グラウンドの改修に向けた関係団体等との協議・調整を行います。													
事業の実績													
(1)米原市スポーツ推進委員による地域での出前講座や市内スポーツイベントの企画、運営を担っていただきました。また、資質向上のため、各種研修会へ参加いただきました。													
スポーツ推進委員報酬(委員数：31人) 1,178,000円													
①いきいきノルディックウォーク体験 総参加者数：30人													
②出前講座(15回実施) 総参加者数：922人													
③夢高原かっ飛び伊吹・いきいき健康ウォークの企画、運営、準備等													
④体育協会、スポーツ少年団主催事業への協力													
⑤全国、近畿、滋賀県スポーツ推進委員研修会への参加													
(2)市民のスポーツ推進を図るため、各種スポーツ団体へ補助金を交付し活動支援を実施しました。													
①市体育協会(加盟団体数：18団体)、市民大会12競技、総参加者：1,263人 3,158,444円													
②市スポーツ少年団(加盟数：19単位団、団員：438人、指導者：113人) 2,452,344円													
③総合型地域スポーツクラブ(市内4クラブ) 1,850,000円													
④(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団 15,260,000円													
名称						平成29年度		平成28年度					
						事業数		参加者(人)		事業数		参加者(人)	
いぶきスポーツクラブ						28		5,659		29		6,216	
カモンスポーツクラブ						32		7,828		30		6,289	
MOSスポーツクラブ						29		4,098		21		3,958	
近江スポーツクラブ						18		4,269		19		4,037	
(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団						19		2,366		21		2,748	
⑤まいばら協働提案事業(マイクリング・プロジェクト) 900,000円													
サイクリングマップ作成、機関紙発行、サイクルイベントの開催等													
(3)米原市スポーツ推進計画の基本方針に基づき、各種事業における進捗管理と事業評価を行い、実施計画の推進に取り組みました。													
米原市スポーツ推進審議会報酬(委員数：15人、年間2回開催) 115,000円													

事業の実績

(4)2024年の滋賀国体を見据え、市内の小中学生を対象に、県内外のトップアスリートを招待し、高度な技術の習得と選手との交流によりスポーツに親しむ機会づくりに努めました。

- ①ジュニア卓球教室(講師：倉嶋洋介さん、1月13日、参加者：62人) 300,000円
②ジュニアホッケー選手育成事業(参加者：延べ849人、指導者：延べ166人) 495,500円



【ジュニア卓球】



【ジュニアホッケー】

(5)出前講座や幼児を対象とした運動遊び等でスポーツアドバイザーによる指導、助言を行いました。

- ①シニア健康塾等への派遣 回数：80回、参加者：837人 (平成28年度 84回、645人)
②児童クラブ等への派遣 回数：54回、参加者：775人(平成28年度 17回、882人)
③出前講座への派遣 15回、参加者：774人 (平成28年度 24回、506人)

(6)優秀なスポーツ選手に対し激励および支援をし、市民の健全なスポーツの推進を図るため、国際競技大会や国内競技大会に出場する選手に対し、激励金を交付しました。

平成29年度実績 83件、303人(平成28年度 59件、244人) 1,278,000円

(7)米原市の特性を生かしたスポーツイベントの支援を行いました。

- ①夢高原かっつ伊吹2017 1,357,423円
当日参加者：1,128人、完走者：992人 (H28当日参加者：1,166人、完走者：1,111人)
②西日本小学生中学生6人制ホッケー選手権大会 100,000円
小学生43チーム、中学生44チーム (平成28年度 小学生45チーム、中学生33チーム)
③いきいき健康ウォーク2017 67,706円
コース：柏原中学校～関ヶ原ふれあいセンター 参加者：154人
(平成28年度 近江母の郷発着 参加者：228人)
④全日本マスターズホッケー大会 200,000円
参加チーム 男子：50チーム、女子：11チーム

(8)親子のふれあいと体力の向上を図るため、親子でマリンスポーツ事業を米原市カヌー指導者会に委託し実施しました。 292,780円

- ①びわこマリンフェスタin米原 平成29年9月10日(日) 参加者：49人、指導者：30人
②市内各種団体カヌー教室指導 実施団体：4スポーツクラブ、延べ参加者数：69人(6回分)

(9)2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、ニュージーランド国との交流を進めるため、全日本マスターズホッケー大会にあわせ、ニュージーランドの紹介、ホッケー体験コーナーを設け交流フェスを開催しました。また、ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催市としてオークランド大会でPR活動を実施しました。

ホストタウン滋賀交流推進実行委員会負担金 1,000,000円
WMG2017オークランド大会視察 1,806,440円



【ホストタウン交流フェス10月8・9日】 【ワールドマスターズゲームズ2017オークランド大会】


評価の内容

- (1)米原市スポーツ推進委員や市スポーツアドバイザーによるニュースポーツの実技指導や運動遊びが出前講座を通して徐々に浸透し、多くの市民がスポーツ活動に参加したことにより、健康増進、体力の向上が図れ、スポーツを通じた参加者の交流や運動の楽しさを体験いただきました。
- (2)市民が最も身近にスポーツを楽しめる場である総合型地域スポーツクラブや市体育協会、各地区体育振興会などが開催するスポーツ活動を支援することにより、スポーツの機会づくりにつながりました。
- (3)スポーツ推進計画の第4期実施計画の評価および総括を行い、おおむね一定の評価があるとの結果であり、社会情勢の変化に対応した見直しや5年間の課題を整理し、更に充実した計画となるよう議論を深めました。
- (4)2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして事前合宿誘致やワールドマスターズゲームズ2021関西のPR活動を行い、受入れのための環境整備や体制づくりを進めました。

評価

B

事業番号		29						
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	4 図書館費			
事業名		継続	図書館管理運営事業			主管課	教育委員会 図書館	
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり					
		基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち					
		単位施策	図書館機能の整備・充実					
事業費(円)		29年度	28年度	財源内訳(円)		29年度	28年度	
予算額		64,060,000	57,840,000	国 費		0	0	
うち繰越		0	0	県 費		0	0	
決算額		62,759,855	56,942,899	市 債		0	0	
うち繰越		0	0	そ の 他		99,846	61,169	
執行率(%)		98.0	98.4	一般財源		62,660,009	56,881,730	
執行率80%以下の理由(29年度)				その他の内訳(29年度)				
				私用消耗品・印刷・地図等収入				30,770円
				公衆・私用電話使用料				1,700円
				本のリサイクル事業協力金				67,376円
事業コスト		事業費		人件費(3.60 人 役)		計		
決 算 額		62,760 千円		26,910 千円		89,670 千円		
市民1人当たり(39,486 人)		1,589 円		682 円		2,271 円		
事業の目的および内容								
(1)図書館サービス基本理念に基づき、誰もが身近に利用できる文化・情報拠点としての図書館運営に努めるとともに、ブックスタート事業や子どもたちの読書活動支援等を行います。また、近江図書館では、施設の老朽化に伴い、床暖房等の修繕を計画的に実施します。								
(2)市民力のある図書館として、ボランティア等を募るほか、市民が講師の図書館講座を開催します。								
事業の実績								
山東・近江図書館管理運営事業								
		山東図書館			近江図書館			
図書購入費		6,198,885円			5,295,091円			
臨時職員賃金		14,461,544円			8,836,004円			
貸出冊数		230,065冊 (対前年度増減率▲6.4%)			184,349冊 (対前年度増減率▲1.9%)			
蔵書冊数(平成30 年3月末現在)	図書	140,762冊			133,942冊			
	視聴覚資料	2,303点			—			
除籍冊数	図書	2,691冊			1,001冊			
	視聴覚資料	233点			—			
利用者数		4,509人(対前年度増減率▲3.2%)			3,349人(対前年度比▲1.6%)			
予約・リクエスト件数		10,029件			11,126件			
レファレンス件数		2,749件			2,131件			
その他		図書館協議会開催(2回)、蔵書点検実施(10月)、ブックスタート(毎月)、図書館講座(5回)、各種イベント、リサイクル開催など						
①資料提供を重視し、貸出とレファレンスに力を入れました。								
②山東図書館および近江図書館施設修繕を行いました。								
山東図書館 ガラスフィルム貼付工事 1,317,600円								
近江図書館 床暖房設備改修工事 6,163,560円								
自家用電気工作物修繕工事 1,356,480円								
③毎月行われる10か月健診の会場でブックスタートパックの配布を行いました。								
配布人数：295人 配布率：100%								
評価の内容							評価	
(1)多種多様な資料を収集・整備し、両館でバランスのとれた蔵書の構築を図ることにより、市民一人ひとりが求める資料を提供し、利用者からのレファレンスに誠実に対応しました。 レファレンス件数対前年度比 +977件 25.0%増 (山東図書館 +635件、近江図書館 +342件)							C	
(2)ブックスタート事業で、赤ちゃんとその保護者に絵本との出会いを提供することができました。								

事業番号		30	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	5 文化財保護費		
事業名	はにわ館管理運営事業（文化財施設維持補修事業を含む）		主管課 教育委員会 図書館
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち	
	単位施策	学びの場づくりの推進	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	43,283,000	7,172,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	42,810,949	4,920,259	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	98.9	68.6	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
		下倉祺世基金繰入金 1,857,567円 米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 843,000円	
事業コスト		事業費	人件費(1.40 人役)
決 算 額		42,811 千円	10,465 千円
市民1人当たり(39,486 人)		1,084 円	265 円
計			
53,276 千円			
1,349 円			
事業の目的および内容			
(1)地域文化の発信拠点として、企画展示を行い、図書館と連携して取組を行うとともに、実物埴輪の適正な保全とPRに努めます。			
(2)はにわミュージアムの大規模改修を行い、多目的展示スペースを創造し、文化の保全活動や芸術文化の振興に寄与する展示の取組に努めます。			
事業の実績			
(1)はにわ館企画展示			
①松居直和写真展～しぜんのかたち2～		平成29年6月1日(木)～6月30日(金)	
②寺院都まいばら三成特別企画展		平成29年9月22日(金)～10月22日(日)	
③米原市芸術展覧会受賞者作品展 (リニューアルオープン記念)		平成29年12月2日(土)～平成30年1月27日(土)	
④松居直和写真展～米原広報表紙写真から～		平成30年2月1日(木)～2月28日(水)	
(2)はにわミュージアム改修工事			
40,689,000円			
はにわミュージアム改修工事監理業務			
957,312円			
施設管理用備品(パネル等)			
658,034円			
			
【はにわ館リニューアルオープン記念展示】			
評価の内容			評価
(1) 各種展示を通じて、米原市の芸術文化や実物埴輪のPRを行うとともに、図書館と一体施設である強みを生かした取組を行いました。			C
(2) はにわミュージアムの大規模改修により、多目的展示スペースを創造しました。また、リニューアルオープン記念展示等を開催し、芸術文化の振興に努めました。			

事業番号		31									
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 文化財保護費						
事業名		文化財保護事業		主管課		教育委員会 歴史文化財保護課					
総合計画上の 位置付け		政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり								
		基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち								
		単位施策	歴史文化遺産の保存活用								
事業費(円)		29年度		28年度		財源内訳(円)		29年度		28年度	
予算額		25,583,000		18,249,000		国 費		3,523,000		1,000,000	
うち繰越		0		0		県 費		0		0	
決算額		23,734,831		16,776,090		市 債		0		0	
うち繰越		0		0		そ の 他		14,560,765		5,563,380	
執行率(%)		92.8		91.9		一般財源		5,651,066		10,212,710	
執行率80%以下の理由(29年度)						その他の内訳(29年度)					
						社会教育事業関係受講料 101,500円					
						伊吹山頂植物群落整備事業協力金 2,116,265円					
						米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 12,343,000円					
事業コスト				事業費		人件費(2.30 人 役)		計			
決 算 額				23,735 千円		17,193 千円		40,928 千円			
市民1人当たり(39,486 人)				601 円		435 円		1,036 円			
事業の目的および内容											
各種文化財調査、指定文化財の維持管理、修理などを実施することで、米原市に伝わる数多くの文化財の保護・活用を図ります。											
事業の実績											
(1) 萬留帳翻刻調査事業 2,402,162円 江戸時代から約300年間にわたり柏原宿などの様々な出来事を記録した貴重な資料である萬留帳(よろずとめちょう)について、保存と活用を図るため翻刻調査を実施しました(69冊のうち63冊についてデータ入力済)。また、前年度に刊行した調査報告書の刊行記念講演会を開催しました。 開催日：平成29年6月10日(土) 場所：柏原生涯学習センター 参加者：55人											
(2) 伊吹山頂植生防護柵設置事業(延長202m) 4,222,800円 伊吹山山頂の草原植物群落の獣害対策として、かつて群落を形成していたが、現在、シカの食害により荒廃が著しい箇所について、植生の回復を目指して防護柵を設置しました。											
(3) 文化財保護保存活動補助金 12,343,000円 まちの歴史・文化を次代に引き継ぐため、国・県・市指定文化財の維持管理、伝承活動、修理等に係る事業費に対し、関係団体に補助金を交付しました(米原曳山祭保存会ほか22団体)。											
(単位：円)											
団体名				事業名				金額			
米原曳山祭旭山保存会				旭山保存会の曳山執行				1,000,000			
米原曳山祭保存会				曳山祭保存会の伝承活動				900,000			
				曳山山車・幕修理				1,880,000			
青岸寺				国名勝青岸寺庭園保存修理				5,660,000			
				国名勝青岸寺庭園の保護活用				150,000			
				国名勝青岸寺庭園の防災設備修理				300,000			
松井家				県指定松井家住宅屋根修理				136,000			
鴨と蛍の里づくりグループ				ゲンジボタルおよび三島池のカモの調査研究事業				200,000			
上平寺推進委員会京極氏戦国浪漫倶楽部				上平寺跡参道整備事業				150,000			
弥高さつま会				弥高寺跡維持管理事業				150,000			
湿原を考える会				山室湿原整備、活用事業				95,000			
筑摩自治会				鍋冠祭保存会の伝承活動				80,000			
徳源院				国史跡他徳源院の保護活用				67,000			
朝日自治会				朝日豊年太鼓踊りの保存伝承活動				60,000			
大久保の史跡を守る会				市史跡長尾寺跡の保護活用				60,000			
観音寺				重要文化財観音寺の保護活用				60,000			

事業の実績

(単位：円)

団体名	事業名	金額
流星保存会	流星打上げの維持管理活動	60,000
大野木自治会	大野木豊年太鼓踊保存会の伝承活動	30,000
番場の歴史を知り明日を考える会	国史跡鎌刃城跡の保護活用	30,000
長沢自治会	福田寺公家奴振保存会の伝承活動	20,000
長沢福田寺	国名勝福田寺庭園の保存活用	24,000
井之口自治会	井之口太鼓踊保存会の伝承活動	110,000
柏原学区史跡保存会	国史跡北畠具行卿墓の保護活用	15,000
志賀谷自治会	華の頭のおコナイの伝承活動	15,000
来照寺	県名勝来照寺庭園の保護活動	13,000
松浦家	市指定松浦家住宅屋根修理	1,078,000

(4)埋蔵文化財活用事業 1,977,529円

①遺跡を活用したイベント

鎌刃城まつり

開催日：平成29年6月4日(日) 内容：鎌刃城見学、講演会 参加者：約170人

②市内の遺跡や施設の紹介と、現地の散策が連動した啓発資料の作成、設置

遺跡案内看板 3か所(春照小、息長小、河南小)

パンフレット 学校のまわりの宝物(柏原小、山東小、坂田小)各2,000部

シンポジウム 霊仙山をめぐる山城—京極氏出撃拠点の山塊—

開催日：平成30年3月18日(日) 場所：近江公民館 参加者：約260人

(5)その他 2,789,340円

歴史特設サイト「米原の偉人たち」構築 855,360円

未指定文化財(建造物等)調査 770,368円ほか

評価の内容

(1)萬留帳調査では、保存と活用に向けてのデータ保存や内容把握などの基礎資料の蓄積と、報告書刊行記念講演会を通して、萬留帳の存在と内容を少しずつ知っていただく契機となりました。

(2)伊吹山頂植生防護柵設置事業では、防護柵を設置しシカの被害から守ることで、植生の回復を目指すことができました。


(3)米原市の歴史をひも解く上で貴重な指定文化財を次の世代に引き継ぐための維持管理、伝承、修理活動に対しての一助となりました。

(4)市内に残る多くの貴重な遺跡などを多くの市民に知っていただくとともに、地域住民と連携したイベントの開催や学校の周辺の遺跡等を紹介した啓発資料の作成を通して、地域への誇りの意識高揚や情報発信に成果がありました。

評価

C

事業番号		32	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	5 文化財保護費		
事業名	継続	文化財施設管理運営事業	主管課 教育委員会 歴史文化財保護課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち	
	単位施策	歴史文化遺産の保存活用	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	20,075,000	20,345,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	19,267,208	19,433,962	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	96.0	95.5	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
		柏原宿歴史館入館料・使用料 543,810円 柏原宿歴史館施設管理経費負担金 150,935円 公衆・私用電話使用料等 4,410円 私用消耗品・印刷・地図等収入 390円 社会教育事業関係受講料 189,100円	
事業コスト		事業費	人件費(1.40 人 役)
決 算 額		19,267 千円	10,465 千円
市民1人当たり(39,486 人)		488 円	265 円
事業の目的および内容			
市民に気軽に歴史に親しんでいただく場を提供するため、各館の特徴を生かしながら管理運営を行います。			
事業の実績			
(1)指定管理者に管理運営を委託しました。 ①醒井宿歴史資料館 4,346,042円(うち指定管理委託料 3,109,000円) 指定管理者：醒井自治会 年間施設入館者数 664人(平成28年度 723人) 企画展 1回、写真・絵画展 1回 ②伊吹山文化資料館(一部指定管理) 9,601,529円(うち、指定管理委託料 8,801,000円) 指定管理者：(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団 年間施設入館者数 6,860人(平成28年度 6,159人) 企画展 7回 歴史アカデミー 11回 体験教室 16回 (2)市が直営により管理運営を実施しました。 ①柏原宿歴史館 5,319,637円 年間施設入館者数 2,810人(平成28年度 2,903人) 企画展(月替り展)「徳源院の逸品」5回 講座「夜学」3回(お宝のお手入れのしかた ほか)			
評価の内容			
(1)各館の特徴を生かした事業を中心に、歴史に親しんでもらう場を提供できました。 (2)柏原宿歴史館では京極氏関連の徳源院所蔵資料、伊吹山文化資料館では霊仙山、 また、醒井宿資料館では電報や看板資料等の郵便局関連資料を展示するなど、 米原とのつながりをテーマにした企画展等を開催し、市内外へ米原の魅力を 発信することができました。			評価 C

事業番号		33	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	5 文化財保護費		
事業名	文物的景観保護推進事業		主管課
継続			教育委員会 歴史文化財保護課
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	人と地域を豊かにする学び合いと育ち合いのまち	
	単位施策	歴史文化遺産の保存活用	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	649,000	5,793,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	362,990	5,770,609	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	55.9	99.6	一般財源
		362,990	2,002,259
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
文化財の活用重点をおいた国の政策転換に伴う、整備活用計画の策定に向けて、当初開催予定の整備活用委員会の開催を見送り、文化財資料を得るための調査を優先したため。			
事業コスト		事業費	人件費(0.10 人 役)
決 算 額		363 千円	748 千円
市民1人当たり(39,486 人)		9 円	19 円
計			
1,111 千円			
28 円			
事業の目的および内容			
国の重要文化的景観の選定を受けた東草野地域の良好な景観保全と地域活性化を目指します。			
事業の実績			
国の重要文化的景観の選定を受けた東草野地域の良好な景観保全と地域活性化を目指して、重要な構成要素建物調査、貴重な古民具の調査などを通して、魅力の保存に努めました。			
(1)古民具収集調査 260,900円 県立大学と共同で、古民具の収集や使用方法等の聞き取りなどの調査を実施しました。 調査対象地区：曲谷自治会 古民具の収集点数：68点			
(2)建造物補足調査 75,360円 重要な構成要素である建造物(天満神社)の図面実測などの補足調査を実施しました。			
			
【収集した古民具】			
評価の内容			評価
曲谷地区での古民具調査では、曲谷ならではの石臼関連資料は無かったものの、農具が多く確認され、今後の旧東草野小中学校での展示や東草野の山村景観の生活を理解するものとして貴重な発見となりました。			C

事業番号		34	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	2 青少年育成費		
事業名	継続	次代を担う青少年育成事業	主管課
		こども未来部 子育て支援課	
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	家庭・地域の教育力の強化	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	2,400,000	2,630,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	2,113,526	2,267,979	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	88.1	86.2	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
事業コスト		事業費	人件費(1.70 人 役)
決 算 額		2,114 千円	12,708 千円
市民1人当たり(39,486 人)		54 円	322 円
計			
14,822 千円			
376 円			
事業の目的および内容			
青少年の健全育成や地域で子どもを育てる環境づくり、家庭の教育力向上のため、関係団体への活動助成を行います。 活動助成団体：米原市青少年育成市民会議、米原市子ども会育成連合会、米原市PTA連絡協議会			
事業の実績			
(1)米原市青少年育成市民会議 補助金 935,882円 青少年健全育成、子どもの安全確保、非行防止・環境浄化、家庭教育・子育て支援等の活動支援 ①あいさつ運動の実施：年間9回 毎回約200人参加 ②青少年育成大会開催：平成29年10月14日(土) 場所：ルッチプラザベルホール310 250人参加 顕彰表彰、あいさつ標語表彰、中学生広場(意見発表)、講演会(PTA教育講演会と合同) ③巡回パトロールの実施：年間30回以上 ④支部ごとの事業(軽スポーツ事業、創作体験事業等)を行い、体験や異世代交流の場を提供			
(2)米原市子ども会育成連合会 補助金 922,677円 ①ふれあいの里フェスティバル(創作体験事業)の実施 平成29年11月23日(祝) 場所：近江母の郷文化センター 約450人参加 ②夏休み冒険遊び場の開設 平成29年7月29日(土)～8月7日(月) 場所：箕浦、大野木 延べ302人参加 ③支部事業(4支部)および各単位子ども会(82団体)への助成 ④ジュニアリーダー養成講習会：年間9回、9人参加 ⑤子ども会活動実践記録「ほたる第13集」の発行 ⑥会員数：2,205人(平成28年度 2,602人)			
(3)米原市PTA連絡協議会 補助金 254,967円 市内のPTA会員の家庭教育力の向上および教育啓発事業等への活動助成 ①教育講演会開催：平成29年10月14日(土) 場所：ルッチプラザベルホール310 250人参加 講師：大日向 雅美(おおひなた まさみ)さん 演題：今、求められる家庭の教育力～思春期の子どもと向きあうために～ ②会員数：3,469人(平成28年度 3,603人)			
評価の内容			評価
(1)青少年育成市民会議では、あいさつ運動や巡回パトロールを定期的に実施し、青少年の健全育成と非行防止を図ることができました。 (2)子ども会育成連合会では、創作体験活動を実施することで子どもの自主性と協調性を伸ばすとともに、地域の子ども達を地域で育てる力を高めました。			C

事業番号		35	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	2 青少年育成費		
事業名	継続	少年センター事業	主管課
		こども未来部 子育て支援課	
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	地域全体で子どもを守り育てるまち	
	単位施策	家庭・地域の教育力の強化	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	3,153,000	3,279,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	2,966,339	3,071,128	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	94.1	93.7	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)		その他の内訳(29年度)	
事業コスト		事業費	人件費(3.20 人 役)
決 算 額		2,966 千円	23,920 千円
市民1人当たり(39,486 人)		75 円	606 円
計			
26,886 千円			
681 円			
事業の目的および内容			
<p>(1) 青少年の非行防止および犯罪の未然防止のために少年補導委員や関係機関との連携のもと、日常的な補導活動や有害環境浄化活動を実施します。</p> <p>(2) 不登校、非行、無職少年やニート、ひきこもりの青少年および家族からの相談を受け、自立へ向けた支援を実施します。</p>			
事業の実績			
<p>(1) 補導活動</p> <p>① 街頭補導、深夜パトロール、登下校指導、声かけ活動を定期的に行いました。 (延べ216回実施)</p> <p>② 職員および少年補導委員による補導活動を実施しました。</p> <p>(2) 相談活動</p> <p>少年およびその家族等からの不登校、いじめ、問題行動に関わる相談を実施しました。(782人) ※就労相談については若者自立ルームあおぞらと連携して実施しました。</p> <p>(3) 環境浄化活動</p> <p>有害図書等立入り調査、白ポスト、有害図書回収活動を実施しました。(月2回定期回収)</p> <p>(4) 啓発活動</p> <p>① 少年の主張作文集を作成し、発行しました。(年1回)</p> <p>② 少年センターだよりを発行しました。(年3回)</p> <p>③ 薬物乱用防止啓発活動として、薬物乱用防止セミナーおよび薬物乱用防止教室を実施しました。 (年5回)</p> <p>(5) 研修および情報交換</p> <p>① 無職少年対策指導員や少年補導委員の研修を実施しました。(年8回)</p> <p>② 小中学校や警察署、保護司会等との情報交換を実施しました。(訪問校数延べ31校)</p> <p>【主な経費】</p> <p>少年補導職員賃金(1人) 1,608,770円</p> <p>補導委員報償費(37人) 555,000円</p> <p>印刷製本費 105,192円</p>			
評価の内容			評価
市教育委員会、米原警察署、少年補導委員等と連携し、パトロールや啓発活動、補導・指導活動を行うことで、青少年の非行防止や再発防止等の健全育成を図ることができました。			C

事業番号		36	
款	10 教育費	項	4 幼稚園費
目	1 幼稚園管理費		
事業名	継続	幼稚園管理運営事業	
主管課	こども未来部 保育幼稚園課		
総合計画上の 位置付け	政策	ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり	
	基本施策	心豊かで多様な未来を切り拓く子どもが育つまち	
	単位施策	就学前保育・教育、教育環境の充実	
事業費(円)	29年度	28年度	財源内訳(円)
予算額	32,714,000	32,690,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	31,185,011	30,783,263	市 債
うち繰越	0	0	そ の 他
執行率(%)	95.3	94.2	一般財源
執行率80%以下の理由(29年度)			その他の内訳(29年度)
			共済掛金負担金 26,406 円
			特定教育・保育施設使用料 5,141,900 円
			天狗の丘使用料 14,000 円
			広域入園負担金 598,400 円
			通園バス利用負担金 483,000 円
			学級教材費利用負担金 1,789,000 円
			教育実習受入金 225,000 円
事業コスト		事業費	人件費(0.75 人 役)
決 算 額		31,185 千円	5,606 千円
市民1人当たり(39,486 人)		790 円	142 円
事業利用児童1人当たり (164 人)		190,152 円	34,183 円
計			
事業の目的および内容			
(1) 市内2幼稚園の園児が安心して教育を受けられるよう園運営の充実や環境整備を図ります。			
(2) 保護者との連携のもと、幼児教育およびチーム保育の充実を図り、地域に根差した特色ある園づくりを進めます。			
(3) 18歳未満の第2子以降について引き続き保育料の無料化を実施します。			
事業の実績			
(1) 市内特定教育・保育施設（公立幼稚園）利用児童数（平成30年3月31日現在）			
(単位：人)			
施設名	3歳児	4歳児	5歳児
山東幼稚園	25	26	29
米原幼稚園	26	29	29
合 計	51	55	58
合計	80	84	164
うち市外の園児	1	0	1
利用定員	110	90	200
入園率(%)	72.7	93.3	82.0
前年度比	1	▲ 3	▲ 2
(2) 市基準額による幼稚園保育料軽減額			
第2子以降軽減前		7,663,110円	
第2子以降軽減後		5,173,100円	
軽 減 額		2,490,010円	
(3) 園内研究会および研修会			
保育者の資質向上を目指して、次のとおり園内研究会等を開催しました。			
施設名	開催回数	平成29年度研究主題	
	研究会	研修会	
山東幼稚園	9	8	子どもと教師がともに遊びを創り出す保育をめざして「やりたい」が実現できる環境の構成を探る
米原幼稚園	11	12	健やかな心と体を育む保育をめざして発達をふまえた保育環境や援助のあり方について
(4) 特別支援保育事業実施状況			
特別支援保育（障がい児保育） 全園実施 加配教諭配置数 4人（平成28年度実績 5人）			
評価の内容			評価
計画的な園内研究会および園内研修会を開催することで保育者の資質向上に努め、幼児教育の充実を図りました。			C

【対象事業の評価の視点】

■事業番号1 事務局総務事業 <教育総務課>	H29評価	H28評価
・教育事務の点検および評価に関し、学識経験者および教育委員会委員により意見交換を行い、今後のより良い教育行政に役立てることができた。	C	C
■事業番号2 事務局教育振興事業 <教育総務課>	H29評価	H28評価
・将来を担う人材の育成および市への定住促進を目的とした給付型奨学金制度を構築した。 ・平成30年度入学予定者を対象に募集を行い、奨学金給付審査会に諮り、31人の奨学生を決定した。	B	C
■事業番号3 小学校管理運営事業 <教育総務課>	H29評価	H28評価
・児童用の机・いす、校務用パソコンなど施設管理用備品については、学校の要望に基づき計画的に購入し、学習環境の確保につなげた。 ・小学校にタブレット型パソコンを購入するとともに、校内ネットワーク環境を構築し、ICT(情報通信技術)を活用した教育の充実を図った。	C	C
■事業番号4 小学校教育振興事業 <教育総務課>	H29評価	H28評価
・要保護準要保護児童生徒就学援助費については、新入学児童生徒学用品費を入学準備金として支給できるように制度改正を行った。このことにより、より有益な就学援助につながった。	B	C
■事業番号5 小学校施設整備事業 <教育総務課>	H29評価	H28評価
・学校施設の大規模改修(トイレ改修およびエレベータ等整備)については、計画的に改修設計を行っており、国の交付金などの財源確保ができたなら即時に工事に着手できる体制となっていたため、国の補正予算による整備を行うことができ、計画よりも前倒しで改修整備に着手することができた。	A	A
■事業番号6 中学校管理運営事業 <教育総務課>	H29評価	H28評価
・生徒用の机・いす、校務用パソコンなど施設管理用備品については、学校の要望に基づき計画的に購入し、学習環境の確保につなげた。	C	C
■事業番号7 中学校教育振興事業 <教育総務課>	H29評価	H28評価
・要保護準要保護児童生徒就学援助費については、新入学児童生徒学用品費を入学準備金として支給できるように制度改正を行った。このことにより、より有益な就学援助につながった。	B	C
■事業番号8 中学校施設整備事業 <教育総務課>	H29評価	H28評価
・学校施設の大規模改修(トイレ改修およびエレベータ等整備)については、計画的に改修設計を行っており、国の交付金などの財源確保ができたなら即時に工事に着手できる体制となっていたため、国の補正予算による整備を行うことができ、計画よりも前倒しで改修整備に着手することができた。	A	B
■事業番号9 学校給食総務管理事業 <学校給食課>	H29評価	H28評価
・アレルギー対応者127人全員に対して、個別の代替食のメニューを栄養士が考案し、調理師と連携しながら調理を行った。そして、その代替食を各個人の名前が書かれた食缶に入れ、該当する校園に間違えないよう配送し、最終的に各校園の担当者(担任等)より確実に本人に届けることができた。	A	C
■事業番号10 学校給食事業 <学校給食課>	H29評価	H28評価
・地場産活用率が、県平均を8年連続で上回った。 ・東部給食センターにおいて、蒸気発生器・給湯システム等を整備したことで、給食提供に関する危機管理に備えることができた。 ・学校給食の献立作成や栄養管理・食材の発注等を効果・効率的に行うために給食管理システムの更新をした。 ・ホストタウン事業として、1学期に1度の割合で、学校給食メニューにニュージーランド給食を取り入れ、同国の食文化に触れた。	A	B
■事業番号11 事務局教育振興事業 <学校教育課>	H29評価	H28評価
・特色ある学校づくり事業や学校支援地域本部事業により、地域に根ざした学校づくりを進めることができた。 ・年度途中に35人以上になった学級にも少人数指導の講師を配置するなどきめ細かな指導の体制を整えた。 ・いじめ対応支援員の配置やいじめ問題専門委員会の実施により、いじめの早期発見・早期対応が組織的に行えた。	B	B

■事業番号12 教育センター事業〈学校教育課〉	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・現場のニーズに応じた研修を実施し、受講者の満足度も高かった。 ・教職員の専門性、指導力の向上を目標に、調査研究部会を設け、調査研究を行い成果を発信した。 ・教職員の自主的な教育研究として、117点の教育研究論文が提出された。 	B	C
■事業番号13 子どもサポート事業〈学校教育課〉	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする児童生徒に対して個々の課題に応じたきめ細かな指導支援を行った。 ・適応指導教室に参加することで、別室登校等学校復帰につなげることができた。 	B	C
■事業番号14 小学校管理運営事業〈学校教育課〉	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の児童が安全・安心で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行った。 ・小学校の児童が健やかに学校生活を過ごせるように児童・教職員の健康管理が適切に行えた。 	B	B
■事業番号15 小学校教育振興事業〈学校教育課〉	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行や校外活動に対する補助金を適切に行い、教育活動の充実を図った。 ・計画的にICT機器の充実を図り、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業改善を推進した。 	B	B
■事業番号16 中学校管理運営事業〈学校教育課〉	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の生徒が安全・安心で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行った。 ・中学校の生徒が健やかに学校生活を過ごせるように児童・教職員の健康管理が適切に行えた。 	B	B
■事業番号17 中学校教育振興事業〈学校教育課〉	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・双葉中学校陸上部男子リレーチーム全国優勝を筆頭に、各校の部活動で日頃の練習の成果を発揮し、優秀な成績を収め、市民に希望を与えてくれた。 ・電子黒板やデジタル教科書等ICT機器活用を計画的に進め、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を推進することができた。 	A	B
■事業番号18 社会教育総務事業〈生涯学習課〉	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯を対象に家庭教育通信『まいふあみ』を配布(3回／年)し、家庭の教育力の向上を図った。 	C	C
■事業番号19 人権教育推進事業〈生涯学習課〉	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・各自治会で1人以上人権教育推進員を選任し、研修会や人権講座に参加いただいた。また、地域の人権リーダーとして、ハートフル・フォーラムの企画、運営を主体的に進めていただいた。 ・きらめき人権講座は、自治会住民、教職員、行政職員等毎回55人～65人の方に参加いただき、人権学習の機会を提供することができた。 	C	C
■事業番号20 地域人材育成事業〈生涯学習課〉	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・17年間の事業実施を通じて構築したネットワークにより、公開講座において、第一線で活躍する著名な講師を招請することができた。 ・公開講座について、市民団体、県立大学、公民館等と共催することで、参加者層を広げ、経費の圧縮が図れた。 	B	C
■事業番号21 文化のまちづくり事業〈生涯学習課〉	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・米原市文化協会では各地域において文化祭を開催したり、部会間の交流事業を行い、各サークルの活動が促進されるなど、市全体の文化振興への貢献が行えた。 ・米原市文化協会では「小さな発表会」として、複数団体が合同で芸能発表を行える制度でサークル間交流がしやすい環境整備を進めるなど、文化を通した人と人との交流促進を継続して進めることができた。 ・改修した近江はにわ館で「湖北の作家展」を米原芸術協会と共催で開催し、全国レベルで活躍する湖北在住の作家の絵画作品を展示することで同館の有効活用が図れ、文化芸術の振興に努めた。 	C	C
■事業番号22 市民交流プラザ管理運営事業〈生涯学習課〉	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・カーニバルッチと題し、多文化共生協会の協力の下、多国籍文化を学ぶ事を目的に事業を展開したことで他団体との連携が図れた。 	C	C
■事業番号23 伊吹薬草の里文化センター管理運営事業〈生涯学習課〉	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・各公民館にそれぞれ担当職員を配置し、市と公民館の情報伝達を密にしたことで指定管理者との連携が図れた。また、施設代表者会議を開催し、相互の情報共有と連携に努めた。 ・伊吹薬草の里文化センターでは、薬草に特化した事業展開により施設の活性化を図っていくため、展示ホールの改修を行った。 	B	C

■事業番号24 生涯学習センター管理運営事業 <生涯学習課>	H29評価	H28評価
・米原市公共施設再編計画に基づき、大原生涯学習センターの生涯学習機能の廃止を行った。	C	C
■事業番号25 次代を担う青少年育成事業 <生涯学習課>	H29評価	H28評価
・成人式では、手話通訳、要約筆記、託児支援、大きな文字による案内表示、色による新成人誘導、事前の出欠報告はがきによる必要支援の把握等様々な合理的配慮を行い、誰もが参加しやすい「優しい成人式」を実現することができた。	B	C
■事業番号26 公民館管理運営事業 <生涯学習課>	H29評価	H28評価
・各公民館にそれぞれ担当職員を配置し、市と公民館の情報伝達を密にしたことで指定管理者との連携が図れた。また、施設代表者会議を開催し、相互の情報共有と連携に努めた。	C	C
■事業番号27 体育施設管理運営事業 <生涯学習課>	H29評価	H28評価
・地域住民のレクリエーション広場として利用目的とする多目的広場を整備するための造成工事を行った。 ・オリンピック・パラリンピックや滋賀国体を見据え、伊吹第1グラウンドを人工芝グラウンドに整備するための設計業務を行った。	B	C
■事業番号28 スポーツ推進事業 <生涯学習課>	H29評価	H28評価
・米原市スポーツ推進委員協議会では、滋賀県スポーツ推進委員協議会と連携し、研修会を開催した。また、東京オリンピック・パラリンピックも近いことから、障がい者スポーツを取り入れ、県内他自治体のスポーツ推進委員にも体験する機会を提供した。	B	C
■事業番号29 図書館管理運営事業 <図書館>	H29評価	H28評価
・平成29年度から夏休み前に小学1年生に図書館利用カードを配布し、夏休み以降の利用促進につなげることができた。 ・レファレンス件数が前年度より増え、利用者アンケートによるレファレンス満足度も上げることができた。 ・ホストタウン事業では、「ニュージーランドを知る冊子」を作成し、特集を組んで本を紹介するほか、ニュージーランドに関する講座を開催した。 ・フォトブースの設置、冊子の作成、テーマ特集などを工夫して利用促進に努めることができた。	C	C
■事業番号30 はにわ館管理運営事業 <図書館>	H29評価	H28評価
・はにわミュージアムを多目的展示スペースとして大規模改修し、リニューアルオープン記念式典等を開催し、芸術文化の振興に努めた。 ・企画展示を4回行い、芸術文化の振興に努めるとともに、実物埴輪4体をエントランスに常設し、適切な文化財の保全に努めた。 ・はにわ館の室名を改め、新たに使用料を設定し、そのPRに努めた。	C	C
■事業番号31 文化財保護事業 <歴史文化財保護課>	H29評価	H28評価
・萬留帳調査では、古文書を現代文字に解読し、保存と活用に向けてのデータ入力や内容把握などの基礎資料の蓄積と、報告書刊行記念講演会を通して、萬留帳の存在と内容を知っていただく契機となり、今後も継続していきたい。 ・伊吹山頂植生防護柵設置事業では、防護柵を設置し、シカの食害から守ることで植生の回復を目指すことができた。 ・市内に残る貴重な遺跡などを多くの市民に知っていただくとともに、地域住民と連携したイベントの開催や学校の周辺の遺跡等を紹介した啓発資料の作成を通して、地域への誇りの意識高揚や情報発信に成果があった。	C	C
■事業番号32 文化財施設管理運営事業 <歴史文化財保護課>	H29評価	H28評価
・柏原宿歴史館では京極氏関連の徳源院所蔵資料、伊吹山文化資料館では霊仙山、また、醒井宿資料館では電報や看板資料等の郵便局関連資料を展示するなど、米原とのつながりをテーマにした企画展等を開催し、市内外へ米原の魅力を発信することができた。	C	C
■事業番号33 文化的景観保護推進事業 <歴史文化財保護課>	H29評価	H28評価
・曲谷地区での古民具調査では、曲谷ならではの石臼関連資料は無かったものの、農具が多く確認され、今後の旧東草野小中学校での展示や東草野の山村景観の生活を理解するものとして貴重な発見となった。	C	C

■事業番号34 次代を担う青少年育成事業 <子育て支援課>	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成市民会議では、あいさつ運動や巡回パトロールなど青少年健全育成に向けた取組をボランティアにより実施いただいた。また、支部ごとに軽スポーツや創作体験事業等を開催し、体験や異年齢交流の場を提供した。 ・子ども会育成連合会では、夏休みの居場所づくりとして冒険遊び場事業を開催したほか、ふれあいの里フェスティバルを開催し、多くの子どもたちに創作体験活動の場が提供できた。また、将来の地域リーダーとなるジュニアリーダーの養成に努めた。 	C	C
■事業番号35 少年センター事業 <子育て支援課>	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・少年補導委員や事務局職員、警察署との連携による継続的な活動が、非行・補導件数の低調につながる成果を生み出している。 ・若者自立ルーム「あおぞら」と少年センターの無職少年対策指導員が連携し、引きこもりやニートと呼ばれる若者の自立に向けた支援の取組で引きこもり脱出や就労実現につながる成果が生まれた。 	C	C
■事業番号36 幼稚園管理運営事業 <保育幼稚園課>	H29評価	H28評価
<ul style="list-style-type: none"> ・山東、米原の両幼稚園の園児が安心して教育を受けられるよう環境整備を行った。 ・保護者との連携のもと地域に根ざした特色ある園づくりを進めた。 ・保育者に計画的な研修会を開催し、保育の質の向上に努めた。 	C	C

平成29年度

幼稚園学校評議員・園運営委員による学校・園評価

【保育所・幼稚園・認定こども園集計結果】

「平成29年度米原市学校教育の指針」および「米原市保育の指針」の取組内容に関わる評価のため、以下の項目を各保育園・幼稚園・認定こども園共通項目とします。園における自己評価の結果や園長の説明、保育や行事の参観等を基に、評価と御意見をお書きください。

評価の方法は、それぞれの項目の評価の欄に次の記号で評価を記入していただき、御意見をお書きください。

4：よくできている 3：できている 2：あまりできていない 1：できていない

1 園経営全体に関わること・・・・・・・・・・・・・評価

3.7

視点① 園の目指す園経営の基本や子ども像は、地域の子どもたちの実態に合っている。

- ・親は子どもに対して、幸せになってほしい、優しい心に育ててほしい、安心してほしい等の希望を持って子どもの成長を願っていると思う。それを根底に園運営を今後もお願いしたい。
- ・保護者にとっての一番の重要事項は子どもが喜んで登園することです。それが大事ですが、「子育てとは何か」「今、この子には何が必要か」「そのために園ではどういう取り組みをしているか」などを根気よく伝えて言ってほしい。
- ・運営委員会での取り組みの発表を聞く限り、概ね良好と思える。
- ・園の参観やたより等から、総体的によくできていると思う。

視点② 園の教育（保育）目標、教育（保育）推進の基本、園の様子等を保護者や地域にわかりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される園づくりに取り組んでいる。

- ・毎月の園だより等を関係者だけでなく、市民に回覧（写真入り）等で発信し、市民誰でも園の取り組みが分かる。特に未就園児の親の参考になっている。
- ・保護者や地域に分かりやすく情報発信されて園運営が円滑に行われている。
- ・園の行事その他について、毎月「園だより」等できめ細かに報告されており、保護者をはじめ外部者にも園生活に関心を深めてもらえ、協力も得やすく良い効果があると思う。
- ・ふるさとを愛し、地域に根ざした保育の推進を基本とし、地域に出かける機会を多く設けている。
- ・まいばら認定こども園が誕生したこともあり、保護者が園を選択できる状況になってきた。近江地域の保護者が迷わず選択できる園経営を実践されることを望む。
- ・こども園をのぞかせていただく機会がある。敷居も低くてありがたい。
- ・職員が課題を共有し、園運営に取り組んでいる。
- ・登園してくる明るく元気な園児や、穏やかな表情の保護者の様子から日々の保育の充実がうかがえる。信頼して安心して、子どもを預けられている姿に園目標の達成に向けての職員の努力がうかがえる。

視点③ 園長のリーダーシップのもと、教職員が課題を共有し、園の教育（保育）目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。

- ・ 保幼の保護者が互いの良いところを出し合い、譲り合って少しずつ一つになって行けたと思う。こども園になるために、保護者と職員が協力し合い行事ごとに最高の成果を出せたように思う。
- ・ 本園、分園に分かれて保育をされ「一致団結」のスローガンのもと、職員同士、積極的にみんなが前を向き進んで方針に沿った保育推進に努められた。
- ・ 「安心・安全な園づくり」を目標にしながら、今まで経験してこなかった分園方式の園運営であったが、園長先生の何とか成功させたい熱意が先生方を動かし、チーム保育による新たな発想とチャレンジで取り組まれた結果、職員はもちろん保護者や地域を巻き込んでマイナス面をプラスに替える等大きな成果を上げられた（その背景には、園長先生の心温まる職員への配慮等や職員間の和があった）。
- ・ 組織のまとまりを目指し、「保育をつなぐ」ことを目標にチーム保育を実践されている。
- ・ 担任交代や乳児部と幼児部の職員の連携、体調不良型病児保育など、園長以下職員全体で最高の園経営をされ、子どもに自信が持てている。
- ・ 園児それぞれの個性を生かし潰さない保育がなされている。また、保護者等関係者の思いや意見・考えに耳を傾け、保育に反映されている。保育される側の立場に立った保育ができていると思う。
- ・ 園長のリーダーシップのもとに、職員が一丸となって目標となる保育に取り組まれている。特に運動会のストーリー性はクラスごとに配慮したプログラムで大変感動した。保護者や地域との連携も取られていると感じる。

視点④ 特別支援保育推進に向け、障がいのある子どもの視点に立ち、子どものニーズを把握し、きめ細かな支援の充実を図っている。

- ・ 就学指導は難しく、教師としては将来の成長を思い、専門性の高い施設をと思いながらも、保護者の願いも大切にしなければならず、特別支援保育は難しい。

視点⑤ 園の諸活動を応援する組織づくり等、保護者や地域との連携を図り、地域の教育力を生かした取組を積極的に推進している。

- ・ もっと保護者に園の活動にかかわってもらってもよいのではないか。仕事を休まないといけないとなると調整が難しいが、土曜日や家に持ち帰ってできることなら協力したいと思う。自分の子どものためにもなることなので、できることはしたい。親同士の横のつながりも、できるようになると良いと思う。
- ・ 特に行事等では今まで以上に保護者、地域の人等を巻き込んで取り組まれ、園児・職員・保護者との絆をより深められ、さらに地域との関わりも深められた一年であったと思う。
- ・ 幼児部の園の様子について日常的に知ることができる手段を作ってほしい。

視点⑥ 教育・福祉・保健等関係機関との連携を図り、子どもの育ちをつなぎ、ともに支える取組を行っている。

- ・ 小中学生や地域の人々と交流することを通して、子どもたちが自ら学べる環境づくりを大事にされている。その意味においては、多くの学びの場や遊びの場を提供していると思われる。

- ・ 何度か訪問しているが、園のあたたかい雰囲気を感じる。教育・福祉の両面からの視点も全て子ども達や保護者に対応されているように思う。

視点⑦ 全ての子育て家庭に対する支援の取組を積極的に行っている。

- ・ めばえ活動で未就園児全戸訪問を行い、1件1件訪ねながらメッセージを発信している活動は苦勞されたと思うが、引き続き活動をしてください。

2 基本的な生活習慣の形成・・・・・・・・・・評価

3.6

視点① あいさつをはじめとして、基本的な生活習慣の定着を図るために、生活に必要な習慣や態度が生活体験を通して養われるよう生活指導の工夫に努めている。

- ・ 園へ訪問すると園児が大きな声であいさつをしてくれる。このあいさつをする習慣は、小学校へ行っても生きてくる。
- ・ 生活習慣は園だけでなく、保護者も巻き込みながらの取組がなされ、一人一人の個性に合わせ、見守りながら身につけていけるようにされている。
- ・ あいさつは、保護者が子どもたちの見本となって、積極的にあいさつできる様に意識改革されている。
- ・ あいさつ運動を掛け声だけでなく実践で行動されておられ、各家庭では甘えがちに育てる傾向を、保護者、園児双方の立場を考え、双方に納得いく指導にも心掛けておられる様子が職員の評価にも伺え、保護者、園児共々への好形成作りが感じ取れます。
- ・ 園を訪問すると先生方から心地よいあいさつをしていただく。さらに、園児も明るく元気な声で挨拶や大きな声で返事も返ってきて心地よい気持ちにさせてもらった。その上、行事の終わりには園児から感謝の気持ちをこめての力強い歌声やお礼の言葉等を言ってもらった。この背景には先生方の保育姿勢が園児の生活態度育成に大きく反映されていると感じた。
- ・ 子どもたちが笑顔で「おはよう」「こんにちは」と答えてくれる。日々の繰り返しだが、自然に出ているのではないかと思う。子どもたちがお互いに遊びや生活の中で身につく、押しつけではなく、自然に入っていく、そのような生活環境を作ってあげている園、先生方の取り組みに感謝する。
- ・ 子どもたちは、自主的に挨拶できた。基本的な生活習慣は、本来家庭で身に付けさせるべきであるが、園や学校に委ねられているのが現状である。定着には根気があるが、まず先生が笑顔で手本を見せておられると感じた。

視点② 社会の決まりや集団生活のルールの習得に向け、教職員の共通理解のもとに取り組んでいる。

- ・ わが子はあいさつが苦手で最初は迎えてくださる園長先生のパワーに押されていたが、今では日課になって立っておられないと「今日はいんなー」と少し寂しそうです。担任以外の先生方も会えば気持ちよくあいさつしてくださり、大人の姿を見ていつかしっかりあいさつが出来るようになればいいなと思っている。
- ・ 日々、楽しい園生活を通して、それぞれの園児の生活リズムを確立させながら、集団生活の基礎・基本を確実に身につけている。

- ・送迎時等、保護者との何気ない会話（朝の着替えに時間がかかる等）を大切にしておられることは、保護者との連携にもつながり、園生活にも大きな役割をはたしていると感じた。
- ・先生方は教師であり、一方で母親代わりの保育者としてのウェイトが大きいことを認識した。

視点③ 子どもたちの望ましい食習慣の形成に園全体で取り組んでいる。

3 豊かな感性や表現力の育成・・・・・・・・・・・・・評価

3.6

視点① 全身（五感）を働かせた活動を展開している。

- ・園全体で体操をしていたことは、すごくよかった。体を動かすことで脳の働きや体の柔軟が高められ、ケガにもつながりにくくなるかなと思った。
- ・自然に恵まれた豊かな環境の中での園庭遊びや野菜作り、世代間交流などにかかわりながら自然と身につけられていることが多いと思う。
- ・家ではなかなかできない遊び（泥んこ遊びなど）をさせてもらえる。泥んこ服に着替えさせてもらえるのは助かる。
- ・子どもたちはのびのびとみんな真剣に遊んでいる。それを先生方はしっかりと見守っているように感じた。
- ・「保育参観」で園児一人一人がいろいろな機会に、積極的に前向きに取り組んでおり、積極的に運動遊びにも取り入れいて、心身ともに大きな発達・発展があるように感じた。
- ・掲示してある子どもたちの絵は、どれも伸び伸びしていて、縮こまった様子が見られない。きっと、園で伸び伸び生活できているのだと思う。
- ・昔の自分の幼稚園時代と比べると、子どもたちがとても自由に主体性を尊重されていると感じる。身体を使って1日中遊びまわっているのはこの時期だけなので、思う存分遊ぶことが小学校以降でやっていく力にもなると感じている。

視点② 子どもたちが喜んで話したり、聞いたりすることができるよう、教職員がきめ細かな対応を心がけている。

- ・干し柿作りや餅つきのお手伝いをしたが、子どもたちそれぞれの動き(作業)に対して、先生方が上手に導いていた。
- ・先生方が、園児の気持ちを受け止めようと寄り添いながら笑顔で丁寧に聞いておられ、そして丁寧に話しておられる光景がよく見られ、きめ細かな対応とみんなで育てていこうという保育的な配慮も感じられた。
- ・先日、読み聞かせの見学をさせていただいた時、子どもたちはよく聞いて、素直に自分の言葉で思ったことを発言していたように思う。

視点③ 一人ひとりの子どもの主体性を大切に、満足感・充実感を味わえるような環境の構成および活動を展開している。

- ・今年は特に体を動かすことを意識しながら保育をされて、子どもたちは積極的に体を動かす機会が増えて体を動かすことが好きになる子どもが多くなり、良い体験活動を展開されている。
- ・園児たちの家庭環境は私たちの時代と大きく変わり、核家族化、少子化、遊びスペース、遊び方等、どちらかと言えば閉鎖的になってきており、集団の中での生活、友達作りには園生

活が大事な役割になる。このような状況を踏まえて、園児個々のことを考えた先生の取組が、先生の評価から感じられる。今後とも一層の活動をよろしくお願いします。

- ・園へ訪れ、子ども達の様子、訪問者に対しての呼びかけの受け答えに対しての子どもの様子を見てみると、とても明るく、誰にでも話しかけてきてくれる子ども達。のびのびとした様子等を見てみると、遊び、園での生活に満たされているのかなと感じている。子どもらしさ、一人一人が個性を持って自分らしさを出せる園の取組が出ているのではないかなと思う。
- ・保育室に並んでいる掲示物は、園児が自分の作品と他の仲間の作品を比較することによって、仲間の良さを受け入れることができる、有効な手段だと思う。
- ・活動で使ったものが、きちんと整頓されていた。園児が自ら使ったものを元へ戻すことができるように、片付けのしやすい収納の工夫が見られた。
- ・廊下や室内のロッカーに、いつも手に取って遊べるように、用具などが整理しておかれていることがよい。
- ・天狗の丘の公園の仮想の友だちとの交流を柱として、運動会の一連の流れが構成され、園児が協力して運動会を成功させようとする意欲を引き出す工夫がされていた。
- ・骨折のために運動会当日競技に出られない園児が、主任の指導のもとアナウンスをしていた。突然のけがで出られなくなった園児が、こうした形で参加できたことは、本人はもとより、保護者の方にとっても忘れられない良い思い出になったと思う。園児や保護者の立場に立った臨機応変な指導に、有り難い思いでいっぱいになった。
- ・園の室内経営を見せていただくと、随所に工夫がされ保育環境の充実を実践していただいています。寒暖の差はあっても四季の移ろいの間隔は薄れつつあります。四季それぞれの良さを日々の生活の中で感じられてこそ豊かな感性は磨かれていきます。また、豊かな感性は表現力を豊かにします。特別なことでなくても些細な積み重なりが育ちには必要です。今の時代は、ありきたりなことを意識して設定したり取り組んだりしなければなりません。多岐にわたる配慮で、一人一人の思いに即した充実した保育を実践していただいています。そのための改革にも取り組んでいただいています。いそがしく追われる日々の中で、立ち止まり振り返りながらより良い歩みを推進し、個々の子どもたちの育成にご努力いただいています。

4 健やかな体と豊かな心の育成・・・・・・・・・・評価

3.7

視点① 心身ともに健康で安全な生活が行われるよう環境づくりを工夫している。

- ・限られたスペースの中での生活だったが、園庭ではのびのびと遊ぶ子どもたちが印象的だった。
- ・今年度の研究テーマでもあり、自然環境が少ない中、創意工夫された運動遊びを園児たちが仲間と楽しく、いきいきと遊び三昧している姿がみられた。
- ・子どもたちの一日の生活を通して、健やかな体と豊かな心を育成している継続的な取組は非常によい取組である。その中で、常に子どもたちの変化に気づき、常に子どもたちに寄り添いながら保育活動をお願いしたい。
- ・自然体験を通して、物の成り立ち、友だちづくりや人に対しての思いやりを培う機会を年間行事の中で展開しておられる事に先生たちの苦労が伺える。
- ・園の自然環境を生かしつつ与えられた場所を有効活用できるように、工夫をした保育の推進は、園児の豊かな成長に大いに生かされています。運動会で見せてくれる頑張りの姿に、先生方の並々ならぬ指導と配慮があることを思い、先生方一人一人が持つ力が相まって相乗効果を生じ、保護者、地域の方々に感動を与えてくれているのだと思います。

視点② 自然や動植物、絵本や物語等に親しむ機会を個々や集団に合わせて取り入れている。

- ・季節ごとの生き物を探して飼育したり、野菜を育てたり、子どもはとても楽しそうで家でもよく話をしてくれた。
- ・栽培を通して食への関心を高めることができ、親子栽培や園での栽培した野菜体験は子どもたちはよい体験をしたと思う。
- ・弱っている鶏の容態を園児の五感を使って感じ取らせながら、鶏の命の大切さや話しかけることの大切さ等を通して、慈しむ心を培っておられるように感じた。

視点③ 自然環境にかかわり動植物などの飼育・栽培を通して、自然の不思議さやいのちの大切さに気づく取組をしている。

- ・飼育活動を行うことで、鶏が病気になった時、みんなで心配したり、見守ったりして思いやりの心を育つことができた。子どもたちと命の大切さや体の健康について考える機会となり、良い体験になったと思う。
- ・私が子どもの頃、自宅では鶏や牛、豚など飼って世話をした思い出があり、野山や家庭での動植物と関わった体験は忘れがたく、園での鶏の世話や野菜の収穫と、収穫野菜の食事会など、思い出に残る貴重な体験になると思う。また、鶏が病気にかかった時、薬を飲ませて元気になったとの話を聞き、園児たちがその経過を見て薬効果、動物愛護といったところを肌で感じることはできたのではないかなと思う。おそらく保護者の中にもこのような思い出ある方は少なからうと思い、このような体験はぜひ、引き継がれていくことを望む。
- ・園外で自然にふれあう場所が少なくなった中で、和佐川での川遊びをされたことの報告を受け、園外での行動はリスクを伴うが大変良いことだと思う。
- ・自然環境は豊かな地域ですが、子どもたちが安全に活動できる場所や機会となると限られたり、また、準備が必要になったりすると思う。先生方は、地域を知るため研修されたり工夫されたりよく努力されていると思う。
- ・様々な野菜を立派に育てられていて、びっくりした。また、それらを使ってカレーや漬物等を作ったり、染め物をしたりしていて、こうした活動は、自然の素晴らしさはもとより、食育等、多くの成果をもたらしていると思う。
- ・保護者のアンケートに、ウサギが亡くなったことが書かれていたが、ウサギの寿命はそれほど長くなく、必ず死は訪れるものである。その死に直面したとき、どのように生命について知らせ、対応していくかが、豊かな心の育成に通じると思う。

視点④ 身近な大人や友だちと一緒に、調理したり食べたりする楽しい食体験の工夫に取り組んでいる。

- ・地域の人たちと一緒に作物を作り、収穫したものを調理して食べたりする経験を積んでいて大変良い。
- ・育てた野菜を調理してみんなで食べると、苦手なものも食べられるようになるし、いつもよりたくさん食べられて嬉しかった。
- ・園児たちが育てた野菜等を自分で料理をして食していることで、自然のありがたみを自身で感じ、園児たちの成長に役立っている。
- ・地域の方とのサツマイモの収穫や餅つき、カレーライス作りなど、様々な取組がなされている。本市も核家族のような生活体系が多くなり、お年寄りのもとより、地域の方とのふれあいが少なくなっていると思う。地域のお年寄りも、園児との触れ合いは楽しいと思うので、

今後も感謝の思いを伝えながら、地域のお年寄りを「人材」として、生かしてもらえると有り難い。

5 人と変わる力の育成・・・・・・・・・・・・・評価

3.5

視点① 一人ひとりの子どもが安心して自己表出できるような保育者との信頼関係づくりに努めている。

- ・保育者が子どもの気持ち、不安なことや困っていることに寄り添い信頼関係作りに努められている。
- ・友達と協力して遊ぶ子を目指しておられ、常に大きな声で素直に「ありがとう」「ごめんね」と言え、友達と仲良く助け合って楽しく園生活が送れるよう日々努力されている。特に、集団生活における節度ある行動やトラブルになった時の態度育成（わびる態度・ゆずること・言葉使い等）にも力を入れておられると感じた。
- ・11月に開催された「教育フォーラム」に出席して、当日、当園から5歳児が参加されていて、歌と手話が披露されたが、一糸乱れず行動されていて、日頃の先生と園児との絆の成果だと感動した。
- ・園に慣れない3歳児が、保護者とうまく離れてスムーズに保育室に入れるようにするため、保育室へ続く廊下に遊びを取り入れた工夫があった。また、園児の様子を見て、次第にその遊びをなくしていくステップも考えられていて、細かな配慮に感心した。
- ・先生方が一人一人の個性や家庭環境を受け止め、丁寧にかかわる中で信頼関係がつくられ、子どもたちが安心して自己表現ができるのだと思います。先生方の日々の努力に感謝します。

視点② 子どもが生活や遊びに主体的に取り組み、繰り返して体験できるような環境作りに取り組んでいる。

- ・園児たちは年齢的にはまだ自己表現、分別等成長段階であり個々の園児の性格を把握しての先生の保護者を取り込んでのきめ細やかな対応と指導や、園児仲間での遊びやゲーム、また団体行動を通じて園児たちがいろいろなことを経験し身につけていくことができ、大切だと思います。園ではこれらのことを考えた園内、園外での各種行事を熱心に取り組んでおられる様子が「園だより」で感じ取れます。
- ・様々な子どもたちと触れ合う中で、相手を受け入れることの大切にも丁寧に援助されている。

視点③ 子ども同士が一緒に活動する中で、友だちのよさや自分との違いに気付いたり、互いに認め合ったりする支援を行っている。

- ・両園の子どもたちが一同に生活をする中でいろいろな子どもたちと関わるが増えたことによって、子どもたち同士いろいろな場面にも出会い、自然といろいろな対処法も多くのかかわりで身につけることができたと思う。
- ・同じ作業や運動をするにしても、友達のことを心配して先生に連絡したり、互いに助け合ったりするという習慣ができている。
- ・けんかをした時、自分はこうやって思ったけど相手はどうやったかなと向き合って仲直りに繋げてもらい良かった。自分だけが正しいのではなく、こんな思いや考えもあるということを知ることができたと思う。

- ・こどもというのは障がいがあっても普通に接している。時には手助けをしている。それが自然になっている。ずっとこのまま偏見を持たない人になってほしい。
- ・運動会の種目、リレーの取組を通して、個々の能力の差異を互いに認め、助け合っていくことの大切さ等体験させておられ、その後、園生活の充実にもつながっていったと思われる。
- ・保護者アンケートを見て、多くの方が、先生方の日々の努力に感謝しておられると感じた。子どもの喧嘩に気付いていないという文もあったが、必ずしも、担任が止めることばかりがよいことではなく、いつも目を光らせていても、喧嘩は起こるものである。園生活は社会のミニチュアであり、喧嘩も生じるけれど、どれをどう生かすか、どう対応するか、その繰り返しを学ぶ場だと思う。

平成29年度

小・中学校学校評議員による学校評価

【小学校・中学校集計結果】

4：よくできている 3：できている 2：あまりできていない 1：できていない

1 学校経営全体に関わること・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評価

小学校 3.53

中学校 3.75

視点① 学校の目指す学校像・子ども像は、地域や子どもたちの実態に合っている。

〔小学校〕

- ・先生方の評価から問題が生じたら迅速に対応し、初期の段階から共有・指導されている様子で、取組の成果が伺えます。ただ、保護者アンケートの結果から「悩みや困ったことを担任に気軽に相談できる。」や「学校や担任は、家庭への連絡など連携を図った取組ができている。」の項目がマイナスになった点は、残念に思います。担任の先生の思いが、保護者に伝わっていないように思える点もあり、クラス通信などで先生の思いや方針などを伝えていただけると保護者の不安感も軽減されるのではないかと思います。
- ・地域格差があり、それぞれの家族の価値観も違いがあると思われます。どこも同じように進めていくことは難しいかもしれませんが、子どもたちのことを一番よく知っておられる学校が、正しいと思われることをぶれずにこれからも進めていってほしい。

〔中学校〕

- ・地域の子どもの実態で、何が最も課題なのか、焦点を絞る事が必要だと感じた。あれもこれもと外部から求められることもあるので、それらに全て答えようとするあまり、生徒も教員も課題を意識化することが困難になり、何をしてきたのかが、結果として分かりにくくなっているように感じた。
- ・時代が変わり社会が変化しても、中学校の気質は変わらないと信じる。現状に甘んじることなく、生徒の向上する意欲を耕し、学校の様子を地域に発信し、地域と共に歩んでいる学校の姿を前面に押し出してほしい。

視点② 学校の教育目標、重点目標、学校の様子等を、学校便り等により保護者や地域に分かりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・学校だよりから発信されていることは、とても意義のあるものだと思う。また、教職員が一丸となって、日々取り組んでいると学校を訪問したときに感じる。穏やかに落ち着いた雰囲気がある。
- ・学校だよりについては、学校で取り組まれている様子を文や写真入りで工夫して表現しているので、地域のいろいろな年齢層の住民にも伝わりやすい。
- ・学校側はいろいろな情報を流してくださるが、その受け手にも問題があり、無関心になっているところがある。自分たちのこととして受け取れるようにするにはどうすればいいか地域住民としても考えていきたい。

〔中学校〕

- ・写真などを入れて学校の状況や生徒の活躍が分かりやすくまとめられており、地域・保護者の信頼を深めるのに大いに役立っていると思います。また、校長先生が学校だよりを持って毎月私ども学校評議員宅まで出向き、情報交換に努められるなど、常に信頼される学校づくりを心掛けて行動されている姿勢に敬服しております。
- ・学校の教育目標や重点目標は年度始めに説明いただきました。学校の様子も学校だよりを届けていただけるので、学校に出向かなくても学校に関しての情報はおおむね把握できるので、情報発信については満足です。欲を言えば、各学年・学級の便りも同封していただけると、もっと分かりやすいかな・・・と思いました。

視点③ 校長のリーダーシップの下、教職員が課題を共有し、学校の教育目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・校長先生を中心にある程度の先生方は取り組まれているのではと思います。職員評価の中でも共有はできているとあるが、危機意識にやや差があるとのこと、これは統一していただきたいと思います。
- ・小規模校で先生と児童のコミュニケーションが充分図られている。一人一人の日常の行動も先生が見ておられ、目標と個人の實力との調整ができていると思います。
- ・少人数学校の課題もある中、校長のリーダーシップにより職員もよく課題を共有し、目標に向かって取り組んでいることがうかがえる。特に、地域と連携した取組は、年々充実していることが見て取れる。

〔中学校〕

- ・先生方の熱心な指導力で生徒たちの前向きな姿勢がうかがわれる。生徒アンケート結果から「授業内容がよく分かる」ことの評価が高いことは、学校が楽しく過ごせていることにつながっていると思います。またこのことは、いろいろな方面への波及効果が出てきて、高く評価します。
- ・どのような方法でどのように課題を共有しているかが明確でなく、何を特に一丸となって取り組んでいるかが分からなかった。
- ・校長先生のリーダーシップの下に、小規模校ゆえに全校生徒一人一人に職員の目が行き届いており、子どもたちは恵まれた環境で勉学に励んでいる。

2 自立した人間として生きていくための総合的な力「人間力」を育む教育の充実

・・・・・・・・ 評 価	小学校	3.31
	中学校	3.34

視点① 学校は、あいさつ運動の推進や道德教育の推進、命・人権を大切にする心の教育の推進および「いじめのない学校づくり」に向けていじめの未然防止・早期発見・早期解決に積極的に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・「教科学力」と「学級力」は強い相関関係があり、「学級力」は目標を達成しようとする「やりぬく力」と「つながる力」で成り立つと聞きます。教室での学習場面でもそうした二つの力がある学級では、教え合い学び合いが成立し、落ち着いた、安心できる、規律ある環境で集中した学習が成立することから、学力向上に効果があるといわれています。授業参

観をさせていただいて、いくつかの学級で感じることができました。この学級力を高めていくことは、また、「いじめ」のない学級を作ることにも繋がると考えます。

- ・挨拶は、人との関わりの中で欠かせないものです。保護者、子どもたち、共にアンケート結果が、去年比マイナスになっており、地域においても挨拶すると返ってきたり、返ってこなかったりいろいろです。中学・高校になるとできてきたりして時期的なこともあるのかもしれませんが、学校・保護者・地域が良い手本を示せるよう、気持ちの良い挨拶に心掛けていけるとよいなと思います。
- ・心の教育は何よりも大切なことと考えるが、一朝一夕に学校で培えるものではない。就学前の家庭教育、日々のしつけの中で本質ができ、学校の授業（道徳）や学級指導においては、その確認・反省を、そして日常生活への反映へとつながるのではないだろうか。日々、友達の中でもまれることによって体験し、教師のアドバイスの中で成長していったほしいと思う。

〔中学校〕

- ・生徒さんと出会っても、気持ちよく挨拶を交わし、地域の一員としてふれあえる自然さが心地よいです。
- ・安全で居心地のいい学校というのは評価から読み取れるが、教職員と保護者の考える「学校が楽しい」は異質な部分もあるということを理解するべきである。
- ・挨拶や礼儀正しさ、人権を大切にする姿勢が見られる一方で、生徒自身の評価にもあるように、積極的に自己表現する点が少し弱いかなと思います。

視点② 学校は、児童生徒が社会性や規範意識を身に付け、望ましい勤労観や職業観を育てる系統的なキャリア教育に努めるなど、自己指導力を培う教育に積極的に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・少人数の学校であることを生かし、縦割りの活動に力が入れられていて、他学年との交流が深められているのがとても良いところだと思います。高学年が下の学年をまとめながら行事を引っ張っていく経験を繰り返し、その中で身に付いていくものがあることをわが子の姿やなかよし活動等の様子を通して感じました。
- ・今後も挨拶や掃除が自らしっかりとできる子どもを育ててほしいです。社会常識やルールは家庭で教えることが難しくなっているようにも思うので、よく考えさせ、時には厳しくしっかりと守れる子どもに自信をもって育ててほしい。
- ・「あいさつ運動」は長年見てきましたが、本当に表面的なもので子どもの内面に浸透していないと思います。実際、登校班の集合場所で自分から挨拶する子は一人もいません。こちらから声をかけても反応に困る子どももいます。また、親の影響がひどいのでしょうか、道の真ん中を歩くことに抵抗のない子どもが多く、「車が来たよ。端によって。」という言葉に反応できる子も少なく、学校の中だけのおりこうさんにがっかりします。学校の限界はあるかもしれませんが、親も祖父母も残念な人が多い現代であるからこそ、最後の砦となる学校に期待します。

〔中学校〕

- ・スマホの普及により学校や家庭生活への弊害が増大してきている。誤った使用が、犯罪やいじめにつながり、他人に迷惑を掛けたり心を傷つけたりすることを生徒に理解してもら

う取組がこれまで以上に必要である。

- ・気持ちよい挨拶ができる子どもたちが多いと感じています。先日も下校の生徒に「お帰り」と声をかけると「ただいま」と大きな声で返事をしてくれました。お互い気持ちの良いものです。挨拶は人との出会い、様々な関わり合いやつながり、そして別れなど、人生においてなくてはならない重要なコミュニケーションです。子どもの頃から挨拶の意義と必要性を理解した上で、挨拶習慣が学校だけでなく家庭や地域でも実践されることを願っています。
- ・職場体験、福祉体験、地域学習の体験、ボランティア活動などに積極的に参加することで、社会性や勤労観を育てる活動の場が多いのはよいと思います。

視点③ 学校は、児童生徒が運動やスポーツに親しみ、体力の向上を目指す教育の推進に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・マラソン大会では、最後まで走りきる姿を見て、素晴らしいと思いました。感動しました。自分に負けないうまい精神が養え、体力作りになるよい取組と思います。たてわりでの活動をされていることは、良いことだと思います。(低学年・高学年役割制の中から成長できる。)
- ・体育科の5, 6年の合同授業は、小さな学校ならではのなと思います。特に5年生は8人なので、多人数で学ぶ機会が増えるといいなと思います。
- ・運動、スポーツの活動は素晴らしいと思う。一人一人一生懸命取り組んでいる様子が見える。

〔中学校〕

- ・体育祭は少人数ながら楽しく見応えのあるものでした。
- ・スポーツに親しみ、体力の向上を目指す取組が少なかった。
- ・生徒数が少なくてもできるスポーツに親しみ、学校だよりで頑張りの様子を知ることができます。

3 個性を生かしつつ一人一人に確かな学力を育む教育の充実

..... 評価

小学校	3.38
中学校	3.38

視点① 学校は、市や全国の学力学習状況調査の結果を分析し、児童生徒の実態に応じた学力向上策を立て、基礎基本の定着と確かな学力を育む教育の推進に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・学校では限られた時間の中で先生方がそれぞれ工夫しながらたくさんの子どもの学習やいろいろな活動に取り組んでくださっています。また、子どもたちが弱い力を伸ばすために興味関心をもてる、自主的に参加学習できる学習指導も実践してくださっていると思います。
- ・学習意欲が少しでも持てるよう興味深い指導がしていただければと思います。タブレット、テレビ等の利用は今の時代に合っていると思います。特に学力の低い児童についての学習方法等課題ではないか、家庭との連携が難しいこともあると思うが、助けてあげてほしいと思います。

- ・どの学年においても共通の約束事を大切に、授業が展開されているように感じる。全国学力調査の経年比較については、児童数が少ないこともあり、たった一人の評価が1ポイント上がるだけでも、数字の上では大きく反映されるため、細かすぎる分析はあまり意味がない。

〔中学校〕

- ・家庭学習の手引きを作成したり、テスト前や長期休業での個別指導の充実を図ったりするなど、生徒一人一人の学力向上のために、学校全体として取り組みを推し進めていただいていることを大変有り難く思います。今後は、校長先生がおっしゃるように知識・理解だけではなく、思考力や発想力、表現力やコミュニケーションの能力など総合的な学力を身に付けさせるための授業改善を組織的に推し進めていただきたいと思います。
- ・家庭での学習時間の減少を防ぐために「家スタディ」の推進や「家庭学習の手引き」の活用など工夫して取り組んでいる。引き続き家庭と学校が協力し、生徒が自主的に学習に取り組める環境づくりに努めてほしい。また「学校任せ」ではなく、学校と家庭の役割の違いを保護者に啓発する必要がある。
- ・学力は、家庭での良好な親子関係や生活習慣の確立が大切だと思うので、家庭との連携を一層深めてほしい。

視点② 学校は、少人数指導等きめ細かな学習指導の工夫改善に、学校全体で取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・参観で、そっと寄り添う教師を見た。その後、その子どもが手を挙げ、生き生きと発言していた。ありがたいです。
- ・個別学習に近いきめの細かい見極めで学習を進めるということは、弱点を作らない確実な学習効果が現れると思う。さらに、自ら学ぼうとする向上心、意欲が持てるようになれば素晴らしいと考える。
- ・心豊かになる掲示物や教えて教室、読み聞かせ等生活のいろいろな場面を有効に活用されて、学ぶチャンスを作っておられ、先生方の負担は大変だと思いますが、子どもたちの力になっていると思います。
- ・一人一人の子どもと真剣に向き合い、一つ一つしっかりと問題解決しながら成長してもらうためには、時間と先生の数が必要だと思います。

〔中学校〕

- ・多くの授業で、少人数指導がなされていて個別指導の充実にも努めておられる。学力低位の生徒の向上が期待できる。
- ・学習は他者との比較ではなく、自らができなかったことができるようになる、解らなかったことが解るようになることで、楽しみや向上心を育むことが大切です。アンケート結果から、学習意欲は高く向上心があることが伺えます。
- ・少人数指導を実施しても、なかなかそれが機能していかないため、個々への対応がおろそかになってしまっている面もあるのではないかと。

視点③ 学校は、読書活動の推進や児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むため、言語活動の充実を図る取組を行なっている。

〔小学校〕

- ・時間に限りがある中で、読書活動や書く力を育てる活動、英語モジュール学習など進められていて、よく続けていると思う。継続することはきっと何かの力となって子どもたちの身に付くことだろう。
- ・読書活動の推進により、いい本が身近にあり、いつも手にすることができる環境があるのはとても良いことだと思います。本を読むこと、読み聞かせをしてもらうことが定着し、今後もたくさんの本に出会って、視野を広げ、学ぶ意欲を高めていってほしいと思います。
- ・アンケート結果で、思考・判断・表現力の項目が少し気になる。授業等で人と関わり、相手の考えに同意・尊重しつつ、異なる意見を述べ合う「対話力」をつける取組が大切と思う。

〔中学校〕

- ・授業で図書館職員から本の紹介を受け、英語原書で物語を読むことへの興味を高め、その後、廊下に本が展示されているのを拝見し、意欲を高めるための取組を感じます。
 - ・「書く」表現力については、何とかできているように思いますが、自分の意見や考えを「話す」方の表現力はできていない子どもの方が多いように思います。

視点④ 学校は、体験的な学習や問題解決的な学習を重視した教育の推進に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・朝ドリルや教えて教室の実施など学力向上に工夫されている様子がうかがえます。「継続は力なり」を身を持って感じ、「やればできる。」と自信を付けて、学習意欲の向上につなげていってほしいです。主体的に学ぶ力をつけるための授業を今後も続けてほしい。
- ・厳冬の寒い中、保護者や祖父母が 90 名ほど参観しており、各学年 4 名ほどの小グループで地域の伝統的な生活や福祉など、自分たちで決定したテーマに沿って学習した成果を参観者の前で元気よく発表しており、アクティブ・ラーニングの実践を行っていることに驚いた。
- ・授業内容も様々な工夫があり、最新機器を取り入れ、分かりやすくされていると思います。ただ、子どもたちに「考える力」がついているのかというとやや疑問です。学習方法の確立がなされても習得されなければ、形ばかりになってしまうように感じます。登校班や学童で見かける子どもたちからは「おっ」と思えるところがなかなか見られないように思います。ただ、根気よく考える機会を与え続け、刺激を与え続けることは学校にしかできないことだと思います。

〔中学校〕

- ・学習参観をさせていただいている中では、体験的な学習や、問題解決的な主体的な学習の場面を拝見することができなかった。

視点⑤ 学校は、保幼小中の校種間の滑らかな接続を図るための様々な連携を積極的に進めている。

〔小学校〕

- ・「学びに向かう力推進事業」の取組もあり、保・幼・小・中の連携について、1年生や6年生だけでなく、他学年も取り組んでいることが素晴らしい。
- ・ユニバーサルデザイン教育の更なる充実と、課題については保護者との個別的な意見交換も必要と思われます。
- ・保幼小中の職員の交流は大切です。もっと機会を増やしてください。
- ・運動会では、卒業生がスタッフとして頑張ってくれましたが、雨天順延で残念でした。平成30年度運動会を期待します。

〔中学校〕

- ・認定こども園、小学校での運動会時のボランティア活動は、こども園、小学校の子どもたちの今後の中学入学への夢、期待にもつながるのではと感じます。
- ・保幼小中の連携については、学校行事に参加してもらったり、ボランティアに行ったりするなど、うまく進められていると思います。
- ・体育大会や文化祭の開催時における保幼小中間の交流連携が良くできていると感じた。

4 教育的にニーズに応じた特別支援教育の推進・・・・・・・・ 評価

小学校	3.33
中学校	3.33

視点① 学校は、特別支援教育推進のため、管理職およびコーディネーターを中心に、組織的に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・特別支援教育・不登校対応コーディネーター担当教員のリーダーシップの下に、組織的に取り組んでいるようで、特別支援学級の子もだけでなく、普通学級の中で課題を持つ子どもへの配慮も見られ、職員が一丸となって取り組んでいる様子が見える。
- ・個性豊かな子どもたちと関わっていくことは本当に大変です。また、それぞれの保護者の方の心の支えにもなっていかなければならず、ストレスも多いことと思います。先生方や子どもたちの心のケアがいつでもできるようになればと思います。(コーディネーターの先生がおられますが、いつでも相談できるように)
- ・保護者とコーディネーターとの信頼関係がうまくいっているように感じました。教員のケアも努力されていると思います。

〔中学校〕

- ・特別支援教育は障がいを持つ生徒や担任など、一部教員だけではなく、学校全体の課題として研修や実践に取り組むことが、全ての生徒に対する指導力の底上げにもつながると思います。多忙な学校現場ではあると思いますが、今後も学校としての組織的な研修の一層の深まりと広がりを期待しています。
- ・授業参観をさせていただき、細やかに指導体制ができていると思いました。私たちは、ほんの短い時間だけの参観のため、通常の様子は分かりませんが、関わられている先生方は大変な時もあると思います。ただ、一番辛いのは生徒自身です。どうかそこを御理解いた

だき、温かいサポートをお願いします。

- ・校内研修や日々の実践においてしっかりした取組がなされており、周囲の生徒たちも障がい者への理解も徐々にできているように思います。
- ・特別支援教育の研究もかなり進んできていると聞いていますが、生徒たちに正しく理解し認識し、指導していくことに努めてほしい。

視点② 学校は、生活や学習上の困難を克服するための適切な個別の教育的支援を行い、個々の能力を最大限に伸ばす指導を行っている。

〔小学校〕

- ・我が子は1年生の時から続けて通級でお世話になっています。子どもの苦手なこと、課題など丁寧に話を聞いていただき、個別の指導やクラスの中での支援等、その時々に応じて子どもに必要な支援をして頂いていることをとてもうれしく思っています。学校に通級の教室があるからこそ、より様々な形での支援をしていただけるのだと思います。難しいことかもしれませんが、このような支援の場が各学校におかれることが理想だと思います。
- ・必要な支援の具合が多様化していて、個々の能力を引き出すためにいろいろな対応が必要となり、先生方の負担は大変なものだと思いますが、特別支援教育を受けている子たちが社会に出たとき、少しでもたくましく頑張れる力を付けていただくようお願いします。
- ・6年ほど前、わたしの長子がお世話になっていたころとは比べものにならないほど、特別支援の分野が発展したと思います。手厚い対応をされていると感じます。一方で、診断に至っていない子ども、家庭全体が支援を要するが介入しづらいケースなどで対応がなされていない子も目にします。本人、保護者の理解なしには踏み込めないデリケートな部分もあるかとは思いますが、社会で「やりづらさ」を感じる方、適応できない方を目にとすると、早期に対応された子どもは幸せなのだと感じます。

〔中学校〕

- ・様々な障がいや症状があり、支援の仕方もそれぞれに違うこともあり、大変難しいと思います。周囲の理解（特に子ども同士）も重要なポイントですし、コーディネーターの配置数や質の向上についてもその生徒の将来に大きく関わってくるのではないかと考えます。
- ・在籍する生徒については、将来を見据えた指導をしているが、反面、保護者はどうしてよいか分からず悩んでおられるケースも少なくないと思う。そういった保護者への対応や支援の手立てに対して、一部の教職員に頼らず、組織的な対応が必要だと思う。
- ・特別支援学級に在籍している生徒以上に、通常学級に在籍している発達障害等で気になる生徒、生活や学習上での困難を支援できる体勢をお願いします。

5 地域に根ざし地域に開かれた信頼される学校の創造・・・ 評価

小学校	3.55
中学校	3.55

視点① 学校は、地域の人材を生かした学校運営と学習活動の工夫に積極的に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・地域の方を招いたり、地域に出かけたり、地域とつながりながら、学校づくりをされていると思います。中でも、何年も続いている高校との連携は、小学生にとっても高校生にとっても良い経験だと思います。今後も続けてください。

- ・学校は地域との関わりを拡げ、深めるためにいろいろな活動をしてくださっていますが、なかなか地域の住民の意識が育っていません。子どもたちが地域の中で活動しその一員として認められることにより、その背景にある学校にも目が向けられていくと思います。学校と地域が話し合い、そういった活動ができればいいですね。
- ・地域の方が学習ボランティアとして色々な場面で関わってもらえることは、うれしいことだと思う。担任の先生方も地域の方へ、アプローチしていくことが大切だと思う。

〔中学校〕

- ・里山体験や校外学習、地域の先人を講師に迎えた学習・体験指導等を積極的に受けるなどの取り組みを強めているのが評価できる。
- ・郷土愛を育てるためにも、地域の歴史や文化・行事を知ることは大切です。地域の方を講師に迎えて学ぶことも必要かと思います。
- ・一部の人だけでなく、地域の人たちが中学校に携われるようになり、生徒を見守る機会が増えるといいですね。

視点② 学校は、郷土の自然や文化・伝統を生かした教育活動の推進など特色ある学校づくりに取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・郷土愛を育むための郷土の自然や文化・伝統について、体験を踏まえた教育活動は大いに評価できる。郷土愛こそが地域活性化に欠かせない。
- ・歴史ある相撲大会が続いている。今年度は女子の土俵入りも取り入れられ、多くの応援があり素晴らしいです。
- ・低学年のころから様々な勉強や行事地域の中に繰り返し出ていき、歴史や仕事等を通して自分の住む地域のことを学び、親しみが感じられるように機会がつけられていることを感じます。

〔中学校〕

- ・地域は、学校に子どもを預けるという意識があり信頼も厚い。このような風土が崩れることなく維持される営みが期待される。そのような地域に根ざした教育活動を望む。
- ・先日、米原市青少年育成市民会議の中で、中学校生徒の自主的なボランティア活動が紹介されていました。生徒たちを「やる気」にさせた教師の方の指導も素晴らしいと思います。
- ・文化祭での地域の伝統を取り入れた発表、地域での清掃活動参加等、積極的に取り組んでいると感じます。
- ・学校の教育目標にも挙げていて、積極的に地域のイベントや人々に接する場を設けている点は、大いに評価できると思います。

視点③ 学校は、安全・安心な学校づくりに向け、職員研修の実施や家庭・地域・PTA との連携による取組により、児童生徒の安全を確保している。

〔小学校〕

- ・子どもを取り巻く大人一人一人が、課せられた責任を果たすことで、保護者同士や学校との信頼関係は生まれます。しかし、授業参観や学習発表会等の親の姿を見るにつけて、学校との信頼関係が生まれるとは思えません。親指導の必要性を感じます。親が学校に来る時の服装（ゴム草履で参観する親）、授業参観のおしゃべり、もう少し、公私のメリハリがほしいと感じました。PTA 講演会や教育フォーラムの中で「親子の関係性」をテーマに

した親の在り方について、親に投げかけるような取組が必要であると思います。「挨拶」についても、家庭で躰けるべきものであると思います。学校に委ねることは本末転倒といえます。学校では、集団を通してどのような力、躰をするのか、ではないでしょうか。

- ・スクールガードとして、子どもたちに接する機会（特に下校時）があり、子どもたちから「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」の声がかかる子は限られており、むしろ中学生の方からは進んで挨拶する子がいる。自分から進んで、関わりのある人たちに「あいさつ」ができるように育ってほしい。
- ・下校時、バラバラと帰ったり、1人で歩く児童も見かけたりします。いろんな事件も多いですし、不審者情報もあります。いつ事故に巻き込まれるかわかりません。下校時の集団下校、1人にならないなど今後も指導お願いします。

〔中学校〕

- ・習慣化した学校生活を送ることも大切ですが、昨年開催された先輩社会人との交流や外部講師によるお話や指導など、地域の方々を活用して、子どもたちが新たな発見や思いを抱ける授業を推進していただきたいと思います。
- ・各字担任があるようだが、その先生方が通学路の危険箇所を知っておられるのか、去年は、一度も登下校に先生方を見かける機会がなかったように思う。
- ・地域や自治会組織などの話し合いの場が、「挨拶ができていない」「自転車のマナーが悪い」などの苦情を言う機会になりがちのように感じる。これは地域の意識にも問題があると思う。

視点④ 学校は、学校支援地域本部事業を活用し、地域コーディネーターを中心に学校を支援する体制づくりに努め、積極的に地域に働き掛けている。

〔小学校〕

- ・高校生の方とのスポーツ交流をしたり、今年は、運動会に中学生の陸上部のリレーを見せていただいたり、近隣と連携して取り組んでいただき、子どもたちもあこがれや希望を持てると思います。
- ・地域の人材発掘については、各学級を取組や学校行事等全体を取組の中で、その都度地道に貯めていき、次の年度へ引き継ぎ、充実させていくことが大事ではないかと思う。きっと、各地域には、素晴らしい人材がおられると思う。
- ・地域コーディネーターの方がおられることを知りませんでした。学校や児童のために何かをやりたいと思ったときに、学校と地域をつなぐコーディネーターがおられることを地域の方は御存知なののでしょうか。

〔中学校〕

- ・これまで家庭や地域との連携については、PTA活動、職場体験学習などで一定の実績は挙げられてきたが、本年度においては、かっとび伊吹（マラソン）のボランティア活動など生徒が学校外で地域の活動に貢献することにも力を入れられたことは大変よいことだと思います。今後も生徒の社会性を育み、地域の大人たちの中学生に対する理解を深めるため、中学生が積極的に地域の活動に参加できるような指導や支援をお願いします。
- ・学校では家庭、地域との連携による学校づくりを推進されています。3名の地域コーディネーターさんの活用、保護者との信頼づくりに「教育のつどい」の開催、開かれた学校づくりのために「フリー参観日」をされています。

- ・積極的な地域参加への取組がうかがえます。アンケートの結果から少し参加率が低いよう
ですから、できるだけ多くの生徒が参加できるよう関係団体等へ働き掛けていただきたい。

視点⑤ 地域に開かれ地域とともに歩む学校として、創意工夫があり実りのある教育フォー
ラムを開催している。

〔小学校〕

- ・地域挙げての教育フォーラムや外部講師の招聘ボランティアの支援等、地域住民が学校に
関心を持つ機会となり、地域で子どもたちを育てようという機運が高まった。
- ・良い学校づくりは良い地域づくりだと思っています。先生を中心に、地域が協力して子ど
もたちを育てることが大事だと思います。
- ・地域に出向き学校運営等の意見交換の場が設けられているか。

〔中学校〕

- ・地域の方々や生徒によって行われた「ワールドカフェ」形式の地域協同本部の事業も新た
に加えられ、地域の方々も生徒と直接ふれあい、意見交流する機会を設定されたことは大
変よかった。
- ・毎年開催の校区教育フォーラムは、教師をはじめ学校関係者や地域の方々にとって有意義
な機会でありますので、もっと多くの方が参加されるよう期待いたします。

米原市立図書館サービス基本計画
平成29年度 内部評価

1 市民の多様な資料要求に応える図書館				
指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	目標 (H33)
(1) 市民一人当たり図書館貸出冊数	11.5冊	10.9冊	10.5冊	12冊
(2) 蔵書更新率	3.9%	3.4%	4.6%	4.7%
(3) レファレンス満足度	40.5%	37.0%	42.5%	50.0%
(4) 市民の実利用者率	16.1%	15.4%	15.2%	17.3%
(5) 受入雑誌タイトル	216誌	225誌	232誌	220誌
(6) 県内外図書館との相互貸借件数(借受数)	1,547冊	1,687冊	1,531冊	1,600冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	蔵書更新率を上げることができました。主な要因は、近江図書館の除籍冊数が増加したからです。今後も、計画的な除籍と収蔵スペースの確保に努めます。 レファレンス満足度を上げることができました。レファレンス件数も増加している中で、満足いただける資料を提供することができました。 雑誌スポンサー制度の取組や寄贈雑誌が増え、受入雑誌タイトル数は増加しました。
----	---

課題	市民一人当たり貸出冊数、実利用者率（1年間に図書館の貸出を利用した市民の割合。来館者の割合ではない。）ともに前年度よりも低い結果となりました。貸出冊数の増加と、未利用の利用者を含めた幅広い利用を促すことが課題です。 また、県内外図書館との相互貸借件数を増加させるよう、内部研修等を実施する必要があります。
----	---

2 市民の生活に密着し、地域の課題解決に役立つ図書館				
指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	目標 (H33)
(7) 郷土資料・行政資料の受入れ件数	206冊	413冊	386冊	250冊
(8) まちづくりに関する資料の貸出冊数	— 冊	530冊	423冊	500冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	B	(参考 前年度)	A
------	-------------	---	----------	---

成果	前年度に続き、郷土資料・行政資料の受入れ件数は目標を大きく上回りました。 両図書館において、地域に関する新聞記事を収集しました。
----	---

課題	郷土資料・行政資料を受入れて保存することは公共図書館の大切な役割なので、引き続き多くの資料を受入れできるよう努める必要があります。 まちづくり本コーナーは、新刊の受入やPRに努める必要があります。
----	---

3 だれもが進んで利用できる安心・安全・便利な図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	目標 (H33)
(9) インターネットからの予約件数	12,207件	13,679件	12,864件	13,000件
(10) 大活字本の貸出冊数	1,356冊	1,227冊	1,282冊	2,500冊
(11) 高齢者福祉施設への貸出冊数	1,624冊	1,780冊	1,074冊	3,000冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	B
------	-------------	---	----------	---

成果	インターネットからの予約件数は目標に近い数値になりました。新刊情報を毎週更新するなど引き続き新鮮な情報が掲載されたウェブサイトの維持に努めます。
----	--

課題	大活字本の充実とPRが課題です。 高齢者施設への団体貸出については、他課との連携を図り、PR方法を検討していく必要があります。また、高齢者へのPRとして地域サロンとの連携を進めることも重要です。 日本語を母語としない人へのサービスは、関係団体等との連携を進める必要があります。
----	--

4 子どもたちの読書活動を見守り、支援する図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	目標 (H33)
(12) 出前講座実施回数	18回	18回	18回	20回
(13) 児童書個人貸出冊数	170,031冊	166,459冊	163,707冊	171,000冊
(14) 児童書団体貸出冊数	14,382冊	12,206冊	17,172冊	16,000冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	B	(参考 前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	平成29年度から新1年生への図書館利用カード配布を始めることができました。希望する児童に利用カードを発行することで、利用カード所持率は48%から88%に増加し、夏休み以降の図書館利用促進につなげることができました。 出前講座は、小学校や園などからのご要望に応えることができました。 貸出冊数は減少していますが、ボランティアとの協力により子どもの読書活動支援を行うことができました。 巡回文庫は12月に事業終了しましたが、絵本のセット貸出等で子どもたちの読書活動を支援することができました。
----	---

課題	子どもたちの読書活動を推進するため、図書館の児童サービスの充実と学校図書館との連携などに力を入れる必要があります。
----	---

5 地域の人たちとの協力・協働でめざす、交流の場となる図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	目標 (H33)
(15) ボランティアと活動した回数	79回	78回	84回	90回
(16) 図書館講座の開催回数	5回	6回	5回	6回

内部評価	(A～E 5段階評価)	B	(参考 前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	おはなし会、図書の修理、イベント準備、蔵書点検等、ボランティアの皆さまに御協力いただき、実施することができました。 おはなしボランティアと芸術の会との協働で、長谷川義史&おおたか静流&大友剛「いのちのコンサート」、加藤啓子絵本講座、村上康成絵本原画展&ワークショップを開催することができました。地域の人たちに講師になっていただく図書館講座も予定どおり開催することができました。
----	---

課題	地域の人たちの交流の場となれるよう、利用者の声を大切にし、工夫を重ね、市民との連携・協力により今後も継続して市民力のある図書館運営に努めていきます。
----	--

6 専門性を持った職員によるサービスが保障される図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	目標 (H33)
(17) 職員の研修等参加回数	20回	9回	18回	20回
(18) 職員対応満足度	82.5%	78.7%	77.5%	90%

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	D
------	-------------	---	----------	---

成果	滋賀県立図書館で開催された研修にのべ7人が参加することができ、その内容を全職員で共有することができました。 おはなしグループとPRグループに分かれて実践的な研修を年間を通じて実施し、成果物を作成することができました。
----	---

課題	職員対応満足度を上げるため、接客の研修を実施するなど、組織としてのスキルアップに取り組むことが課題です。また、職員が外部研修等に参加できるような体制を維持することが課題です。
----	---

7 山東・近江2館の個性を生かす図書館

指標	現状 (H27)	実績 (H28)	実績 (H29)	目標 (H33)
(19) 市民が1年間に読んだ本の冊数	20.4冊	—	—	24.0冊
(20) テーマ特集展示回数	330テーマ	357テーマ	346テーマ	330テーマ
(21) 若年層の貸出冊数	109,899冊	100,060冊	87,732冊	120,000冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考 前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	山東・近江2館で季節感や話題性など読書提案をするテーマ特集に取り組むことができました。また、若年層等をターゲットにした暮らしの本の紹介冊子『スキナモノ。』を発行し、掲載本などたくさんご利用いただくことができました。新成人におすすめの本や図書館の利用案内を掲載したリーフレット『お祝い』も発行し、配布することができました。山東図書館においては、写真を撮りたくなるフォトブースを設置し、若年層へのPRに努めることができました。
----	---

課題	若年層（19歳～39歳）の貸出冊数を伸ばせるように、情報収集により努めることが課題です。
----	--

米原市教育振興基本計画（目標指標）

基本目標１ 心豊かでたくましく生きる力を育む教育を実現します

施 策	指 標 名	現状値 (平成 28 年度)	現状値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 33 年度)
1 就学前の教育・保育の充実	待機児童発生数	5 人	0 人	0 人
2 確かな学力の向上	総合学力調査「読む能力」の正答率	小学校：44.4% 中学校：52.0%	小学校：42.8% 中学校：70.5%	小学校：70% 中学校：65%
	図書館の児童書貸出冊数	166,459 冊	163,707 冊	171,000 冊
3 豊かな心の育成	長期（年間 30 日以上）欠席率（小学校・中学校）	小学校：0.48% 中学校：1.87%	小学校：0.49% 中学校：2.19%	小学校：0.5% 中学校：2.4%
	学力・学習状況調査「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合	小学校：96.4% 中学校：89.7%	小学校：95.5% 中学校：94.1%	小学校：100% 中学校：100%
4 健やかな体の育成	子ども（小学 5 年生）の体力・運動能力テストの体力合計点	男子：50.4 女子：53.8	男子：50.75 女子：50.70	全国平均を上回る
	体力・運動能力調査「持久走」の県平均を上回った学年数（中学校）	全学年	男子 4 学年 女子 6 学年	全学年
	体力・運動能力調査「50m走」の県平均を上回った学年数（小学校）	男子：2 学年 女子：6 学年	男子：2 学年 女子：3 学年	男子：4 学年 女子：4 学年
5 地域の良さを生かした特色ある教育の推進	「ふるさと 3 事業」実施校園率	80%	78%	100%
	学校給食に地場産物を使用する割合（食材数ベース）	36.9%	42.0%	35%
	総合学力調査「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」児童生徒の割合	小学校：57.1% 中学校：50.3%	小学校：36.3% 中学校：43.1%	小学校：45% 中学校：35%

基本目標２ 学校・家庭・地域がつながり、協働して地域全体の教育力を高めます

施 策	指 標 名	現状値 (平成 28 年度)	現状値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 33 年度)
1 子育て支援と家庭の教育力の向上	家庭児童相談対応ケース数	317 件	233 件	対応率 100%
	子育てをテーマにした講演会の参加者数	271 人	250 人	300 人
2 子どもの育ちを支えるコミ	学力・学習状況調査「地域の行事に参加している」児童生徒の割合	小学校：84.1% 中学校：54.4%	小学校：80.7% 中学校：59.5%	小学校：88% 中学校：65%

ユニティづくり	冒険遊び場の設置数	3 か所	4 か所	5 か所
3 青少年の健全育成	子ども会事業への参加数 放課後児童クラブの設置数	3,845 人 (県子連 50 周年事業 共催に伴う増) 9 か所	429 人 9 か所	500 人 10 か所
	あいさつ運動実施率	100%	100%	100%
	少年補導委員街頭補導活動回数	913 回	1,256 回	900 回
4 学校支援活動や地域活動の担い手の確保	学校地域支援本部事業設置率	66%	100%	100%
	学校地域支援本部登録ボランティア数	346 人	415 人	500 人
	まなびサポーター登録者数	214 人	216 人	145 人
5 地域に開かれた学校園づくり	園運営委員・学校評議員活動平均回数	2.1 回	2.1 回	3 回

基本目標 3 一人一人が大切にされ、安全・安心で質の高い教育が受けられる環境をつくります

施 策	指 標 名	現状値 (平成 28 年度)	現状値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 33 年度)
1 多様なニーズに対応した教育の推進	児童発達支援事業 親子通園開設回数	325 回	337 回	370 回
	子どもケアサポーター派遣人数	44 人	41 人	50 人
2 教育相談・教育支援の充実と学校支援体制の構築	不登校児童生徒数	小学校:10 人 中学校:24 人	小学校:10 人 中学校:24 人	2 割以上削減
	スクールソーシャルワーカー活用実績	8 校	9 校	14 校
	学力・学習状況調査「学校に行くのは楽しいと思う」児童生徒の割合	小学校:87.4% 中学校:81.8%	小学校:84.7% 中学校:87.6%	小学校:88% 中学校:93%
3 安全・安心な教育環境の整備	スクールガード登録者数	887 人	902 人	1,000 人
	「子ども 110 番のおうち」、「子ども 110 番のくるま」設置数	おうち:326 か所 くるま:85 台	おうち:301 か所 くるま:85 台	おうち:350 か所 くるま:110 台
4 適切な教育環境の整備	米原市市民意識調査「教育内容、施設の充実」の満足度	76.6%	81.5%	78%
5 教職員の資質や指導力の向上	教育センター開講講座・研修会延べ受講人数	1,116 人	1,011 人	1,000 人

基本目標 4 生涯にわたって豊かに学び合い、いきいきと活動できる環境をつくります

施 策	指 標 名	現状値 (平成 28 年度)	現状値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 33 年度)
1 生涯学習機会の充実	米原市市民意識調査「生涯学習の推進」の満足度	82.2%	83.7%	85%
	公民館・生涯学習センター利用者数	159,314 人	167,446 人	166,500 人
2 人権文化の確立	地域人権リーダー研修会の参加者数	233 人	264 人	250 人
	ハートフル・フォーラムの実施率	80.4%	79.4%	85%以上
3 地域で活躍する人材の育成	まなびサポーター登録者数(再掲)	214 人	216 人	145 人
	生涯学習まちづくり出前講座年間実施回数	279 回	268 回	300 回
4 図書館を活用した読書活動の推進	市民一人当たり図書館貸出冊数	10.9 冊	10.5 冊	12 冊
5 生涯スポーツの振興	地域スポーツクラブ会員数(延べ人数)	1,143 人	1,142 人	1,500 人
	体育協会加盟人数	2,595 人	2,360 人	3,100 人
6 生涯学習環境やスポーツ環境の整備	米原市市民意識調査「スポーツの推進」の満足度	83% (H25)	85.2%	85%

基本目標 5 米原の自然・歴史・文化の保存・活用を進め、地域文化を育みます

施 策	指 標 名	現状値 (平成 28 年度)	現状値 (平成 29 年度)	目標値 (平成 33 年度)
1 自然環境保全の意識向上	給食センターにおける収穫体験実施校数	2 校	3 校	3 校
	いきいき健康ウォークの参加者数	230 人	154 人	300 人
2 市民の文化・芸術活動の促進	米原市芸術展覧会への市民作品数	188 点	165 点	220 点
	米原市文化協会事業への参加団体数(累計)	140 団体	131 団体	165 団体
	文化協会員数	1,094 人	983 人	1,500 人
3 歴史・文化財の保存と活用	文化財補助事業申請件数	23 件	23 件	25 件
	米原市市民意識調査「歴史・文化の継承と活用」の満足度	83.4%	84.4%	88%
4 歴史・文化に親しむ機会の充実	歴史講座受講者数	53 人	68 人	70 人
	歴史イベント開催回数	14 回	14 回	15 回